

**札幌市まちづくり戦略ビジョン・
アクションプラン 2019**

**パブリックコメント・
キッズコメント意見集**

令和元年（2019年）12月

札幌市

目次

1	パブリックコメント手続きによる意見募集実施の概要 ……	1
2	パブリックコメント（大人の意見）の内訳 ……	2
3	キッズコメント（子どもの意見）の内訳 ……	3
4	意見に基づく当初案からの変更点 ……	4
5	パブリックコメント（大人の意見）の概要と それに対する札幌市の考え方 ……	5
6	キッズコメント（子どもの意見）の概要と それに対する札幌市の考え方 ……	26

1 パブリックコメント手続きによる意見募集実施の概要

「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2019（案）」について、パブリックコメント手続きにより、市民の皆さんからのご意見を募集し、いただいたご意見を参考に、当初案を一部変更しました。

- (1) 意見募集期間
令和元年10月28日（月）から11月26日（火）までの30日間
- (2) 意見提出方法
郵送、FAX、Eメール、ホームページ上の意見募集フォーム、持参
- (3) 資料
 - ・札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2019（案）の本書と概要版
 - ・小学生・中学生向けに内容を分かりやすく要約した子どもの意見募集用小冊子
- (4) 資料の配布・閲覧場所
 - ・札幌市役所本庁舎
2階市政刊行物コーナー／5階まちづくり政策局政策企画部政策調整課
 - ・各区役所（総務企画課広聴係）
 - ・各まちづくりセンター
 - ・札幌市内各小中学校【子どもの意見募集用小冊子】
 - ・札幌市公式ホームページ
- (5) 市民への説明・意見交換など
 - ・若者ワークショップの開催（9月7日（土）、中高生・社会人51名参加）
 - ・シンポジウム&ワークショップの開催（9月16日（月・祝）、75名参加）

2 パブリックコメント（大人の意見）の内訳

(1) 意見提出者数・意見件数

134人・255件

(2) 年代別内訳

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	合計
人数	4	25	28	30	12	11	16	8	134
件数	8	40	36	55	36	18	32	30	255

(3) 提出方法別内訳

提出方法	HP	持参	郵送	FAX	Eメール	その他	合計
提出者数	44	3	5	73	9	0	134
構成比	32.8%	2.2%	3.7%	54.4%	6.7%	0.0%	100.0%

(4) 意見内訳

分類	件数	構成比
第1章 計画の基本的考え方	14	5.4%
第2章 まちづくりの取組	223	87.4%
計画体系・計画事業費	8	3.1%
暮らし・コミュニティ	147	57.6%
政策目標1 互いに支え合う地域福祉が息づく街	6	2.3%
政策目標2 誰もが生涯現役で活躍できる街	135	52.9%
政策目標3 地域の課題を地域の力で解決する街	6	2.3%
産業・活力	43	16.8%
政策目標4 北海道経済の成長をけん引する街	9	3.5%
政策目標5 国内外の活力を取り込む街	27	16.8%
政策目標6 産業分野の人材を育む街	7	2.7%
低炭素社会・エネルギー転換	5	1.9%
政策目標7 自然と共生する環境負荷の少ない街	4	1.5%
政策目標8 エネルギー効率の高い持続可能な街	1	0.3%
戦略を支える都市空間	20	7.8%
政策目標9 世界都市として魅力と活力あふれる街	20	7.8%
各区の取組	0	0.0%
第3章 行財政運営の取組	16	6.2%
行政運営の取組	9	3.5%
財政運営の取組	7	2.7%
その他	2	0.7%
合計	255	100.0%

※表示単位未満で端数整理しているため、合計が合計値と一致しない場合があります

3 キッズコメント（子どもの意見）の内訳

(1) 意見提出者数・意見件数

738 人・1,348 件

(2) 学年別内訳

年代	小4以下	小5	小6	中1	中2	中3	不明	合計
人数	39	71	65	19	43	495	6	738
件数	65	125	160	32	79	877	10	1,348

(3) 提出方法別内訳

提出方法	HP	持参	郵送	FAX	Eメール	その他	合計
提出者数	1	1	705	15	16	0	738
構成比	0.1%	0.1%	95.5%	2.0%	2.1%	0.0%	100.0%

(4) 意見内訳

分類	件数	構成比
第1章 計画の基本的考え方	40	2.9%
第2章 まちづくりの取組	1,267	93.9%
計画体系・計画事業費	0	0.0%
暮らし・コミュニティ	440	32.6%
政策目標1 互いに支え合う地域福祉が息づく街	94	6.9%
政策目標2 誰もが生涯現役で活躍できる街	274	20.3%
政策目標3 地域の課題を地域の力で解決する街	72	5.3%
産業・活力	486	36.0%
政策目標4 北海道経済の成長をけん引する街	168	12.4%
政策目標5 国内外の活力を取り込む街	113	8.3%
政策目標6 産業分野の人材を育む街	205	15.2%
低炭素社会・エネルギー転換	138	10.2%
政策目標7 自然と共生する環境負荷の少ない街	71	5.2%
政策目標8 エネルギー効率の高い持続可能な街	67	4.9%
戦略を支える都市空間	201	14.9%
政策目標9 世界都市として魅力と活力あふれる街	201	14.9%
各区の取組	2	0.1%
第3章 行財政運営の取組	41	3.0%
行政運営の取組	10	0.7%
財政運営の取組	31	2.2%
その他	0	0.0%
合計	1,348	100.0%

※表示単位未満で端数整理しているため、合計が合計値と一致しない場合があります

4 意見に基づく当初案からの変更点

市民の皆さんからいただいたご意見をもとに、当初案から3項目を修正いたしました。また、他のご意見についても、これからのまちづくりを進めていく上で、可能な限り取り入れていきます。

計画事業費

意見の概要	修正内容	市の考え方
各区の取組や特徴などを、計画上もっとわかりやすく示してほしい。	速報版 P. 35 (3段落目追加) さらに、各区の取組としては、身近な地域のまちづくり活動の支援を行う既存の「 <u>未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業</u> 」に加え、本庁所管部局と区が連携して一体的に実施すべき事業や、 <u>区の地域性や特色を生かした事業等</u> について、新たに個別事業として計画化しています(第2章4「各区の取組」P.124～P.163参照)。	7 ページ

政策目標5 施策4 シティプロモート戦略の積極展開

意見の概要	修正内容	市の考え方
東京オリンピックのマラソンと競歩に関する事業についても、この計画に盛り込むべき。	速報版 P. 87 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催事業」 東京 2020 大会サッカー競技の開催を通して、オリンピックの持つブランド力を活用し、市民のスポーツへの関心を高めつつ、世界に対し札幌の魅力を広く発信します。 ↓ 東京 2020 大会のサッカー、マラソン、競歩の開催を通して、オリンピックの持つブランド力を活用し、市民のスポーツへの関心を高めつつ、世界に対し札幌の魅力を広く発信します。	16 ページ

各区の関連事業

意見の概要	修正内容	市の考え方
各区の取組や特徴などを、計画上もっとわかりやすく示してほしい。	速報版 P. 124～163 各区で実施予定の主にハード整備に係る事業を地図付きでまとめた特集ページを追加	7 ページ

5 パブリックコメント(大人の意見)の概要とそれに対する札幌市の考え方

皆さんからのご意見は全て所管部局にお伝えしておりますが、意見集の作成に当たっては、その趣旨を踏まえて端的に要約をしております。また、類似した意見については、まとめて1項目として記載しているものがあります。(次章の子ども意見についても同様です。)

計画書全体

意見の概要	市の考え方
カタカナ言葉や分かりにくい言葉が多いので、用語解説をもっと充実してほしい。(類似意見 1件)	計画書の全体にわたり、極力分かりやすい表現となるよう見直し、専門用語など一般的ではない語句を用いる場合には、事業内容や脚注で説明を加えました。

第1章 計画の基本的考え方

1 計画策定の趣旨、計画の位置付け、計画期間

意見の概要	市の考え方
この計画を作る理由を示してほしい。	2013年度から2022年度を計画期間とするまちづくり戦略ビジョンの実施計画として、現計画であるアクションプラン2015(2015年度～2019年度)に引き続き策定するものです。
計画の位置付けや、上位計画との関係性が不明確。まちづくり戦略ビジョンの中期実施計画がアクションプランであれば、そのように明記すべきであり、説明が不足している。	上位計画との関係性を含めた計画の位置付けについては、P.2「1 計画策定の趣旨、計画の位置付け、計画期間」に記載していますが、今後の市民への周知に当たりましては、一層わかりやすい説明に努めてまいります。

4 札幌市を取り巻く状況

意見の概要	市の考え方
年少人口の増加と正の因果関係持つ要素が何になるのか、精緻な分析をすべき。	年少人口の減少を緩和するため、子どもを生み育てる世代の地元定着や人材還流を促進するとともに、所得の向上や家計負担の軽減に資する取組により、子どもを生み育てたいという市民の希望をかなえ出生率の向上に努めていきます。
人口減少と少子化の原因分析をすべき。	平成27年度(2015年度)に策定したさっぽろ未来創生プランの第2期プランを令和元年度末に策定する予定です。本プランに掲載する基本目標や具体的な施策は、札幌市の人口動態の分析に加え、直近の社会変化も踏まえて策定します。

6 計画体系とSDGs

意見の概要	市の考え方
LGBTの権利保障を進めてほしい。	性的マイノリティの方は、周囲の理解不足による誤解や偏見、さらには自分たちの存在を公に認められていないことを感じ、それが生きづらさにつながっている状況にあります。性の多様性を尊重する取組としてパートナーシップ宣誓制度や電話相談、市民の理解促進を目的とした普及啓発を実施しており、今後も引き続き取り組んでまいります。

意見の概要	市の考え方
SDGsの意味が分からない。経済発展と環境の両立は不可能ではないか。	SDGsは2030年に向けて持続可能な地球を残していくための、国連加盟国193か国共通の目標で、環境・経済・社会に関する全ての分野における17のゴール（目標）を同時に達成していくことを目指しています。 気候変動対策においても、既に先駆的な国においてはCO2を削減させながらGDPを上昇させるなど、環境負荷の低減と経済成長の両立が図られています。
公共交通の利用度を示す成果指標を見直すべき。	ご指摘の指標については、戦略ビジョンに掲げる目標値を既に達成していることから、新たに2022年度時点で「117万人/日を維持する」という目標を設定しました。 今後更に少子高齢化が進むと予想される中ではありますが、公共交通機関におけるバリアフリー化の推進や公共交通の利用促進など、目標達成に向けて取り組んでまいります。

7 基本方針と重点プロジェクト

意見の概要	市の考え方
文化、芸術や教育に関する事業は、どのように費用対効果を評価しているのか。単純な経費だけでの比較や、受益者数による判断にはなじまないのではないか。	事業目標は、客観的に効果が確認できるものを設定することを基本としながらも、文化、芸術、教育など、単純な数値によってのみ評価することが必ずしも適切ではない事業につきましては、行政として継続的に実施する意義や重要性なども含めて、総合的に評価していきます。
計画などの策定プロセスの公開や掲載事業を取捨選択する人材の育成、事業実施時における組織的な責任の所在を明確にしていくことが大切なのではないか。	アクションプラン2019の策定・実施は、計画の策定方針・計画推進の考え方に基づき適切に進めてまいります。
市民一人当たりの所得額が政令指定都市中最下位という現状であるため、市民所得の向上に向けて計画づくりを進めるべきではないか。	街の活力を維持し、札幌の魅力を高めていくため、札幌を支える基幹産業である観光業の振興に更に力強く取り組むとともに、企業誘致や新たな産業の創出などの取組により、市民の所得向上にもつなげてまいります。
人口減少対策が市民に分かりやすく伝わるように重点的取組とすべきではないか。	重点プロジェクトには人口減少対策に資する取組を数多く盛り込んであり、今後の人口減少や少子高齢化など、厳しい時代を迎えても、将来にわたって持続可能な街を実現していくことを、市民に広く周知してまいります。
子ども施策に重点を置いてほしい。	アクションプラン2019では、「子どもを健やかに育てるまちづくり」を重点プロジェクトの一つに位置付け、全ての子どもたちが健やかに育ち、学ぶことができる環境づくりなどに取り組んでまいります。

8 計画の推進に当たって

意見の概要	市の考え方
人を大切にしながら計画を推進してほしい。	若者や子育て世代に対しては、新社会人の奨学金返還支援や通院にかかる子ども医療費の助成対象学年の拡大などに取り組み家計負担の軽減を図っていきます。 また、働く世代を対象とした健康寿命延伸の取組のほか、高齢になっても安心して暮らされられる環境づくりのため、基幹型地域包括支援センターの設置など人を大切にする取組を進めていきます。

意見の概要	市の考え方
各掲載事業の実施に当たっては、他の政策目標の事業とも連携しながら、身近な困りごとを解決できる体制を目指してほしい。	今後の事業実施に当たっては、関連する事業との連携を図りながら、市民に寄り添った行政運営を行ってまいります。

第2章 まちづくりの取組

1 計画体系

意見の概要	市の考え方
各区の取組や特徴などを、計画上もっとわかりやすく示してほしい。 (類似意見 1件)	各区の取組等については、事業一覧や地図により見える化した「各区の関連事業」のページを追加します。
子どもと高齢者の多世代交流及び地域住民間の交流が促進されるよう、そうした施策の方向性を明記すべき。	子どもと高齢者との多世代交流や障がいのある方との日常的なふれあいなどを通じて、市民一人ひとりがお互いを尊重しながら共生・協働できる地域づくりの推進を、政策目標2「誰もが生涯現役で活躍できる街」の施策の方向性に位置付け、関連事業を進めてまいります。
P64(65)(政策目標3地域の課題を地域の方で解決する街)の《施策の方向性》に次の文言を追加すべき。 「札幌市においては、町内会の連合体が地域全体の活動の単位となっていることから地区センター等の受け皿(指定管理)となっている実情に鑑み、その構成員である各町内会の地域住民の意見に真摯に対応することを義務づける必要がある。」	計画の推進に当たっては、常に市民感覚を持ち、いつでも地域に出向き、市民の声に耳を傾け、わかりやすい言葉で伝えるなどコミュニケーション能力を高め、市民に寄り添った行政運営を進めてまいります。
P166(4組織力・職員力の向上)の《現状と課題》に次の文言を追加すべき。 「北区役所においては、適切な対応を怠り行政に協力的な市民を愚弄し、怒らせたことにより、三度も住民監査請求が提出されいずれも受理された。結果的にはいずれも棄却・却下となったが、監査委員の意見にもあるように、市職員は市民の意見に謙虚に耳を傾ける必要があるものと考えます。したがって、現在不足している市民目線で社会的常識的判断が出来る職員を養成するように努めます。」	計画の推進に当たっては、常に市民感覚を持ち、いつでも地域に出向き、市民の声に耳を傾け、わかりやすい言葉で伝えるなどコミュニケーション能力を高め、市民に寄り添った行政運営を進めてまいります。
政策目標がオブラートに包まれて記載されており、具体策が見えないので内容が判然とするように書き直すべき。	アクションプラン2019はまちづくり戦略ビジョンの中期実施計画であることから、政策目標は戦略ビジョンと同一のものを用いています。アクションプランでは各政策目標に位置付けた各計画事業を推進することで、目標達成を図ってまいります。
各掲載事業について、実施の背景等、必要な情報が記載されておらず、市民にとって理解しがたいものとなっているため、必要な説明を追加すべき。 (類似意見 1件)	各事業については、まちづくり戦略ビジョンで掲げた成果指標とともに、事業ごとに設定した事業目標を用いて、その進捗を毎年把握し検証することとしております。事業の実施に当たっては、その検証結果を踏まえながら、必要な見直しを行い、単年度予算に反映させるとともに、その周知に当たりましては、一層わかりやすい説明に努めてまいります。

3 計画体系別事業

政策分野「暮らし・コミュニティ」

政策目標1 互いに支え合う地域福祉が息づく街

施策2:地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり

意見の概要	市の考え方
DV等の未然防止及び加害者の更生に力を入れてほしい。	DVによる被害を未然に防ぎ、加害者にもさせないための啓発活動として、若年層に向け、デートDV防止講座を実施しており、今後も継続していく予定です。 また、加害者対策に関する国の調査研究や、民間の取組状況を踏まえ、相談員研修に加害者心理の視点を取り入れるなど、新たな取組を進めてまいります。
障がい者が希望した場所で暮らせるように支援を充実させてほしい。	障がいのある方が、希望する場所で安心して生活できるよう、福祉サービスの充実や相談支援の拡充を進めてきました。 今後も、障がいのある当事者やご家族の意見を聞きながら、引き続き支援体制の拡充に努めてまいります。
高齢者の社会参加促進のため、補聴器購入への補助を行うべき。	難聴を含めた加齢に伴う身体機能の低下は、一般に多くの方に生じることであり、現在の聴覚障がい者や難聴がある子どもに対する支援が、国の補助制度により実施されていることを鑑みますと、高齢者の補聴器購入への支援についても、国が検討すべきものと認識しております。 また、国は、平成30年度から「補聴器を用いた聴覚障害の補正による認知機能低下予防の効果を検証するための研究」を開始していることから、今後とも国の動向を注視してまいります。

施策3:災害に備えた地域防災体制づくり

意見の概要	市の考え方
風水害対策のマニュアルに、ダム の事前放流の確認手順を組み込むべき。 また、地下街等における浸水防止対策を、積極的に行うべき。	札幌市水防計画にて、ダム の管理者は、ダム の放流を行う際には札幌市等の各機関に連絡するよう定め、連絡系統についても同計画に定めています。加えて、昨今の大雨の頻発を受けて、今後の体制についてダム の管理者と協議を重ねているところです。 地下街及び地下街に接続するビル の管理者に対しては、浸水防止計画及び避難確保計画を作成し、水害に備えるよう指導しています。 また、年1回、札幌市地下街連絡協議会の協力のもと、地下街合同防災査察を実施し、地下街の防災対策の状況を確認しています。
被災した障がい者の状況や災害に起因する死亡事案の検証を進め、その上で必要な支援を実施すべき。	災害に起因する様々な課題の改善に向けた取組を検討し、今後の防災体制等の一層の強化を図ってまいります。
災害対策では防災、減災対策にとどまらず抜本的な見直しが必要。	災害対策については、札幌市防災会議などにおいて防災関係機関の意見を伺いながら、改善を図ってまいります。

政策目標2 誰もが生涯現役で活躍できる街

施策1: 地域で共生する環境づくり

意見の概要	市の考え方
学びのサポーターの賃金を上げるべき。	学びのサポーターは、学校生活上で特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、教員の補助として活動を行う有償ボランティアです。 今後も、各学校が適切な支援を行えるよう、より効果的な配置を工夫するなど、事業の一層の充実に努めていきます。
香料等が原因とされる症状について、広く周知し、必要な啓発を行うべき。 (類似意見 2件)	柔軟剤や洗剤、香水の香りなどで体調が悪くなる方がいることを知っていただくための「香りのエチケット」というポスターを作成し、ホームページにも公開することで、市・区職員を含め広く市民の方々に活用していただけるようにしています。また、機会をとらえて施設の管理者などへの説明会も行っています。 今後も、国の動向や他自治体の取組などを踏まえ、市・区職員をはじめ、より多くの市民への周知徹底に努めてまいります。
敬老優待乗車証の利用範囲をタクシーまで広げてほしい。	敬老優待乗車証制度は、生活や身体状況など個々の事情にかかわらず、全ての高齢者に対して外出を支援し、明るく豊かな老後の生活を充実を図るための制度です。 事業費が年々増加している中、制度の持続可能性という観点から、現時点では、他の交通機関への拡大等は困難であると考えています。

施策2: 子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり

意見の概要	市の考え方
子どもを預けられるように、保育施設の整備を進めてほしい。 (類似意見 4件)	子育て世代が安心して子育てしながら働くことができるよう、私立保育所や認定こども園の整備等による保育定員の拡大などに取り組み、待機児童対策を進めていきます。
保育園をただ増やすだけではなく、ICT技術の導入により省力化が図られるよう支援を強化してほしい。	平成28年度から保育計画・記録、園児の登降園管理等の機能を持つ保育業務支援システムを導入した園に対し補助金を交付することで、ICT化を推進し、保育士の業務負担の軽減が図られるよう支援しています。
子どもが冬季に遊べる屋内施設を作してほしい。 (類似意見 1件)	子どもの遊びの場や安心、成長につながる場として、児童会館をはじめとする地域の子どもの居場所づくりを進めていきます。
地域子育て支援拠点として、野外の子育てひろばも検討してほしい。	安心して子育てができる環境づくりを進めるため、身近な場所で自由に集まり、交流できる子育てサロンが市内に約300か所あります。 今後、この地域での子育ての拠点となる子育てサロンの取組を継続するとともに、その機能強化についても検討してまいります。
民間学童保育の保育料を減額してほしい。 (類似意見 6件)	民間の学童保育の保育料は、運営する団体が、今後の運営内容等を考慮して設定しているものとなります。 札幌市においては、助成団体である民間児童育成会として登録している学童保育に対して、国基準での運営費等の助成に加え、市の独自の助成項目として保育料の減免額分助成を行っています。

意見の概要	市の考え方
<p>子どもの医療費負担を下げしてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>子ども医療費助成制度は、原則として北海道の定める制度内容に基づいていますが、独自で上乘せをし、通院は小学2年生まで、入院は中学校終了前までを対象としているところです。さらに、通院の助成対象については、令和2年4月から小学3年生まで、令和3年4月から小学6年生まで拡大いたします。さらなる制度の拡充については、財政状況なども勘案しながら判断してまいります。</p>
<p>学童保育の指導員の給与や福利厚生を充実を図ってほしい。 (類似意見 4件)</p>	<p>民間の学童保育の指導員給与や福利厚生については、各学童保育にて決められています。札幌市においては、助成団体である民間児童育成会として登録している学童保育に対し、国基準での運営費等の助成を行っており、その中には、指導員の処遇改善に係る項目もあります。</p>
<p>学校規模適正化に向けては、財政面からの必要性についても説明すべき。</p>	<p>学校規模適正化の取組は、学校の小規模化による教育面や学校運営面の課題を解消し、子どもたちにとってより良い教育環境を整えるために実施しております。今後も取組地域ごとに、保護者や地域の方々・学校・行政が連携し、児童生徒への必要な配慮を行いながら、具体的な方策を検討していきます。</p>
<p>保育料を無償化してほしい。 (類似意見 15件)</p>	<p>保育料は、国の基準に基づき、世帯の収入に応じて設定されており、その額は、家庭の負担能力を考慮したものとなっていますが、国は、幼児教育・保育の負担軽減を図るため、和元年10月より3歳以上の保育料の無料化を開始しています。3歳未満の保育料については、今後、安定した財源を確保しつつ、保育の必要性のある全ての子どもが対象となるよう検討を行うとしています。なお、札幌市では、利用者の負担をできるだけ軽くするため、市税を投入し、3歳未満の保育料について、国の基準額から全体で約40%軽減する措置を実施しており、また、子育て世帯への更なる支援のため、平成29年4月から3歳未満の2人目の保育料について無料とする「第2子保育料無料化」を実施しています。</p>
<p>民間学童クラブと児童会館の格差をなくしてほしい。 (類似意見 3件)</p>	<p>民間の学童保育の保育料は、運営する団体が、今後の運営内容等を考慮して設定しているものとなります。札幌市においては、助成団体である民間児童育成会として登録している学童保育に対して、国基準での運営費等の助成に加え、市の独自の助成項目として保育料の減免額分助成を行っています。なお、広報については、札幌市ホームページや子育てアプリに掲載しているほか、年2回児童クラブとともにチラシを作成して、学校・幼稚園・保育園などに配布しています。</p>
<p>札幌市独自の受動喫煙防止条例の制定を検討すべき。 (類似意見 2件)</p>	<p>現在、北海道において「北海道受動喫煙の防止に関する条例（仮称）」の制定が検討されております。この条例は本市も適用を受けるため、その内容等を踏まえ、札幌市における取扱を検討する必要があるものと考えています。受動喫煙対策を定める改正健康増進法においては、屋外の喫煙は規制されませんが、喫煙をする場合は望まない受動喫煙を生じさせないよう周囲の状況に配慮しなければならないとされており、まずは改正健康増進法の引き続きの普及に努め、特に子ども等の受動喫煙に配慮するよう呼びかけてまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>保育士の処遇改善をしてほしい。 (類似意見 63件)</p>	<p>保育士の賃金は、国が定めた基準によっていることから、処遇の改善を国に要望してきたところです。これは、札幌市だけが抱える問題ではないことから、他都市とも連携しながら、今後も様々な機会を通じて国に働きかけていきます。 また、令和元年度から、保育人材確保緊急対策事業として、一定期間勤務した保育士への一時金給付による就業継続支援や、パートタイム保育士の配置に要する費用の一部補助による再就職支援といった、対象保育士に手当として支給する事業を独自に実施しています。</p>
<p>子育て支援の充実を図ってほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>安心して子どもを生み育てられる環境の充実のため、引き続き保育所等や放課後の子どもの居場所の整備を進めるとともに、子ども医療費助成の拡充による家計負担の軽減などの取組を進めていきます。</p>
<p>企業主導型保育事業について、人員配置などの適正基準が守られるよう指導をしてほしい。</p>	<p>企業主導型保育事業を含む認可外保育施設に対しては、年1回、厚生労働省の「認可外保育施設指導監督基準」に照らし合わせて、立入調査を実施しており、基準を満たしていない施設に対しては、速やかに改善するよう指導しています。 今後も、全ての施設が、指導監督基準を満たし、良好に運営されるよう指導監督を強化していきます。</p>
<p>保育士の配置基準を変えてほしい。</p>	<p>保育所等が配置基準を超えて保育士を配置する場合に補助を行い、配置基準以上の保育士配置を進めています。</p>
<p>部活動指導における外部人材の登用を進めるべき。</p>	<p>スポーツや文化に親しむ部活動は、人間関係の構築を図ったり、活動を通して達成感を得たりするなど、重要な活動と捉えており、子どもが多様な部活動に参加することができるよう、地域の人材等を指導者等として活用することを積極的に進めています。 今後も、部活動の振興に向けた取組を進めていきます。</p>
<p>小学生の居場所等の改善やプレーパークなど、外遊びのできる環境への支援を手厚くしてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>児童会館やミニ児童会館を整備し、小学生の放課後の居場所を設けているところですが、子どもたちの活動の場所が一つの部屋限定とならないよう、屋外を含め、関係施設の活用について引き続き取り組んでまいります。 また、地域住民が主体となり公園等で子どもが自由に遊べる機会を提供するプレーパークの活動支援として、プレーパーク推進事業を実施しています。</p>
<p>保育士不足の対策を進めてほしい。 (類似意見 2件)</p>	<p>保育人材の確保については、就業継続の支援、潜在保育士の復職支援、将来の保育を担う次世代の育成の3つの観点で取組を進めているところです。具体的には、平成28年10月に開設した札幌市保育士・保育所支援センターの相談体制強化や合同面接会の拡大、修学資金貸付事業の拡充などに取り組んでいます。 さらに、令和元年度から、保育人材確保緊急対策事業として、一定期間勤務した保育士への一時金給付による就業継続支援や、パートタイム保育士の配置に要する費用の一部補助による再就職を支援する事業を独自に実施しています。</p>
<p>放課後児童クラブの過密解消を図ってほしい。</p>	<p>国の基準により、放課後児童クラブには、子どもが安全に安心して過ごし、体調の悪い時等に静養することができる生活の場としての機能と、遊び等の活動拠点としての機能を備えた専用区画が必要とされ、その専用区画の面積として子ども1人につき概ね1.65㎡以上の確保が求められています。 本指針に則し、必要な活動スペースが確保できるように取り組んでまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>第2子無償化を収入や子どもの年齢で区切らないでほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>保育料は、国の基準に基づき、世帯の収入に応じて設定されており、その額は、家庭の負担能力を考慮したものとなっています。また、子どもが2人以上いる世帯への軽減に係る子順のカウントについても、国の基準で定められています。 札幌市では、利用者の負担をできるだけ軽くするため、市税を投入し、3歳未満の保育料について、国の基準額から全体で約40%軽減する措置を実施しているほか、平成29年4月から3歳未満の2人目の保育料について無料とする「第2子保育料無料化」を実施しており、今後も子育て世帯への支援を進めてまいります。</p>
<p>児童クラブの人数が10人以下の場合でも運営できるようにしてほしい。</p>	<p>助成団体である民間児童育成会の登録要件の一つとして、安定的な運営のため登録児童数が10人以上であることとしていますが、登録児童数が10人未満となっても、届出のある放課後児童健全育成事業所としての運営継続は可能です。</p>
<p>保育園における栄養士の配置を必置としてほしい。</p>	<p>札幌市児童福祉施行条例は国の基準に準じており、調理員を置くこととされておりますが、栄養士は必置とはなっていない状況です。保育園に通う子どもたちが健やかに成長するための適正な栄養管理は欠かせず、また積極的に食育を進めたい年代でもあることから、保育園の栄養士の配置について国に働きかけてまいります。</p>
<p>保育士の研修の在り方を見直してほしい。</p>	<p>市内の認可保育所等に勤務する保育士等に対する研修を実施していますが、今後も引き続き研修テーマの適宜見直し等、より良い研修を実施してまいります。</p>
<p>厚生労働省定義の待機児童ではなく、潜在的な待機児童の解消を目指すべき。</p>	<p>厚生労働省による国定義の待機児童とは、「認可保育所等に入所申請しているが入所に至っていない児童のうち、幼稚園の一時預かりや企業主導型保育事業を利用している児童及び特定の保育所等のみ希望している児童等を除いた児童」を指し、札幌市で平成30・31年度の4月1日時点ではゼロとなっております。 一方で、保育施設等の整備計画の策定に当たり、平成30年度に実施したニーズ調査においては、女性の活躍の進展等に伴い保育ニーズが増加する結果となっていることから、子育て世代が安心して子育てしながら働くことができるよう、私立保育所や認定こども園の整備等による保育定員の拡大や保育人材確保の支援に取り組み、待機児童対策を進めてまいります。</p>
<p>各区に児童相談所を置き、相談員を増員すべき。</p>	<p>専門的な相談支援機関としての第二児童相談所の整備に加えて、各区に子ども家庭総合支援拠点を設置することとしており、地域における相談支援体制の強化を図ってまいります。</p>

施策3:歩いて暮らせるまちづくり

意見の概要	市の考え方
<p>バスターミナルや地下鉄駅などのバリアフリー化を進めてほしい。</p>	<p>現在、地下鉄駅では既に1基以上のエレベーターの整備が完了していますが、更なるバリアフリー化の推進に向けて、エレベーターの増設に取り組んでいます。 また、バスターミナルについては、一日当たりの利用者数が3,000人以上の施設についてバリアフリー化に向けた検討を行ってまいります。</p>

政策目標3 地域の課題を地域の力で解決する街

施策1:地域活動を活発化する環境づくり

意見の概要	市の考え方
人と人とのつながりを大切に行政運営をしてほしい。	まちづくり戦略ビジョンの基本目標の一つに「共生と交流により人と人がつながるまちにします」と掲げ、住民によるまちづくり活動への参加促進に向けて、町内会をはじめとした地域のまちづくり活動を担う団体に対し、様々な支援を行っています。引き続き、地域におけるつながりと支え合いのまちづくりや課題解決の支援に努めていきます。
中小企業を地域コミュニティの担い手としていく取組を実施してほしい。	豊かで活力ある地域社会の発展のためには、中小企業を含めた企業の地域に根ざした積極的な関わりを拡大し、支援することが必要と考え、令和元年7月から「さっぽろまちづくりスマイル企業認定制度」を開始しています。本制度を通じて、より多くの企業が地域の一員として参加するきっかけとし、地域コミュニティの活性化につなげてまいります。

施策2:地域マネジメントの推進

意見の概要	市の考え方
現在設置されている防犯カメラの管理体制を公表すべき。	安全で安心な公共空間整備促進事業により設置された防犯カメラ69台については、補助金により町内会が設置した防犯カメラです。防犯カメラ設置に当たっては、町内会の規約に基づいた合意形成、例えば町内会総会の議決などが設置の条件になります。また、設置に当たり町内会ごとに基準を定め、町内会が管理運用していくこととなりますが、基準に反する管理運用があれば補助金返還の対象となり、撤去を指導することとなります。録画データは防犯カメラ内若しくはその周辺に置く記憶媒体に撮りためて古いものから上書きするもので、常時監視するものではありません。データの取り出しについては、周辺で事件等が起こり、捜査機関から法に基づくデータの提出依頼があった際などに限定しており、データを扱える者も管理運用基準で限定的に定めていますが、設置者である各町内会の管理体制について、札幌市が公開することは予定しておりません。

施策3:雪と共存した暮らしの推進

意見の概要	市の考え方
パートナーシップ排雪の町内会負担を廃止してほしい。	道路法第42条では、「道路管理者は、道路を常時良好な状態に保つように維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。」としており、「道路の維持又は修繕に関する技術的基準その他必要な事項は政令（内閣）で定める。」こととしています。地域によって気象状況等も異なることから技術的基準は制定されてなく、各自治体に委ねられています。このため、道路種別ごとに除雪水準を設定し、この水準の確保に向けて計画的に除雪を行うこととしています。パートナーシップ排雪制度は、このような道路管理者が設定した除雪水準以上の冬期生活環境を望む地域と協働で取り組むために設けた制度として広く定着しており、今後も維持すべきものと考えています。
アスリート育成と称して、小中高生をメダル獲得マシンのように扱うべきではない。	心身の発達を阻害しないように配慮をした上で競技性や人間性の伸長を図って行くことは、特にジュニア年代の育成を進めていく上で大切なことだと認識しております。育成に際しては、専門的な知識と経験を有する各競技団体の関係者と連携し、心身共に健やかな成長につなげていけるよう取り組んでまいります。

意見の概要	市の考え方
都心部クロスカントリーについて、路面への悪影響があるため、大通公園や中島公園ではなく、札幌競馬場で行うべき。	大会終了後、市民が周囲を安全に通行できるよう雪処理に留意します。 また開催場所については、アクセス面や観客の安全面等を考慮し決定してまいります。

政策分野「産業・活力」

政策目標4 北海道経済の成長をけん引する街

施策2: 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進

意見の概要	市の考え方
富裕層受入に向けた支援策よりも、障がい者等が安心して宿泊できるよう、バリアフリー化支援に取り組むべき。 (類似意見 1件)	障がいのある方に安心して観光を楽しんでいただくことは重要であると考えており、バリアフリー化の推進に向けて、引き続き必要な支援内容等を検討してまいります。
電子決済は、し好や趣味が調べられることとなり、複数のデータの突合により個人情報特定の可能性もある。推進すべきではない。	ICTによるデータ利活用を推進していくに当たり、個人情報及びプライバシーの保護について、特に注意を払う必要があると考えており、ICTを活用した観光マーケティング推進事業においても、個人を特定できないように統計加工したデータを収集・活用することとしています。今後も個人情報等の取扱いについて十分に配慮して事業を進めてまいります。
MICEキーパーソンの接待のために高額な予算を計上すべきではない。	コンベンションビューロー運営費補助は、MICEの誘致活動を行っている札幌国際プラザ・コンベンションビューローの職員の人件費など、団体の運営のための経費です。MICEの誘致につきましては、引き続き、適切な手法等により行ってまいります。
富裕層をターゲットとした取組により、外国人年間宿泊者数の80万人近い増加は望めない。 繰り返し来札してくれる可能性がある若年層をターゲットとした取組とするべき。	外国人観光客の誘致については、東アジア、東南アジア、欧米豪など様々な市場をターゲットとし、市場の特性に応じて、富裕層のほか、リピーター層、若年層などに向けた様々なプロモーションに取り組んでいきます。
札幌市独自の経済活性化施策は何なのか。	産業振興の方向性を示す「産業振興ビジョン」において、以下の5つの重点分野を設定し、「選択と集中」により新たな経済成長の原動力を作り出す施策に努めているところであり、引き続き必要な取組を進めてまいります。 <重点分野> ○札幌を含めた北海道経済の成長をけん引する「観光」「食」 ○今後の成長が期待される「環境（エネルギー）」「健康福祉・医療」 ○投資を呼び込むとともに全産業を高度化させる「ITクリエイティブ」
キャッシュレス推進は、外国人観光客の受入環境向上を主目的としており、市民の生活にどのように結びつくのかわからない。	キャッシュレス推進により観光客の利便性を向上することで、再訪意欲を促し観光の振興を図ります。また、市内のキャッシュレス決済環境が整備されることで、市民生活の利便性向上にもつながります。

意見の概要	市の考え方
外国人観光客に対しては、歩きスマホにつながるような公衆無線LANの整備よりも、札幌の街並みを見てもらえるようにすべき。	観光客の利便性及び満足度の向上を図ることを目的に公衆無線LAN(Sapporo city Wi-Fi)を提供していますが、通行の妨げにならないよう、人が滞留する広場等にアクセスポイントを設置するなど配慮をしています。 札幌市には、魅力的な街並みや施設など様々な観光スポットがあり、これらを楽しんでもらえるよう、外国人観光客に向けて引き続き積極的にPRしてまいります。
外国人観光客の受入に向けた環境整備に50億円も投じるべきではない。無料Wi-Fiの設置費用は、バリアフリー化等に充てるべき。	2018年に「国際観光振興法」が一部改正され、外国人に対する災害時情報の多言語対応の充実、公衆無線LAN環境の整備、トイレの洋式化が義務化されました。 これに伴い、地下鉄駅構内の無料Wi-Fi整備のほか、ホーム案内板、車両案内表示、駅構内標識、券売機・精算機等の多言語対応の改修を行います。 また、トイレの洋式化に当たっては、外国人観光客のみならず、高齢者や障がいのある方などの利便性向上のため、出入口段差解消を図るためのスロープ化などを進めているところであります。

政策目標5 国内外の活力を取り込む街

施策1:世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開

意見の概要	市の考え方
「新MICE施設整備事業」の掲載事業費の整備費と検討に係る費用の割合が不明。	事業費8,439百万円のうち、整備に係る費用は8,356百万円、運営手法の検討に係る費用は83百万円です。
外国人のマナーや治安が心配。	外国人が地域の中で円滑に暮らしていくためには、周囲とコミュニケーションをとる上で必要となるレベルの日本語を習得することはもとより、法令や生活習慣等にも習熟していくことが望ましいと考えるところであり、今後、これらの課題に資する取組を充実させてまいります。
外国人労働者の受入について、進めていくのか進めていかないのか示してほしい。	外国人材の受入については、産業ごとに求める人材像が異なるものと認識しており、状況を把握した上で必要な取組を進めてまいります。
再開発関係事業等については、その想定スケジュールについても計画に示すべき。	計画事業の推進に当たっては、社会経済情勢等を踏まえながら、常に事業の必要性を検証しつつ適正な執行に努めるとともに、必要に応じて事業内容を見直すなど、柔軟に推進してまいります。
新たなMICE施設の建設は無駄なので止めるべき。	「札幌市MICE総合戦略（平成27年4月）」に基づき、MICE誘致活動を強化するとともに、大規模な国際会議等を誘致するため新MICE施設の整備に向けて調査・検討を重ねてきました。 新MICE施設の整備については生産誘発額が100億円を超えるなどの経済波及効果が見込まれるほか、新施設の整備を契機として民間投資の誘発も期待でき、周辺のまちづくりにも資するものと考えています。 なお、札幌コンベンションセンターをはじめとした市内他施設については、高い稼働率となっていることから、一定の機会損失が生じており、今後の需要の増加等も踏まえると、新たなMICE施設は必要なものと考えています。

施策2:創造性を生かしたイノベーションの誘発

意見の概要	市の考え方
eスポーツイベントの開催などを積極的に行い、先端技術の担い手を集めることで、産業の活性化を図るべき。	札幌の強みであるIT産業の中でも、AIやIoTと並んで新たな核となる成長分野であるxR技術の普及促進や、様々な周辺市場・産業への経済効果が見込まれるeスポーツを活用した産業振興の取組を積極的に進めることで、若い世代を中心とした人材を引き付け、産業の更なる活性化を図っていきます。
地元中小事業者に対する人材育成等の施策を増やすべき。 (類似意見 2件)	中小企業の若手社員や人事担当者、管理者に向けて講演会や研修を行っているほか、人事コンサルタント等の専門家派遣を行っており、引き続き企業の人材育成への支援の充実に取り組んでまいります。
官民保有データの企業による活用は、個人情報流出の危険があることから、止めるべき。	官民保有データの活用を推進していくに当たり、個人情報及びプライバシーの保護について、特に注意を払う必要があると考えており、個人を特定できないように統計加工したデータを収集・活用することとしています。今後も個人情報等の取扱について十分に配慮して事業を進めてまいります。

施策4:シティプロモート戦略の積極展開

意見の概要	市の考え方
東京2020オリンピック競技大会のマラソンと競歩に関する事業についても、この計画に盛り込むべき。 (類似意見 4件)	マラソン・競歩競技の札幌への会場変更に伴い、アクションプラン2019における事業内容を一部修正いたしました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、関係機関と連携し、最大限の努力をしてまいりたいと考えています。
東京オリンピックのマラソンで、市のお金を使わないでほしい。 (類似意見 2件)	マラソン・競歩に関する費用負担については、大会運営に係る経費は組織委員会及びIOCが負担し、通常の行政サービスとして実施している道路補修や観戦客への救急医療対策などは北海道及び札幌市が行います。大会開催に当たり、負担が大きくなる場合は、財源措置を国へ働きかけるなど、市民の負担を減らすよう協議を進めていきます。

施策5:さっぽろ未来創造プロジェクト

意見の概要	市の考え方
冬季オリンピック・パラリンピックの招致費用は、住民の判断を得ておらず不必要。 (類似意見 3件)	冬季オリンピック・パラリンピックの招致に当たっては、大会の意義や計画について市民の理解や支持をいただくことが大変重要であると考えています。今年度は、大規模市民ワークショップ・区民ミーティングなどを開催し、招致に対する期待や懸念などの様々なご意見をいただきました。今後は、いただいたご意見を整理して、期待に応え、懸念を解決・改善できるよう検討を深め、市民の声をしっかりと反映した計画の策定に向け引き続き取り組むほか、出前講座などを活用し、随時、市民にわかりやすく情報提供することにより、招致への理解と共感を深めていきたいと考えています。

意見の概要	市の考え方
<p>冬季オリンピック・パラリンピックの招致費用がかかりすぎている。</p>	<p>冬季オリンピック・パラリンピックには子どもたちに夢や希望を与え、ウィンタースポーツを振興し、世界平和に貢献するという意義があります。 また、1972年に整備された社会基盤や競技施設の更新、バリアフリーの促進といった街のリニューアルを加速させていくという効果もあつて考えています。 このように冬季オリンピック・パラリンピックは一過性のイベントではなく、まちづくりを加速させ、市民の生活をより豊かにしていくきっかけとなるものと考えており、大会の招致を目指しています。 一方で開催経費については、既存の施設を最大限活用するなど、財政負担をできるだけ抑える方法を検討することで、将来に過度な負担を残すことのない計画としていきます。</p>
<p>冬季オリンピック・パラリンピック基金造成事業の予算が空欄なので明確化してほしい。</p>	<p>オリンピック・パラリンピック基金の造成については、招致や開催に向けた将来の財政負担に備える必要があることから計画化しており、具体的な積立金額については、毎年度の財政状況を踏まえて判断することから、事業費は計上せずに事柄のみ計画化したところです。 なお、2030年大会の開催都市が決定される予定の2023年度を目標に、施設整備等に当面必要な資金として100億円程度を計画的に積み立てる予定です。</p>
<p>新幹線の残土処理について、市民への説明を丁寧に行うべき。 また、工事そのものを再検討すべき。 (類似意見 1件)</p>	<p>北海道新幹線のトンネル工事などで発生する土のうち基準を超える重金属等が含まれる土、いわゆる対策土について、現在、市内2か所の受け入れ候補地の周辺住民の皆様に対し、当該候補地が受入に適する土地かどうかを調べるための事前調査に係る説明会を実施したところです。 説明会の実施に当たっては、事前に地域町内会への説明や、報道機関への情報提供のほか、事前に各地域の全戸への案内を配布しているところです。 現在、説明会を経て、地域住民の方からは、まだ、事前調査実施に向けたご理解はいただけていない状況ですので、ご理解いただけるよう、実施主体の鉄道・運輸機構とともに、住民の皆様から幅広くご意見をお聞きし、丁寧に説明を尽くしてまいります。</p>
<p>道路幅の拡張や都心アクセス道路の整備など、車優先の施策を見直してほしい。</p>	<p>道路ごとに求められる機能や交通状況等に応じて、拡幅整備や都心アクセス道路の整備などの取組を進めていくとともに、歩道のバリアフリー整備など歩行者に配慮した道路整備も併せて進めていきます。</p>

政策目標6 産業分野の人材を育む街

施策1: 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用

意見の概要	市の考え方
<p>青少年科学館の展示整備よりも、学校給食の無料化や教育環境の整備に費用を投じるべき。</p>	<p>青少年科学館は、開館から37年が経過し展示物や施設設備の老朽化が進んでいます。また、老朽化に伴い、休止中の展示物が増えており市民に不便をかけている状況です。 平成30年度には、展示物や施設設備の更新に当たっての基本的な考え方を整理した「札幌市青少年科学館活用基本構想」を策定し、引き続き、市民に親しまれる施設となるよう整備を進めてまいります。 また、小・中学校における給食費・教材費等に係る保護者負担の軽減については、就学援助などの経済的支援を継続してまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
家計の状況が厳しい状況を考慮すると、学習機器の導入よりも、小学校での給食費の無料化、体育着や制服の無料支給、通学定期券への補助拡大の予算を優先させるべき。	新学習指導要領では、情報活用能力の育成を図るため、コンピュータや情報通信ネットワークなどの必要な環境を整えることが明記されており、学校における教育の質の向上を図るため、ICT機器等の整備を進めているところです。 また、小・中学校における給食費・教材費等に係る保護者負担の軽減については、就学援助などの経済的支援を継続してまいります。
アイヌ施策に税金を投入すべきではない。	令和元年5月に施行された「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」において、アイヌの人々が日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民であるとの認識が示されるとともに、アイヌ施策の推進に関し、基本理念、国・地方公共団体の責務として、アイヌ施策の策定・実施、アイヌに関する国民理解を深めることなどが規定されていることから、札幌市においても、アイヌ政策施策推進計画に基づき、様々な事業を実施してまいります。
若者の流出を防ぐために、Uターン施策に力を入れるべき。	進学などで道外転出した方に対して、「札幌Uターン就職センター」の取組を通じて札幌の魅力を発信し、道外から札幌での就職を希望する方への支援を行っています。 また、東京圏への一極集中を是正するため、「移住による就業者・起業創出事業」により人材還流の支援を行っています。
教員の質が保たれない中での算数にーごープロジェクトは、実施すべきではない。	算数にーごープロジェクト事業の円滑な実施のため、教員等を対象としたモデル校による授業公開や、実際に授業を担当する講師を対象とした研修会を全ての区で開催するなどの取組を行っています。 今後は、実践豊富な専任講師を学校に派遣するなど、授業を担当する教員を支援する体制を整えるとともに、指導資料の改訂を行うなど、事業の一層の充実に向けていきます。
平和都市宣言の普及・啓発を強化すべき。	毎年小・中学生に対する平和へのメッセージの募集、被爆地等への訪問団派遣、平和に関するパネル展等のイベント開催など、平和都市宣言の普及啓発に関する取組を行っております。 平和都市宣言30周年となる令和4年には記念事業を実施し、一層の普及啓発に取り組む予定です。

施策2: 誰もが活躍できる社会の実現

意見の概要	市の考え方
シニア層の活躍の場をより多く提供してもらえるよう、市内の事業者に働きかけるべき。	少子高齢化が進行する一方で、定年後も就労を希望する元気な高齢者が増えている現状を踏まえ、高齢者を対象とした体験付き仕事説明会を開催し、高齢者と企業のマッチング機会を創出することにより高齢者の就労を促進しているほか、高齢者雇用に関するメリットやノウハウ等を伝える企業向けセミナーを実施し、企業の高齢者雇用の意識醸成を図っています。

政策分野「低炭素社会・エネルギー転換」

政策目標7 自然と共生する環境負荷の少ない街

施策2: 多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立

意見の概要	市の考え方
「矢羽根型路面表示」等を設置する際に、赤い三角すいのポストを並べ、車道との境界を明確化すべき。	歩行者、自転車及び自動車の安全確保は喫緊の課題であるため、交通安全面や費用面を考慮し、既存の道路空間に早期に効果を発現できる矢羽根型路面表示を設置し、併せて通行ルール・マナーの周知啓発を行うことで、安全で快適な通行環境を実現してまいります。

意見の概要	市の考え方
冬季のバス混雑対策について、計画に盛り込むべき。	バス路線の増便等は、利用状況や事業の採算性等を総合的に考えた上で、バス事業者が決定しています。また、札幌市では、市民の日常生活に必要な移動手段を確保するため、赤字バス路線に対する補助を実施しています。今後も、バス事業者と連携し、バス路線を適切に維持していくための取組を進めていきます。
白石サイクリングロードと豊平川サイクリングロードの接続を検討してほしい。	白石サイクリングロードと豊平川サイクリングロードとの接続については、地域の方々などの意見をお聞きしながら、地域のまちづくりと合わせて検討を進めていきたいと考えています。
平岸駅の周辺地域を自転車の放置禁止区域に指定するとともに、駐輪場を増強する場合、2条7丁目側に設置すべき。	平岸駅周辺では駐輪場が不足しているため、歩道上に自転車が停められている状況であり、課題の一つだと認識しています。駅周辺を放置禁止区域に指定するには、十分な駐輪場を確保する必要があります。適切な整備方法を選定して、駐輪場の容量増加に努めます。

政策目標8 エネルギー効率の高い持続可能な街

施策1:次世代エネルギーシステムの普及促進

意見の概要	市の考え方
設置費用が高額な上、海外での爆発事例が報告されていることから、水素ステーションは閉鎖した上で、水素利活用から撤退すべき。	日本の水素ステーションは、高圧ガス保安法や消防法に基づいた安全対策が講じられていることから、ガソリンや都市ガスなどと同様に正しく管理することで、水素を安全に使用できると考えています。利用時に二酸化炭素を排出しない水素エネルギーの活用は、温暖化対策に有効であり、将来の世代につなぐ環境にやさしい社会づくりに向け、安全性の確保や今後のコスト縮減施策の動向等に留意し、活用を進めていく考えです。

政策分野「戦略を支える都市空間」

政策目標9 世界都市として魅力と活力あふれる街

施策2:魅力ある市街地 ②郊外住宅地

意見の概要	市の考え方
もみじ台地区の再構築に当たっては、地域等からの意見を聞く場を設けてほしい。	もみじ台地区の再構築に当たっては、多数の部局が関係するため、全庁的な連携が必要不可欠と考えています。また、検討に当たっては、地域の声をお聞きすることが重要であり、様々な形で意見を把握しながら検討を進めていきます。

施策4:活力があふれ世界を引きつける都心

意見の概要	市の考え方
南2西3南西地区においては、外国企業によるテナント利用が進んでおり、市民への還元が少ない事業計画に、40億円もの巨費を投じるべきではない。 (類似意見 1件)	この事業は、老朽化した7棟のビルを共同化し、都心商業の中心地にふさわしい土地の高度利用と地域の活性化を図るとともに、電車停留所に面した地上広場や、ビル屋上に設ける屋上広場、駅前通や南2条線に面した歩道沿い空地など、公共性が高い公開空地も併せて整備する事業です。また、エレベーター、エスカレーターを設置した地下街出入口の敷地内取込や、地下街との共同荷捌き場を整備するなど、札幌市のまちづくりに大きく貢献するものであることから、これらのまちづくりに対する貢献を評価し、都市再開発法などに基づき補助金を支出しています。

意見の概要	市の考え方
中央区複合庁舎の建設に係る想定スケジュールについても計画に示すべき。	(仮称)中央区複合庁舎については、平成31年4月に策定した「(仮称)中央区複合庁舎整備基本計画」の中で今後の想定スケジュールを示しており、令和3年度から設計等を開始し、令和6年度中の供用開始を目指しています。
都心の再開発事業などの大型事業について、その必要性を再考すべき。	都市機能の集積・強化、魅力ある都市空間の創出、積雪寒冷地にふさわしい安心・快適な歩行環境の創出、低炭素社会の構築など、札幌市が目指すまちづくりを実現するためには、民間の建替更新の機会を捉えつつ、民間活力を最大限に活用して取り組んでいくことが効果的と考えています。そこで、再開発事業等を活用することにより、「都市機能や交流機能の集積」、「災害時の帰宅困難者対策」、「公共施設のバリアフリー化」、「オープンスペースの創出・緑化」、「駐輪場の整備」、「空中歩廊の整備・地下ネットワークの接続」、「再生可能エネルギーの導入」といったまちづくりに貢献する取組(公共貢献)を積極的に誘導していく考えです。

施策5: 多様な交流を支える交流拠点 ①地域交流拠点

意見の概要	市の考え方
学園都市線の沿線駅には、篠路駅よりも利用者数が多い駅があるが、篠路駅に事業が集中する理由を知りたい。	地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域や、区の拠点としての役割を担う地域を「地域交流拠点」(17箇所)として位置付け、それぞれの地区の特性に応じて機能を強化していくこととしています。篠路駅周辺地区も「地域交流拠点」に位置付けており、駅東側の脆弱な社会基盤施設や土地の低利用などの課題を解決するため、土地区画整理事業や鉄道高架事業などを契機として、拠点としての機能・魅力の向上に向けて取り組むこととしているものです。

施策6: 多様な交流を支える交流拠点 ②高次機能交流拠点

意見の概要	市の考え方
2日間だけの新コンサートモードでの札幌ドームの活用のために、15億円もの改修費用をかけるべきではない。	2022年度後半に改修工事が終了予定であることから、2022年度のイベント開催目標日数を2日間と設定したものです。2023年度以降については、1~2万人規模のコンサートの開催数を毎年12日程度と見込んでおり、収益面において非常に有効な取組と考えております。

施策7: 持続可能な都市を支えるネットワーク ①交通ネットワーク

意見の概要	市の考え方
南北線さっぽろ駅の新ホーム整備に係る完成イメージを示した方がよい。	地下鉄南北線さっぽろ駅の改良事業については、2020年度から設計を進めることとしており、ホームやコンコースのレイアウト検討が進んだ段階で、イメージパース等をお示ししてまいります。
公共交通の中心には市電を据えて考えるべき。また、安易な値上げは行うべきではない。	札幌市の公共交通ネットワークは、需要密度の高い区間に大量輸送機関である地下鉄・JRを基軸として配置し、後背圏からのバスネットワークを各駅に接続することにより、都心に向かう広範な交通を処理しています。今後は、現況の公共交通ネットワークを活用し、乗継機能やバリアフリーの強化など、更に利便性を高める取組を進めていくことで、持続可能な交通ネットワークの確立を図ることが重要だと考えています。

意見の概要	市の考え方
<p>バスの時刻表や運行状況を把握するサービスを札幌市内全域で利用可能としてほしい。</p>	<p>公共交通を手軽に利用できるようなインターネットで乗換経路や時刻表を検索できる「えきバスナビ」を平成15年から提供しています。</p> <p>バスロケーションシステムについては、民間バス事業者が、平成30年度～令和元年度にかけて整備しており、整備が整った事業者・路線から公開しています。</p> <p>令和元年11月からは、「えきバスナビ」において、バス事業者のシステムと連携しバスの位置情報などの運行情報を整備が整った路線から試験公開しており、市内の残りの路線についても令和2年度以降に公開する予定です。</p>
<p>路面電車を桑園方面や札幌駅方面に延伸してほしい。</p>	<p>路面電車については、都心地域、創成川以東地域、桑園地域の3地域への延伸検討を行うこととしており、延伸による効果や他の交通などへ与える影響などを整理する考えです。</p>
<p>KITACAとSAPICAの共通化を推進すべき。</p>	<p>SAPICAはKITACAと異なる独自の認証方式を採用しているため、相互利用を実施するためには、JRの駅務機器などにおいてSAPICAを読み取るための改修が必要となり、多額の経費がかかります。現在、SAPICAとKITACAとの相互利用等についてJR北海道と協議を行っているところであり、その経費及び効果を考慮しつつ今後も検討を行ってまいります。</p>
<p>地域公共交通利用環境改善事業について、公共交通の利便性向上を図るべき。</p>	<p>車両更新時期などに合わせ、鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者と行政が協力しながら、高齢者、障がい者等が円滑に利用できる環境づくりを進めます。</p>

施策10: 都市基盤の維持・保全と防災力の強化

意見の概要	市の考え方
<p>個人情報流出の懸念があることから、民間のクラウドサービスを利用するべきではない。</p>	<p>個人情報は、一度漏えいしてしまうと取り返しがつかないことから、市民に安心・信頼して行政サービスを利用していただくためには、個人情報の保護が極めて重要なことだと考えています。</p> <p>一方で、行政運営は最小のコストで最大の効果を発揮することも同時に求められており、クラウドサービスの中には、第三者機関の監査等によるセキュリティ認証等を有しているものもあります。また、国においても、「政府情報システムにおけるクラウドサービスの利用に係る基本方針」で、クラウドサービスの利用を第一候補として検討することを示しています。</p> <p>個人情報の保護をはじめとする情報セキュリティに十分留意しながら、どのように民間のクラウドサービスを取り入れていくか、慎重に検討を進めてまいります。</p>
<p>大きすぎるスポーツ施設をあちこちに作るべきではない。</p>	<p>市有建築物の効果的・効率的な運用を図るため、人口動向や年齢構成の変化、市民ニーズなどを総合的に勘案しながら、機能の複合化や集約化といった手法による効果的かつ効率的な再配置を進めることとしており、スポーツ施設につきましても、この基本方針に基づき、今後の施設の在り方を検討してまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>里塚現地事務所の相談体制について、市街地復旧工事後の完了後も被災者の住宅再建に目途が付くまで体制を維持してほしい。</p>	<p>里塚現地事務所は、里塚地区における道路と宅地の一体的な復旧の円滑な実施のため、住宅再建の意向確認や相談対応、公共事業に関する情報発信などを一元的に行う拠点として、開設しています。 地震から1年余りを経過し、また、住宅再建も増えるなか、相談内容も変わってきていることから、適宜適切な情報提供等を行えるよう、現地事務所を含めて取り組んでまいります。</p>
<p>市街地復旧工事の進捗状況や今後の完了見込みなどを住民に説明する中間報告の場を設けていただきたい。</p>	<p>市街地復旧工事の内容や工程等については、工事着手前に工事説明会を開催し、工事の進捗情報等は、「里塚復旧工事通信」を通じて報告しています。 しかし、前回の工事説明会から半年以上を経過していることなどを踏まえて、市街地復旧工事に関する中間報告の場を設ける方向で検討したいと考えます。</p>
<p>被災者が地盤改良工事後に安心して住宅を再建できるよう、みなし仮設住宅の入居期間を延長してほしい。</p>	<p>北海道胆振東部地震は、東日本大震災のように、特定非常災害に指定されていないことから、仮設住宅の供与期間は、災害救助法に基づき2年間とされています。札幌市としては、一般的にはこの期間内にて住宅再建が図られるものと考えております。 しかし、市街地復旧工事が影響して住宅再建が遅延する宅地は、この一般論とは異なる事情も想定されるため、仮設住宅の供与期間の延長については、令和2年度予算編成に向けて検討を進めてまいります。</p>
<p>強靱化計画は中長期的な計画となるようにすべき。</p>	<p>札幌市強靱化計画の改定においては、中長期的な視点を持って災害リスクの分析や施策の設定を行うとともに、現行計画の取組状況や北海道胆振東部地震の教訓を踏まえ、公共施設や道路、上下水道の耐震化や老朽化対策、避難場所の機能強化、停電対策などに取り組み、将来世代につなぐ災害に強いまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>道路補修にかかる予算を再検討すべき。</p>	<p>道路施設（舗装、トンネル、横断歩道橋など）ごとに補修計画を定め、計画的な補修を行うことでコスト縮減に努めています。 今後も継続して計画的な補修を実施し、道路施設を取り巻く環境の変化などを考慮しながら、計画の見直しや補修費用の検討に取り組んでまいります。</p>

第3章 行財政運営の取組

1 行政運営の取組

(1) 行政運営の方針

意見の概要	市の考え方
<p>市民の目に見える形で、市民感覚を大切にす行政運営を進めるべき。</p>	<p>政策を決めていく上で、市民意見を十分に把握することは重要と考えています。今後も様々な機会を通じて、多様な市民意見の的確な把握に努めるとともに、その内容の周知にも力を入れてまいります。</p>

(2) 行政運営の取組体系と主な取組

意見の概要	市の考え方
公務員について、必要な職員数は確保すべき。	限られた人的資源の中、業務の効率化や委託化などにより見直すべきところは見直しを進める一方で、行政課題に対応するために必要な人員や、行政需要の増加に伴い長時間労働が多くなっている職場に対しては増員を行う等、効果的・効率的な職員配置に努めてきました。今後も、時間外勤務の状況を含め、それぞれの職場の業務量や業務の質などを総合的に勘案しながら、適正な職員配置及び必要な職員数の確保に努めていきます。
より事業費に振り分けるため、市職員の給与を減らすべき。	地方公務員法で地方公務員の給与について、国や他の地方公共団体、民間事業所の給与などを考慮して決めなければならないと決まっています。本年は、勤勉手当の引上げ等が勧告されておりますが、本市人事委員会が公正中立な第三者機関として、市内民間事業所の給与水準を調査した結果、本市職員の水準を上回ったことによるものです。
プロ職員、ゼネラリストとともに育成するシステムが大切であり、職員の多様性をもっと重要視すべき。	行政課題が複雑・高度化するなか、事務職員・技術職員を問わず、職員には高い専門性が求められていると認識しております。広範囲な知識と経験を持つゼネラリストの職員を育成することだけではなく、専門性を重視した人事配置を行うことも重要であることから、特定分野の中での人事異動についても考慮しております。今後とも、専門性の高い人材の確保をはじめ、職務の専門性や個々人の多様性を考慮し、一人ひとりが能力を発揮できるような人事配置及び人材育成に努めてまいります。
職員を大事にする意識が欠如している。もっと取組が必要なのに記載されていない。働き方をもっと考えてほしい。	悩みごとを一人で抱え込まず周囲に相談しやすい職場づくりや部下の生活環境等に合った関わり方を学ぶことを目的とした役職者向け研修を実施しています。また、平成31年4月から、労働基準法の改正や国家公務員における取扱等に鑑み、時間外勤務の上限規制に係る制度運用を開始しています。そのほかにも、労働安全衛生法等に基づく健康診断やストレスチェックを実施しているほか、長時間にわたる勤務を行った場合には、必要に応じて面接指導を行うなど、独自の取組も実施しています。また、心の健康づくりとして不調の予防や早期発見、再発予防にも取り組んでいます。今後も職員の健康確保に向けて取組を進めていきます。

(3) 具体的な取組

3 業務の効率化・生産性の向上

意見の概要	市の考え方
役所の働き方改革がどう進んでいるのか、数字で示してほしい。	職員の時間外勤務の縮減や、休暇の取得促進については、管理職向けの研修の実施や、全庁へ周知徹底を行う等、様々な取組を行っています。このような取組によって、平成26年度以降、年次休暇の職員1人当たりの平均取得日数は増加し、職員1人当たりの時間外勤務時間数についても、北海道胆振東部地震の影響のあった平成30年度を除いて、減少してきています。 年次休暇取得日数…平成26年度：13.4日、平成27年度：13.4日、平成28年度：13.8日、平成29年度14.1日、平成30年度：14.4日 時間外勤務時間数…平成26年度：190時間、平成27年度：190時間、平成28年度：187時間、平成29年度：175時間、平成30年度：193時間

意見の概要	市の考え方
地域経済活性化のため、公共事業を地元企業に優先的に発注すべき。	公共工事については、札幌市工事請負契約に関する基本方針を定め、地元経済の活性化や税金等の地域内循環の実現などに資するため、競争性の確保を前提に、市内企業への優先発注を原則としています。
公契約条例を制定すべき。	公契約条例については、企業の健全経営への配慮や労働者の適正な労働環境を確保し、事業等の質の向上と地域経済の活性化を図ることが目的であると認識しています。これまで、関係団体との意見交換を深め、地元企業の安定経営、若者や女性を含めた誰もが働きやすい職場環境の実現に向けて、入札契約制度の見直しなどに取り組んでまいりました。今後も、より一層関係団体との意見交換を深め、更なる入札契約制度の見直しに、引き続き取り組んでまいります。
入札参加や建設業等の許可における要件緩和をすべき。	入札参加資格については、競争性の確保に留意しつつ、契約の履行確保を前提に、地方自治法施行令に基づき、市内要件や実績などの要件を設定しているところです。なお、建設業の許可要件については、建設業法の規定により国土交通省が定めています。また、本市発注の契約に関しては、本市の事業が市民の税金を財源としていることから、他の政令指定都市と同様に市民税等の未納がないことを競争入札参加資格登録の要件としています。

2 財政運営の取組

(2) 具体的な取組

2 歳入・歳出の改革

意見の概要	市の考え方
敬老優待乗車証の見直し検討内容についてわかりやすく示してほしい。 (類似1件)	敬老優待乗車証については、高齢化の進展に伴い事業費が年々増加していることが課題となっています。制度の持続可能性という観点から、今後の在り方について幅広く検討するとともに、その見直し検討内容については、適時適切に市民にお知らせしてまいります。
「敬老パスの見直し」について別冊の参考資料ではなく、計画書にも書くべき。	敬老優待乗車証については、計画書第3章2(2)2「サービス水準の在り方の検討」という項目内に記載があります。
受益者負担の適正化と称して市民負担を求めるのではなく、大型事業などを止めて、市民負担を軽くすべき。	人口構造が大きく変化していくなかで、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくためには、都市基盤の再整備など、街と人の未来への投資を行い税収や就労者数を増やすことが必要です。限られた財源の中で今後の行政需要に対応するため、受益者の方に一定の負担をしていただく見直しも必要と考えており、丁寧な議論を積み重ねながら、検討を進めてまいります。
パートナーシップ排雪及び敬老優待乗車証について、予算額を増額する方向で見直しをすべき。	パートナーシップ排雪については、労務単価の上昇等による地域負担額の増加が課題となっています。また、敬老優待乗車証については、高齢化の進展に伴い事業費が年々増加していることが課題となっています。制度の持続可能性という観点から、今後の在り方について幅広く検討してまいります。

意見の概要	市の考え方
適正化として削減するのではなく、予算額を増額する方向で見直すべき。	社会保障費や公共施設の更新需要が増加する一方で、それに見合う税収等の伸びが見込まれないなど、限られた財源の中で今後の行政需要に対応していく必要があります。このため、受益者の方に一定の負担をしていただく見直しも必要と考えており、丁寧な議論を積み重ねながら、検討を進めてまいります。

3 財政基盤の強化

意見の概要	市の考え方
白石区役所跡地は子どものために使うべき。	公有財産の活用にあたっては、「札幌市において利用が見込めない土地は、まちづくりに資するという活用の可能性も考慮しながら、売却を促進」する方針に沿って、公的利用の可能性も含め利活用の検討を進めています。本跡地の活用検討においても、この方針に沿って、この土地の価値を十分に発揮できるよう幅広く検討していきます。

6 キッズコメント(子どもの意見)の概要とそれに対する札幌市の考え方

第1章 計画の基本的考え方

1 計画策定の趣旨、計画の位置付け、計画期間

意見の概要	市の考え方
計画全体を通じて、目的、ゴールが不明瞭。	人口減少や少子高齢化など厳しい時代を迎えても、将来にわたって持続可能なまちづくりを進め、誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街や、世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街を目指してまいります。
街の魅力の向上を掲げるより、現状を維持する政策を進めてほしい。	人口減少や少子高齢化など厳しい時代を迎えても、将来にわたって持続可能なまちづくりを進め、誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街や、世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街を目指してまいります。

4 札幌市を取り巻く状況

意見の概要	市の考え方
老朽化した公共施設の改修等は、真に必要なものに絞って実施してほしい。	公共施設のニーズは、時代の変化とともに変化していくため、改修に当たっては、そのニーズの見極めがとても大切です。施設の利用者に配慮しながら、しっかりと判断していきます。
老朽化した建物の更新を進めるべき。 (類似意見 1件)	現在の札幌は、1972年の札幌オリンピック開催を契機に建築された建物が多く、これらが一齐に更新時期を迎えている状況にあります。北海道新幹線札幌延伸も見据え、民間企業等とも連携しながら、街のリニューアルを進めていきます。
お金の使い方を工夫しながら、公共施設の老朽化対策を進めるべき。	1970年代から1980年代前半にかけて多くの公共施設を整備したため、築30年以上の施設が全体の6割を占めており、今後一齐に更新を迎えることが見込まれることから、施設の長寿命化や更新時期の平準化を図ることが必要です。 また、今後見込まれる人口減少を踏まえると、今ある公共施設を同じ水準で全て建て替えることは困難であることから、施設の複合化や多目的化を図るなど、機能を維持しながら施設総量を抑制し、中長期的な視点で計画的に老朽施設の更新を進めていきます。
古くなった公共施設の建て替えは、その実施時期が重ならないように、計画的に行ってほしい。	公共施設の建て替えを一齐に行うことは困難なので、今後は施設を適切に改修しながらできるだけ長く使い、次の建て替えの時期を調整し、計画的に進めます。
公共施設の老朽化に対し、公共施設の中でも観光客が利用することが多い建物から修繕してほしい。	多くの方々が利用する建物については、修繕の優先順位を上げることも必要です。毎年多くの建物の修繕を行っていますので、全体のバランスをしっかりと考えて進めていきます。
施設の建て替えのお金を市民全員で負担するのはどうか。	施設の建て替えは市民が納めた税金で行われています。使えるお金が限られている中でも、建て替えが必要な施設は今後も増えていきますので、市民の理解を得られるように進めていきます。
施設を少しずつ建て替えてお金がかかるのは効率が悪いため、市民が使いやすいように工夫して利益をあげるのはどうか。	札幌市にはたくさんの公共施設があり、計画的な建て替えを進める必要があります。その際、今ある機能を維持しながら施設を一つにまとめたり、民間企業と協力して新たな施設づくりの方法を考えるなど、市民にとって使いやすい施設となるよう色々な取組を進めていきます。

意見の概要	市の考え方
人口減少してもみんなが笑顔で暮らせるまちづくりをしてほしい。	人口減少対策に関する個別計画である第2期さっぽろ未来創生プランでは、人口減少を緩和するために「質の高い魅力的な雇用を生み出すことで、札幌で働きたいと思う人の希望をかなえ、経済的な不安を軽減し、市民がより安心して子どもを育てることができる環境をつくる。さらにそうした魅力的なまちの姿が人を呼び込み、経済が活性化することで新しい雇用が生まれる」という、市民が明るい未来を描くことができる好循環を実現することが必要と考えています。 この考え方に基づき、「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」、「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」を基本目標と掲げ、取組を推進していきます。

6 計画体系とSDGs

意見の概要	市の考え方
札幌市全体でSDGsの視点を踏まえたまちづくりを進め、住みやすく魅力あふれる街にしてほしい。	計画の策定に当たっては、経済・社会・環境の3つの側面から統合的に課題解決を図るというSDGsの視点を踏まえ、計画事業の構築や選定を行ったところであり、計画事業を着実に推進することで、持続可能なまちづくりを進めていきます。

7 基本方針と重点プロジェクト

意見の概要	市の考え方
高齢者、大人、子どもが安全安心に暮らせる街にしてほしい。 (類似意見 3件)	2つの「未来のさっぽろ」の姿を目指すことにより、「誰もが生涯現役として輝き続けることが、都市の魅力と活力を創造する源泉となり、また、都市の魅力と活力を創造することが、働く場の確保や税収増となって、人々の暮らしの充実につながる」というような好循環を生み出していきます。
他の街にないまちづくり、札幌ならではのものを活かすまちづくりなど、将来を見据えた魅力と活力にあふれるまちづくりを進めてほしい。 (類似意見 1件)	若い世代が住み続けたいと思う札幌の街の魅力を高めていくために、北海道新幹線の札幌延伸や冬季オリンピック・パラリンピックの招致などに取り組むとともに、都市のリニューアルなどにより魅力と活力にあふれるまちづくりを進めていきます。 あわせて、ワーク・ライフ・バランスの向上や健康寿命延伸の取組を推進することで、働きやすく将来も安心して暮らし続けられるまちづくりを推進していきます。
全ての市民の活躍を応援するまちづくりをしてほしい。 (類似意見 3件)	アクションプラン2019では、全ての市民が年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、その希望に応じて活躍できるよう、重点プロジェクトの一つに「全ての市民の活躍を応援するまちづくり」を掲げ、様々な取組を進めてまいります。
住み慣れた場所で暮し続けることができるよう、環境整備を進めてほしい。 (類似意見 4件)	超高齢社会を見据え、健康長寿の街を目指す取組を推進し、高齢者や障がいのある方も住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるよう、様々な取組を進めてまいります。
色々な世代の人達のことを考えている政策でよい。	今後も、札幌に住む全ての市民の暮らしを支える取組を推進していきます。

8 計画の推進に当たって

意見の概要	市の考え方
市民意見を踏まえて、計画をしっかりと推進してほしい。 (類似意見 9件)	複雑多様化する地域課題や市民ニーズに的確に対応するため、常に「市民感覚」を持って地域に出向き、寄せられた市民の声を踏まえて計画を推進してまいります。

意見の概要	市の考え方
計画の周知が不十分であり、もっと広報に努めてほしい。	アクションプラン2019の内容につきましては、ホームページへの掲載やわかりやすいパンフレットを用いた広報などにより、市民への周知に努めてまいります。
施策の実施に当たっては、他都市も参考にすべき。	計画事業の推進に当たっては、他都市の状況を含めた社会経済情勢等を踏まえながら、常に事業の必要性を検証しつつ適正な執行に努めるとともに、必要に応じて事業内容を見直すなど、柔軟に推進してまいります。

第2章 まちづくりの取組

3 計画体系別事業

政策分野「暮らし・コミュニティ」

政策目標1 互いに支え合う地域福祉が息づく街

施策1:市民の孤立を防ぐ支え合いの環境づくり

意見の概要	市の考え方
孤立している高齢者の対策を進めてほしい。	高齢者が地域で孤立することなく安心して生活することができるよう、民生委員がひとり暮らしの高齢者を訪問し、安否確認や日々の困りごとの相談に乗るなどの見守り活動に取り組んでいます。 また、地域住民同士の見守り活動や交流の場の設置などを支援する「福祉のまち推進事業」を実施することで、自宅に引きこもりがちになっている高齢者と地域とのつながりをつくることのできるよう努めています。

施策2:地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり

意見の概要	市の考え方
老人ホームなどの施設整備を拡大するとよい。 (類似意見 2件)	高齢者の住居の確保は重要であり、引き続き、特別養護老人ホームなどの施設の整備を進めることとしています。
無料の健康診断を高齢者に限らず実施してほしい。	健康診断や検診を受けて、健康への意識を高めることや、病気の早期発見を行うことは重要なことと考えています。 高齢者に限らず様々な年齢の方に必要な健康診断や検診を行っておりますが、多くの方が受けやすいよう、低所得者などは無料で受けられる仕組みとしているところです。
生活保護の暖房費を上げてほしい。	生活保護費の基準額は、暖房費も含めて国が定めており、札幌市で独自に費用を上げることはできませんが、暖房費が高騰した際などには、必要に応じて国に情報提供を行うなど、適切に対応してまいります。
お金がなくて困っている人を助けてあげたらよいと思う。 (類似意見 1件)	お金がなくて何に困っているかにより、生活するお金に困っている方には生活保護の窓口を、仕事が見つからずに困っている方には生活就労支援センター「ステップ」を、住むところがなく困っている方にはホームレス相談支援センター「ジョイン」を案内し、様々なお話を聞いて、問題を解決する方法を一緒に考えています。 これからも、お金がなくて困っている方が、これらの窓口につながるように、広報等による周知に努めてまいります。

意見の概要	市の考え方
認知症予防などのため、高齢者が学ぶ場所を設けてほしい。	各区に1か所ずつある老人福祉センターでは、介護予防運動やヨガ、書道、英会話、手芸等を始めるきっかけづくりを行っており、多くの高齢者の方が楽しみながら学んでいます。また、地域社会活動のリーダーとなってもらうための「札幌シニア大学」があり、2年間で約100回の講座を行っています。今後も、高齢者の生きがいの向上、社会活動の促進に取り組んでいきます。
架空請求にだまされないために、日頃から訓練を実施してほしい。	架空請求を含めた様々な消費者トラブルに関して、消費者センターによる消費生活相談をはじめ、各種啓発や情報提供を行っているところです。また、ここ数年で、架空請求による消費者トラブルが増加したため、市民が実際に架空請求などにあったときに、慌てず対処ができるよう、効果的な取組を進めていきます。
相談しやすい環境の整備など、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めてほしい。 (類似意見 4件)	高齢者や障がいのある方が相談できる場所がありますが、色々な困りごとや悩みごとを抱える人がいる中、課題の起きる原因や背景などに対する市民理解を深めることが、大切なことだと考えています。誰もが安心して暮らせるよう、様々な機会を通じて、制度周知や啓発に取り組むとともに、色々な窓口に入った相談ごとが市役所やその他支援機関の間で共有され、適切な支援に結び付く体制づくりを目指してまいります。
高齢者が安心して暮らせるようにするための相談窓口は、利用者が少ないので必要ない。	相談する人だけではなく、困りごとがある人を見逃さない窓口体制が必要であり、行政の責務と考えております。その上で、適宜検証を行い、無駄のない組織運営に努めます。

施策3:災害に備えた地域防災体制づくり

意見の概要	市の考え方
避難場所などに非常用電源を整備する取組を進めてほしい。 (類似意見 36件)	停電発生時における避難所の照明器具やスマートフォンなどの電源確保等のために、小・中学校などの全ての基幹となる避難所に可搬型発電機の整備を進めています。
今後においても、ハザードマップの整備などを行い、災害への備えや対応にしっかり取り組んでほしい。 (類似意見 5件)	ハザードマップの更新・作成、避難所の備蓄物資増強などにより、今後も災害対応に取り組んでまいります。
個人での災害対策への支援をしてほしい。 (類似意見 2件)	個人の災害対策である「自助」は、防災の取組の中で最も重要なことと考えております。小学生向けの防災教材を学校を通じて配布しているほか、ハザードマップの全戸配布や防災ハンドブックなどを作成・配布することで、自助に取り組みやすい環境を整えています。今後は、近年発生した災害の教訓を踏まえ、内容の見直しを進めていきます。
防災について学べる機会を増やすべき。 (類似意見 2件)	平成25年度から小中学校に防災教育用教材を配布し、授業や訓練で活用しています。また、防災アプリ「そなえ」を使った防災授業の実施に力を入れており、この「そなえ」は家庭で親子で学習することも可能です。今後も幅広い世代が学べるよう防災用教材等の充実に取り組んでいきます。

意見の概要	市の考え方
<p>災害の記憶を風化させないような取組をすべき。</p>	<p>これまでも防災に関する講演会や研修会などで、災害被災地へ支援に行った職員の報告をお伝えするなどしてまいりましたが、今後は過去の災害の教訓や知見を伝えるパンフレットやハザードマップの作成・配布を通じ、防災意識を高め、防災力の向上に取り組んでまいります。</p>
<p>台風などで川が氾濫しないように整備してほしい。</p>	<p>国や北海道と連携して、河川の改修などの治水整備を進めてきました。今後も引き続き治水整備を進めていきます。</p>
<p>災害時に高齢者など、避難所に行くことが難しい市民への対応を考えてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>過去の災害の教訓から、災害が発生した直後は行政の支援が間に合わず、要配慮者の避難支援については、隣近所をはじめとした地域での助け合いが重要になると考えております。そのため、要介護認定を受けている方や障がいのある方など、避難するに当たり特に支援を必要とする方について、本人の同意を得た上で、町内会等へ情報提供するなど、地域における要配慮者避難支援の取組に対する支援を続けていきます。</p>
<p>災害時のライフライン復旧に即座に対応できるようにしてほしい。</p>	<p>水道事業及び下水道事業では、施設の耐震化や非常用電源の整備等を進めており、地震発生時には業務継続計画に基づき対応し、サービスが停止した際には早期の復旧に努めます。また、高速電車事業（市営地下鉄）では、全路線一律の運行停止と運行再開までの手順を定めておりましたが、路線を6エリアに分割し、各エリアの観測震度状況に応じて運行停止から運行再開までを行う手順に変更しました。これらの事業のサービス停止状況及び復旧の見込み等について、ホームページやマスコミへの情報提供等を通じて、迅速に伝えていきます。さらに、民間事業者が管理運営を行っている電気事業及び都市ガス事業、交通事業についても同様に、可能な限りサービス停止状況や復旧の見込みを把握し、市民に迅速に伝えていきます。</p>
<p>避難場所を増やしてほしい。 (類似意見 8件)</p>	<p>災害から身を守るため緊急に避難する施設となる指定緊急避難場所については、災害種別ごとに札幌市が指定を行っている施設となりますが、施設の管理者や地域住民との協議を進め、新たな施設の確保に向けて取り組んでまいります。</p>
<p>ペットを連れていても避難することが出来る避難所を作ってほしい。 (類似意見 3件)</p>	<p>小・中学校などの基幹となる避難所については、ペットと同行避難ができます。なお、可能な限り屋内又は屋根のある場所にペット飼養スペースを設置することとしております。</p>
<p>訓練等を通じた災害対応力の強化を図ってほしい。 (類似意見 2件)</p>	<p>避難所の開設・運営に関する訓練など各種防災訓練を実施し、災害に対する意識の啓発や対応力の強化を進めています。今後とも、各種防災訓練の充実に向け取り組んでまいります。</p>
<p>事故や火災などを少なくしてほしい。</p>	<p>火災の多くが「つい・うっかり」といった不注意から発生しており、火災を減らすために、発生原因や被害の状況を調べ、同じような火災が起きないように周知に取り組んでいます。</p>
<p>災害被災者をしっかり支援してほしい。</p>	<p>北海道胆振東部地震の被災者に対し、災害義援金や被災者生活支援一時金などの生活支援や、宅地の復旧、住宅の解体といった住宅再建支援の制度を設け、それら制度の周知に努めてきました。今後も、災害時にしっかりと支援ができるように取組を進めてまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
冬の災害を想定して、災害に強いまちづくりにもっと重点的に取り組んでほしい。 (類似意見 5件)	「札幌市強靱化計画」を策定し、公共施設や道路、上下水道の耐震化や老朽化対策、避難場所の機能強化、停電対策など、災害に強いまちづくりに取り組んでいます。 冬に災害が発生した際の対策についてもこの計画に取り入れており、例えば、観光客を含めた帰宅困難者を支援する環境の整備や避難所の防寒対策、大雪に備えた除雪体制の整備などに取り組んでいます。

政策目標2 誰もが生涯現役で活躍できる街

施策1: 地域で共生する環境づくり

意見の概要	市の考え方
音響式信号機を増やしてほしい。 (類似意見 6件)	音の鳴る信号機(音響信号機)は、他の信号機と同様に北海道公安委員会が設置の可否を決定しています。設置要望があれば、必要性などを検討し、市の意見を添えて提出しています。
誰もが過ごしやすい環境を作るとよい。 (類似意見 3件)	障がいの有無、年齢などにかかわらず、全ての方が安心して暮らしていけるよう、お互いの価値を認めて支え合う「共生社会」を実現するため、様々な施策を進めています。
盲導犬が入れる店を増やしてほしい。	スーパーやレストラン、ホテルなどの施設は、盲導犬の同伴を受け入れるよう法律で義務付けられています。札幌市や北海道盲導犬協会などでは、入店拒否などをなくすため、ホームページ上での情報発信や啓発イベントの開催のほか、盲導犬同伴可ステッカー作成・配布などを行っています。今後も引き続き、様々な取組を進めていきます。
働く世代が気軽に運動できる施設を増やすとよい。	市民が気軽に運動できる施設として、市内3か所(中央・東・西)に健康づくりセンターを設置し、運動指導員のアドバイスを受けながらトレーニングジムで自由に運動したり、スタジオでの運動教室に参加したりすることができます。 各区体育館等にはトレーニング室やランニングコースがあり、また、競技室等を一般開放するなど、市民が気軽に利用できる環境を整えております。 今後も、働く世代を含めた市民が、健康づくりやリフレッシュ等で幅広く活用できるよう、施設のPRに一層取り組んでまいります。
健康に関する情報を積極的に啓発するべき。 (類似意見 2件)	健康づくりの計画「健康さっぽろ21(第二次)」の達成状況や健康づくりに関する情報をホームページなどで見ることができます。 市民が、より一層健康づくりに取り組めるよう、これからも、色々な場面で正しい健康情報をわかりやすく発信し、健康づくりのきっかけづくりや、日常の生活の中で、気軽に健康づくりに取り組めるよう、進めていきます。
香料等が原因とされる症状について、対策をしてほしい。	柔軟剤や洗剤、香水の香りなどで体調が悪くなる方がいることを知っていただくための「香りのエチケット」というポスターを作成し、ホームページにも公開することで、広く市民の方々に活用していただけるようにしています。また、機会をとらえて施設の管理者などへの説明会も行っています。今後も、国の動向や他自治体の取組などを踏まえながら、より多くの市民への周知に努めてまいります。
高齢者でもインターネットを使えるよう講座を開くなど、生きがいを見つけられる社会にしてほしい。 (類似意見 1件)	今後も市民が生きがいをもち、豊かな人生を送ることができるよう、学びたいことを学ぶことができる環境づくりを支援していきます。

意見の概要	市の考え方
障がい者が働きやすい環境、企業を作ってほしい。 (類似意見 1件)	セミナーやホームページで障がいのある方の雇用事例の紹介を行うなど、障がい者雇用の啓発を行っています。 さらに、障がいのある方もない方も対等な立場で共に働ける職場形態の構築が進むよう、障がいある方を雇用する企業や団体に対し「障がい者協働事業運営費補助」を交付しています。

施策2:子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり

意見の概要	市の考え方
医療費無償化を推進してほしい。 (類似意見 30件)	医療費の負担に対して各種助成を行っているほか、子ども医療費助成制度の対象年齢を小学6年生まで拡大する取組を進めています。なお、いざというときにお金がなくて病院に行けない方のために、無料低額診療制度や生活保護制度など相談窓口があります。
動物を保護する施設を増やしてほしい。 (類似意見 4件)	市民やボランティアなどが気軽に立ち寄り、命の大切さや思いやりなどの動物愛護を学ぶことができる「(仮称)動物愛護センター」を新たに整備し、人と動物が幸せに暮らす街の実現を目指していきます。
インフルエンザワクチンを無償化し、学校で接種できるようにしてほしい。	予防接種は、国の法律(予防接種法)により補助対象者が決まっており、個人の感染防止のため、インフルエンザの予防接種の対象者を重症化しやすいとされる65歳以上の方と、一定の障がいがある60歳以上65歳未満の方としております。インフルエンザの予防は、毎日の手洗いが効果的です。予防に努めていただくようお願いします。
小さな子どもが遊べる場所を作ってほしい。 (類似意見 6件)	子どもの遊びの場や安心、成長につながる場として、児童会館をはじめとする地域の子どもの居場所づくりを進めていきます。
子育ての負担が片方の親に集中しないようなサポートをした方がよい。 (類似意見 1件)	父親に比べて母親の育児時間が多いなど、母親中心の子育てになっている現状があることから、父親に対する意識啓発や情報発信、仕事と子育ての両立に向けて取り組む企業への助成金の支給などに取り組んでまいります。
子育て関連施設を充実させてほしい。 (類似意見 16件)	子育て世代が安心して子育てしながら働くことができるよう、私立保育所や認定こども園の整備等による保育定員の拡大などに取り組み、待機児童対策を進めていきます。また、児童会館や子育てサロンなどの取組を引き続き進めていきます。
子どもを育てる家庭への経済的支援や保育施設の整備を進めてほしい。 (類似意見 23件)	子ども医療費の助成の拡充や奨学金の年間支給決定者数の拡大など経済的支援ニーズへの対応を強化するとともに、子育て世代が安心して子育てしながら働くことができるよう、私立保育所や認定こども園の整備等による保育定員の拡大などに取り組み、待機児童対策を推進していきます。
子どもを産み育てる家庭が増えるような取組を続けてほしい。 (類似意見 9件)	安心して子どもを産み育てられる環境の充実のため、引き続き保育所等や放課後の子どもの居場所の整備を進めるとともに、子ども医療費助成の拡充による家計負担の軽減などの取組を進めています。 また、若い世代にとって魅力ある街であり続けられるよう、スタートアップ支援などの産業振興に加え、奨学金返還支援やUターン促進といった若者の定着・還流の促進にも力を入れており、こうした取組を通じて、人口減少の緩和につなげていきます。
受動喫煙対策を進めてほしい。 (類似意見 6件)	令和2年4月から改正健康増進法の全面施行により、多くの人々が利用する施設の原則屋内禁煙化が進みます。この法律や受動喫煙の健康影響について周知啓発を行い、受動喫煙対策を一層推進してまいります。

意見の概要	市の考え方
歩きタバコをなくしてほしい。 (類似意見 1件)	条例で、都心部に喫煙制限区域を定め、この区域内では、歩きタバコや灰皿の設置されていない公共の場所での喫煙を禁止し、喫煙制限区域外では、そうした喫煙をしないよう努めることを定めています。 歩きタバコ等を減らしていくためには、市民一人ひとりのモラルが非常に大切であると考えていることから、条例の周知啓発のため、交通機関への広告掲出、ごみ分けガイドや市民便利帳等への掲載など、様々な取組を行っているところであり、今後も歩きタバコ等を減らせるよう取り組んでいきます。
教育費を安くしてほしい。 (類似意見 7件)	経済的に困っている家庭に学費の一部を支援する「就学援助」という制度により、今後も、支援を続けていきたいと考えています。
子どもが悩み事や困り事を相談できる身近な窓口があるとよい。	悩みごとや困りごとのある子どもが、学校の先生方やスクールカウンセラーなど、色々な方に相談することができるように取り組んでいきます。
スポーツ少年団への支援をしてほしい。	青少年のスポーツ活動の振興や交流を図るほか、世界に羽ばたく選手の育成を図ることを目的とし、全国大会などの遠征に係る費用を一部助成しています。
子どもがインターネットトラブルに巻き込まれないような仕組みを作ってほしい。	ネットパトロールの実施によりインターネット上でのトラブルを早期に発見し各学校で適切に対応していきます。また、学校において、インターネットの安全な利用についての授業を行います。
登下校時の安全を確保するための取組を充実させてほしい。 (類似意見 1件)	通学路において、交通事故がよく起こったり、不審者が多く出没したりするところなどが点検をするとともに、スクールガードによる見守り活動を実施しています。今後も、関係機関と連携しながら、安全に通学することができるよう取り組んでいきます。
児童虐待防止策を強化してほしい。 (類似意見 1件)	子どもへの重大な権利侵害である児童虐待への対策を強化するために、専門的な相談支援拠点としての第二児童相談所整備への着手や、各区保健センターにおける相談支援体制の強化等を進め、関係機関と連携しながら、児童虐待に迅速かつ確に対応するとともに、発生を予防するための取組を進めていきます。
学校の統合を進めた方がよい。 (類似意見 7件)	少子化の影響により、一校当たりの学級数が減少する「学校の小規模化」が進んでいます。より良い教育環境を整えるため、一定の学校規模を下回る学校を対象として、学校の統合又は通学区域の変更などによる学校規模の適正化に取り組んでいきます。
保育士の賃金を上げてほしい。 (類似意見 6件)	保育士の賃金は、国が定めた基準によっていることから、処遇の改善を国に要望してきたところです。これは、札幌市だけが抱える問題ではないことから、他都市とも連携しながら、今後も様々な機会を通じて国に働きかけていきます。 また、令和元年度から、保育人材確保緊急対策事業として、一定期間勤務した保育士への一時金給付による就業継続支援や、パートタイム保育士の配置に要する費用の一部補助による再就職支援といった、対象保育士に手当として支給する事業を独自に実施しております。

意見の概要	市の考え方
<p>出産時の負担を軽くしてほしい。 (類似意見 2件)</p>	<p>出産に関する経済的な負担を軽くするために、加入している健康保険から出産育児一時金が支給されます。出産育児一時金は、健康保険から病院に直接支払うこともできますので、あらかじめ多額の出産費用を用意しなくて済むなど、安心して出産できる仕組みが用意されています。</p>
<p>教員の質を向上してほしい。 (類似意見 2件)</p>	<p>今後も、児童生徒に質の高い教育を提供することができるよう、先生の指導する力などを高める研修を行っていきます。</p>
<p>児童相談所の支援業務と保護業務を分割するとよい。</p>	<p>今後施行予定の改正児童福祉法では、児童相談所における一時保護の「介入」と、保護者の「支援」を、別々の担当が行うようにすべきことが規定され、札幌市では、10月1日から組織を変更したところです。引き続き、関係機関と連携しながら、児童虐待に迅速かつ的確に対応するとともに、発生を予防するための取組を進めていきます。</p>
<p>喫煙所を増やした方がよい。</p>	<p>喫煙所は、設置や設備の維持に費用がかかります。札幌市が喫煙所を設置することについては、広く市民意見を聞き、慎重に検討しなければならないものと考えています。</p>
<p>おいしく温かい給食を提供してほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>今後も、皆さんの嗜好等を考えながら、栄養のある温かい給食が食べられるよう、配膳時間の工夫や子学校への保温食缶での提供などを通して、安全でおいしい給食の提供をしていきます。</p>
<p>生徒が興味を持てる教科書を使ってほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>全ての教科書を詳しく調べて、使いやすさ、分かりやすさ、興味の持ちやすさなど、様々な観点から、どの教科書が勉強するために最もよいかを検討し、教科書を選んでいます。今後も、教科書を効果的に活用し、学ぶ意欲が一層高まるような授業づくりを進めていきます。</p>
<p>持ち回りでPTA役員にならないといけない仕組みを見直してほしい。</p>	<p>PTAの企画運営については、学校ごとに協議し、決定しています。</p>
<p>子どものための取組を多くしてほしい。</p>	<p>アクションプランに掲載した事業のほかにも、子どもを対象とした様々な事業や取組を行っています。これからも、児童生徒が色々なことを学び、経験することのできるような事業や取組を考えていきます。</p>
<p>勉強できる場所を増やしてほしい。 (類似意見 18件)</p>	<p>生涯学習総合センター「ちえりあ」2階の交流学习コーナーや児童会館の図書コーナーは、宿題や自習等で利用することができます。また、一部の区民センターのロビーでも自習での利用を認めていますので参考にしてください。</p>
<p>体力や学力を向上させるために、中昼休みを増やしたり土曜日の午前授業を行ったりするとよいと思う。 (類似意見 4件)</p>	<p>学校の日課は、児童生徒が心身ともに健康で、充実した学校生活を送ることができるよう、授業時間、休み時間、給食時間などのバランスを考えて学校ごとに決めています。学力や体力については、自ら目標をもって、自分自身の力を高める取組を続けていくことが大切です。今後も、学校と家庭、地域が協力して、児童生徒一人ひとりが自分の可能性を信じて努力し、成長していくことができるよう、支えていきます。</p>
<p>教員の給料を上げてほしい。 (類似意見 3件)</p>	<p>市立学校の教員の給与は、「札幌市立学校教育職員の給与に関する条例」に基づいて決めています。この条例で定める給与は、公正中立な第三者機関である札幌市人事委員会からの給与に関する勧告を受け、必要な条例改正を行い適切な給与水準となるよう努めています。</p>

意見の概要	市の考え方
教職員の負担が増えないようにしてほしい。	学校教育の一層の充実を図るためには、教員の負担が過度にならないことが重要と考えています。今後も、教員の負担軽減に向けた取組を進めていきます。
部活動の時間を制限するのはやめてほしい。 (類似意見 7件)	スポーツや文化に親しむ部活動は、人間関係の構築を図ったり、活動を通して達成感を得たりするなど、生徒にとって重要な活動です。一方で、成長期における生徒の安全面、健康面等の観点から、部活動の時間や休養日についての活動規準を設けることも必要だと考えています。今後も、生徒の安全面や健康面を十分に考慮しながら、部活動を推進していきます。
高齢者による子育ての取組を推進してほしい。	地域で子育て家庭を支える人材の確保に向けて、子育てボランティアの育成事業に取り組んでいます。今後も地域で高齢者が子育て支援に参加できるように、いただいた意見も参考に、取組の充実を目指していきます。
医者免許を更新してほしい。	医師の免許は、医師法という法律で規定されており、更新の制度はありません。このような制度の中、札幌市では、医療機関への定期的な立入検査等により必要な助言・指導を行っており、今後も医療の質の向上と安全の確保に努めていきます。
跡地や空き家などを再利用して、子どもの教育や運動を促進出来る施設を増やしてほしい。	公有地等の利活用については、まちづくりに対する市民の多様なニーズを把握した上で、検討を進めてまいります。
ジュニアリーダーの活動が形骸化しているため、次世代を担う若者育成に向けた実践的な取組をしっかりと進めた方がよい。 (類似意見 1件)	地域における様々な体験活動や異年齢交流の機会を提供することにより、自主性や主体性、協調性等を備えた将来の地域活動を担う人材の育成を目指し、様々な取組を進めてまいります。
赤ちゃんを産むための産婦人科を増やしてほしい。	安心・安全な妊娠・出産、子育てができる施設や環境を充実させることは大変重要なことと考えています。そこで、産婦人科の医療体制の確保のほか、健康面での不安について「産婦人科救急電話相談」を開設するとともに、妊婦一般健康診査の助成や各区保健センターで母親教室を行うなど全ての妊婦が安心して出産を迎えられるよう取り組んでいるところです。今後も環境整備を含め、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実を図っていきます。
身近な読書環境を整えてほしい。 (類似意見 2件)	より身近な場所で本を借りることができるように、各区に一つずつある図書館に加え、各区民センター・地区センターにも図書室を設置し市内47ヶ所に図書施設を設けているほか、インターネット等で予約した本をどこの施設でも受け取ることができるようにしています。また、電子書籍は、インターネットを通じてどこでも読むことができるようになっていきます。今後も、誰もが利用しやすく、読書への関心を高めることができるような工夫をしていきます。
広報の拡充や既存の資源の活用等により、子ども食堂を拡充してほしい。 (類似意見 1件)	これまでガイドブックの作成などを通して、子ども食堂等の利用や開設の促進を図っています。今後、運営団体に対する補助事業のほか、広報の充実や既存の資源の活用等により、子どもの居場所づくりの推進を図っていきます。
小学校の統合により、長距離に及び登下校をしなければならない場合は、スクールバスを走らせるように対応してほしい。 (類似意見 1件)	学校から家まで2キロメートル以上ある児童生徒には、バスでの通学を認める場合があります。ほかの通学手段については、安全面なども踏まえ、今後も考えていきます。

意見の概要	市の考え方
学校でのいじめ防止対策を推進してほしい。	いじめはどんなことがあっても許されるものではありません。学校では複数の先生がきめ細かく児童生徒を見守ったり、アンケートなどで、いじめやそれにつながるきっかけを見つけたりしています。また、児童生徒が日頃から自分の思いや考えを率直に表現することができるように、道徳科の授業などを通して、お互いを認め合うことよさに触れる機会をつくっています。不安なことがある場合には、各学校の先生方やスクールカウンセラーなど、身近な人に相談してみてください。
もっと柔軟な校則にしてほしい。 (類似意見 4件)	学校のきまりについては、児童生徒の安全やより良い成長、地域の実態などを踏まえて各学校で決めています。
高校への通学交通費の助成を1年間から3年間に延長してほしい。	申請は毎年度していただく必要がありますが、要件を満たす限り、高校に通学する間は続けて助成を受けることができますので、活用を検討してください。
不登校の児童生徒が、気軽に通える場所を増やしてほしい。 (類似意見 2件)	札幌市では、教育支援センターや相談指導教室を設置し、不登校の子どもが仲間とともに学習や体験活動に取り組むことで学校復帰や社会的自立に向かうことができるよう、一人ひとりの状況に応じた支援を行っています。今後も、不登校の子どもを支える取組を充実させていきます。
化学物質過敏症の生徒が通える、専用の学校を作してほしい。	化学物質過敏症の児童生徒のみが通える専用の学校を作る予定はありませんが、現在、各園・学校では、「幼稚園・学校におけるシックハウス対策マニュアル」に基づき、室内の空気環境を整えるための換気などを行っています。また、化学物質過敏症の児童生徒が在籍する学校においては、学校だより等を活用し、合成香料の使用を控えることについて保護者に協力を依頼するなどの取組を行っています。
魚について学ぶ機会を提供してほしい。	生き物や気象など、自然に対する理解を深めるために、様々な実験をしたり、校外で自然を観察したりすることは大切です。今後も、理科の学習における観察・実験の充実に向けた取組を進めていきます。
スクールバンドの取組をしている学校の楽器を更新してほしい。	楽器をはじめとした学校で使う教材や備品については、学校ごとに配分する予算の中で、計画的に購入しています。
パソコンを学校で自由に使いたい。	皆さんの学習内容の理解をより深めるために、ICT機器等を使ったほうが良い場面とそうではない場面があります。ICT機器等の活用については、学習内容や場面などに応じて考えていきます。
給食が足りない人のために、中学校に売店を設けてほしい。	一人分の給食の量は、食べる子どもの学年における平均的な体格や運動量を考え、一日に必要な量の約1/3としています。しかし、一人ひとりの体格や運動量は違うため、足りないと感じることも想定されます。そうした場合は、健康に気を付けながら、給食以外の食事や間食などで、自分に合った量を食べるなどの工夫をすることも考えられます。なお、中学校に売店を設置する予定はありません。

意見の概要	市の考え方
楽しく学べる学校を作ってほしい。	「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育むため、「分かる・できる・楽しい」と思うことができる授業づくりをしたり、札幌の豊かな環境を生かした体験的な活動をしたりと、教育に関する様々な取組を進めていきます。
学校間における交流の機会を増やしてほしい。	子ども同士が交流することは、相手のいいところに気付き、お互いを大切にすることや、ものの見方や考え方を広げることにつながるため大切です。今後も、学校内外において、子ども同士が交流する機会を充実させていきます。
休日にも篠路小学校の体育館を開放してほしい。	篠路小学校の体育館については、土曜日・日曜日は少年団や地域のサークル活動でご利用いただいています。区の体育館や区民センター、児童会館など、学校体育館のほかにも運動ができる場所もありますので、利用の目的に沿ってご利用ください。
小学生・中学生だけでなく幼児の子育て支援に注力してほしい。	子どもや子育てに関する総合的な計画を立て、その計画に沿って子育てしやすいまちづくりを進めています。今後、保育所などの定員を増やしたり、子育て情報専門のホームページを開設して分かりやすく情報発信したりするなど、様々な取組を行っていきます。
院内学級の設置を支援してほしい。	今後も、特別な教育的支援を必要とする方が、できるだけ身近な地域で教育を受けることができる環境を整備していきます。

施策3:歩いて暮らせるまちづくり

意見の概要	市の考え方
街のバリアフリー化を進めてほしい。 (類似意見 21件)	多くの方が利用する建物では、障がいのある方や高齢者が支障なく利用できるよう、条例により、通路や入口の幅、スロープの設置等の基準を決めています。今後も、より多くの建物でバリアフリー化が進むよう、基準の周知などの取組を進めていきます。
お年寄りやベビーカーに対応できるよう、駅にもっとエレベーターを設置してほしい。 (類似意見 3件)	現在、地下鉄駅では1基以上のエレベーターが整備されていますが、更なるバリアフリー化の推進に向けて、地下鉄駅エレベーターの増設に取り組んでいます。
大きな病院を増やしてほしい。	子どもからお年寄りまで誰もが健康で安心して暮らしていくためには、いざというときに頼りになる病院は欠かせないものです。今後の人口推移や必要となる病院の機能について、医療関係者と情報を共有し、計画的な医療提供体制づくりを進めていきます。
施設整備に当たってはユニバーサルデザインを採用するとよい。	「新・札幌市バリアフリー基本構想」に基づき、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを目指します。

意見の概要	市の考え方
<p>高齢者が暮らしやすいまちづくりを進めてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>自動車を使わない人が増えてきて暮らしやすいまちづくりを進めるため、地下鉄駅周辺で都市機能の集積を図るほか、一般住宅地や郊外住宅地においても、身近な場所に日常生活に必要な食品・日用品などが買えるお店が立地ができるよう土地の使い方のルールを定め、必要に応じてその範囲を広げています。市内におけるバス路線の運行は、民間バス事業者が行っており、バス停の設置については、停留所間隔や、設置場所周辺住民の了承、交通の安全が確保できるかなどを総合的に考えた上で、バス事業者が決定しています。バス停の増設について市民から要望があった際には、バス事業者にお伝えいたします。</p>
<p>ハイテク化するなど、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりをしてほしい。</p>	<p>日本各地では、AI（人工知能）で動くロボットや自動で荷物を運んでくれるドローンなどの高度な技術を活用した様々な実験が行われています。札幌市でも、こうした技術を積極的に活用していくことが非常に重要であると考えており、街中で自動で運転する車を走らせる実験やセンサーで取得したデータを活用した除雪の実験など、様々な取組を進めています。今後も、最新の技術を取り入れながら、市民が安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。</p>
<p>エスカレーターの歩行禁止をもっと呼びかけてほしい。</p>	<p>地下鉄駅ではエスカレーター利用マナーについては、駅構内ポスターやエスカレーター乗り口に貼付するステッカー等の啓発物や構内放送、駅員の呼びかけや啓発グッズの配布などを行うキャンペーンの実施等により、普及啓発に努めているところです。今後も、より効果的なマナー啓発方法を検討し、実施してまいります。</p>
<p>地下施設などで移動がしやすいように案内標識など誰もがわかりやすいようにしてほしい。</p>	<p>地下空間でも、わかりやすい案内標識となるよう、検討を進めてまいります。</p>

政策目標3 地域の課題を地域の力で解決する街

施策1: 地域活動を活発化する環境づくり

意見の概要	市の考え方
<p>多世代交流を推進するとよい。 (類似意見 12件)</p>	<p>小学校の改築に合わせて、子どもからお年寄りまで幅広い世代が一緒に利用できる施設の整備を進めることで、多世代交流を図っていきたいと考えています。</p>
<p>児童生徒の地域活動やボランティア活動を活発化させてほしい。 (類似意見 6件)</p>	<p>子どもの豊かな人間性や社会性を育むため、発達の段階に応じた多様な人々とのふれあいやボランティア活動等の体験的な活動の充実を推進しています。また、ボランティア活動の相談や情報提供などを行う「札幌市ボランティア活動センター」を支援し、ボランティア活動の普及に努めているほか、買い物やごみ出しなど日常での困りごとに対して有償で行うボランティア活動についても支援しているところです。</p>
<p>住民のまちづくりへの参加を促進するべき。 (類似意見 3件)</p>	<p>住民によるまちづくり活動への参加促進に向けて、町内会など地域のまちづくり活動を担う団体に対し、様々な支援を行うとともに、町内会についてより多くの住民に知ってもらうための啓発活動を行っています。今後、災害時の支え合いなど、地域のつながりはますます重要となると考えられることから、町内会への加入促進や活動に参加するための支援を継続してまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
地域と小・中学校の関わりを増やす取組をすべき。	子どもの健やかな成長を願う気持ちは家庭や地域の方々には共通するものであり、学校と家庭や地域の方々協力をすることは、これからますます重要になると考えています。学校から積極的に授業や様々な活動の様子を、家庭や地域の方々へ伝えるなど、連携に努めていきます。
跡地や空き家などを再利用して、お店を増やしてほしい。	魅力的な店舗の創出を図るため、空き店舗等を活用した新規開業や商業者グループによる新商品開発等に対する支援を行ってまいります。
商店街を増やしてほしい。	商店街の活性化を図るため、商店街が主体となり取り組む集客力向上に資する取組や、夏祭りなどのにぎわい創出イベント等に対する支援を行ってまいります。
市民の健康づくりと地域の人々との結びつきを高めるために、どの世代でも参加できる地域のスポーツイベントをしてほしい。	各区では、健康づくりや区民の親睦を深めることなどを目的として、区の特性を活かした様々なスポーツイベントを実施しています。また、地域の方々企画・運営して運動会などを開催している町内会もあります。今後も、幅広い世代の方々に参加していただけるようなスポーツイベントの実施や、町内会の活動への支援を継続してまいります。
町内会を増やしてはどうか。	札幌市には、一定区域ごとにつくられた約2,200の町内会・自治会があり、地域の親睦を図りながら、住みよい街をつくるため、様々な活動を行っています。今後もこうした活動が活発に行われるよう、町内会・自治会が抱える課題の解決に向けた支援などを行ってまいります。また、新たに町内会・自治会をつくろうとする地域への支援も、引き続き行ってまいります。

施策2：地域マネジメントの推進

意見の概要	市の考え方
防犯カメラを設置してほしい。 (類似意見 4件)	地域で防犯上不安がある場所に町内会が防犯カメラを設置する場合には、その費用を補助する制度を実施しています。今後も、地域で防犯活動を担う町内会等への支援を実施してまいります。
高齢者向けの防犯対策の呼びかけを行ってほしい。	「特殊詐欺」に関する出前講座を実施したり、北海道警察と一緒に札幌駅などで防犯対策を書いたパンフレットを配布したりするなど広報啓発に努め、高齢者に防犯を心がけていただくよう呼びかけを実施しています。
条例で罰則を設けるなどして、不審者対策を強化してほしい。 (類似意見 6件)	「札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等に関する条例」を定めて、地域で犯罪を未然に防止するための様々な取組を実施しています。今後も北海道警察等と連携しながら、犯罪のない安全で安心な街の実現を目指してまいります。
治安が悪い地域をなくしてほしい。 (類似意見 2件)	すすきの地区を中心とした繁華街における風俗店等に係る勧誘行為等の迷惑行為を禁止する通称「すすきの条例」を定めて警察による取締りや、すすきの地区での街頭啓発パトロール、フランター設置による環境改善などを実施しています。今後も、北海道警察と連携しながら、市民や観光客の安全で安心な生活環境の確保を目指してまいります。
募金専用の施設を作してほしい。	札幌市では、複数の部局において目的に沿った寄付を募っており、各公共施設や事業者にも協力してもらい、一部、募金箱の設置を行っております。広く市民に募金にご協力いただける環境づくりを進めていきたいと思っております。

施策3:雪と共存した暮らしの推進

意見の概要	市の考え方
<p>除排雪の取組を充実してほしい。また、道路凍結による転倒を防止してほしい。 (類似意見 11件)</p>	<p>除雪作業によって発生する雪山については、交差点部における視界不良など交通の支障となる場合には、必要に応じて排雪作業を行うように努めており、加えて雪山が高くなりやすい、路肩の狭いバス路線を対象に排雪作業の強化を拡大していきます。併せて除雪ボランティア活動の拡大を推進しており、小型除雪機及び除雪用具の貸出しや広報活動を行っています。凍結路面对策については、歩道への滑り止め材の散布回数を増やすとともに、市民や店舗との協働による砂まき活動を推進しています。市内各所に歩行者用の砂箱を設置していますので、砂まき活動にご協力をお願いいたします。</p>
<p>公共施設などにおいて、雪を利用した冷房の活用を進めてほしい。</p>	<p>モエシ沼公園や山口斎場、円山動物園などで雪を冷房に利用しており、電気代や、通常の冷房装置の稼働により発生するCO₂を削減しています。大量の雪が必要となることから、保管場所の確保や維持管理に多くの費用が必要になるといった課題もありますが、今後も雪を活用する可能性を考えていきます。</p>
<p>公園などを活用して雪堆積場を増やし、道路の排雪作業を効率的かつ効果的に行い、道路環境を良くするべき。</p>	<p>土地利用の進展に伴い雪堆積場の確保が年々困難な状況になっている中、公園や休遊地、一般民有地などを雪捨場（雪堆積場）として活用できれば非常に有効ですので、今後も更なる活用に向けて検討を進めていきます。また、全ての道路について完全に排雪し、夏と同じような環境にすることは、非常に困難ですが、除排雪作業の効率化や省力化に向けた検討などを進め、少しでもよい道路環境を確保できるよう努めていきます。</p>
<p>藻岩山スキー場のリフト乗り場の混雑解消の取組をするとよい。</p>	<p>藻岩山スキー場の運営については、りんゆう観光や札幌振興公社などからなる協議会を組織して行っていることから、リフト乗り場の混雑解消に向け、協議会で検討してまいります。</p>
<p>除雪を校外活動の一環として行い、多世代交流を促すとよい。</p>	<p>子どもの豊かな人間性や社会性を育むため、発達の段階に応じた多様な人々とのふれあいや、ボランティア活動等の体験的な活動の充実を推進しています。除雪については、個人や部活動の一環として取り組むよう推進しているところです。今後も児童生徒の自発的な意志が尊重されるようなボランティア活動を推進していきます。</p>
<p>ロードヒーティングを増やしてほしい。 (類似意見 6件)</p>	<p>ロードヒーティングについては、整備・改修費のみならず、雪を融かすための光熱費に多額の費用を要することから、新たにロードヒーティングを設置することは難しいため、札幌駅前通や地下鉄・JR駅周辺の人通りが多い交差点に歩道用砂箱を設置し、通行する方に砂まきのご協力をお願いしています。なお、札幌市内の歩道ロードヒーティングのほとんどは、沿道の方の費用で設置および管理をさせていただいているものです。</p>
<p>ウインタースポーツ未経験外国人向けのイベントがあるとよい。</p>	<p>世界中の人に札幌の冬の魅力を楽しんでいただけるように、スキー場などの民間事業者とも協力して、雪を生かした魅力の向上や多言語対応などの受入環境整備に取り組んでいきます。</p>
<p>高齢者のために、中学生が雪かきを手伝いに行くなどのボランティア活動をしたい。</p>	<p>高齢者など自分で除雪をすることが難しい方の除雪を支援する福祉除雪という制度があります。福祉除雪事業を行う各区の社会福祉協議会では、福祉除雪やその他のボランティア活動に参加いただける方を募集していますので、ぜひご協力をお願いします。</p>

意見の概要	市の考え方
スキー場や公園などでの雪のイベントを進めてほしい。	現在、子どもを対象としたウインタースポーツの体験事業などを実施しているところですが、今後も市民が雪に親しめる機会を増やせるよう考えていきます。

政策分野「産業・活力」

政策目標4 北海道経済の成長をけん引する街

施策1:食の魅力を生かした産業の高度化

意見の概要	市の考え方
札幌の経済を活性化してほしい。 (類似意見 1件)	「雇用の場の確保・創出」及び「企業・就業者の収入増加」という産業振興の目的に沿って、魅力あふれる街の実現を進めてまいります。
道産野菜を札幌から全国へ広げていくとよい。	札幌産農産物の知名度アップによる販売促進と地産地消を図るため、地域ブランド「さっぽろとれたてっこ」制度の運用を行っているところです。
食料自給率を引き上げるために、農家への支援に力を入れてほしい。 (類似意見 3件)	食料自給率の向上のためにも、農地の保全・活用は重要と考えており、農地の利用状況や所有者の意向の把握等を行っています。また、農業の担い手の育成・確保も重要であることから、新規就農者への支援をはじめ、農業者への各種支援策を行っています。
特色のある作物の栽培を促進してほしい。	平野部や山間丘陵地帯、砂質土地帯などそれぞれの立地条件や環境に適した様々な作物が栽培されており、地域ブランドとして育成してまいりました。今後も地産地消を基本とした「さっぽろとれたてっこ」制度のもと、地域ごとに栽培に適した新たな作物の導入を検討しながら、農業者に対して必要な支援を行ってまいります。
札幌市外に展開できる多様な商品やサービスを創出し、経済の活性化を図ってほしい。 (類似意見 1件)	人口減少による道内市場の縮小が見込まれる中、経済を更に活性化するためには、道外、さらには海外の新たな市場にモノやサービスを売るという道外需要の開拓が重要と認識しており、引き続き、札幌の魅力を生かした新たな価値を創造する産業を支援してまいります。

施策2:魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進

意見の概要	市の考え方
写真撮影に適したスポットや飲食店を集めた場所を整備するなど、取組を進めてほしい。 (類似意見 2件)	札幌市として、魅力的な観光地づくりを検討していくとともに、新たな魅力を創り上げる民間事業者に対しては、補助金を交付するかたちで支援し、観光スポットづくりに努めていきます。
インターネットによる情報発信を強化し、観光客増加を図ってほしい。 (類似意見 11件)	観光サイト「ようこそさっぽろ」で、インターネットを活用し写真等を含めた各種ページ作成を行うとともに、FacebookやTwitterなどのSNSを活用した情報発信も行っております。今後も、観光客により興味をもっていただけるような発信方法を検討していきたい思います。
観光スポットや冬のイベントを増やしてほしい。 (類似意見 13件)	冬期間、北3条広場（アカブラ）にスケートリンクを設置することを検討しており、毎年11月下旬から点灯しているイルミネーションなどを活用して、札幌ならではの魅力的な会場を作ること新たな観光スポットにしていきたいと思っております。

意見の概要	市の考え方
冬季オリンピック・パラリンピックを招致するために札幌に宿泊施設を増やしてほしい。 (類似意見 8件)	オリンピックなどの大きなイベントを開催するには、宿泊施設の充実が必要であることから、富裕層向けホテル誘致に向けた検討を進めるなど、多くの観光客に来ていただき快適に過ごしていただくための取組を進めていきます。
外国人観光客のために、多言語対応の案内板などの設置を進めてほしい。 (類似意見 14件)	外国から来る観光客が快適に市内を観光できるよう、多言語観光マップの発行や多言語表示の案内板整備、飲食店を対象とした外国語講座の開催等を行っており、引き続きニーズに合わせた受入環境の整備に取り組んでまいります。
外国人観光客の増加による観光消費の底上げを進めてほしい。 (類似意見 11件)	たくさんの外国人観光客に来てもらえるよう、札幌の魅力を世界に発信するとともに、観光客に満足してもらえるよう、ニーズに合わせた受入環境の整備や新たな魅力づくりに取り組んでまいります。
フリーWiFi設置個所を増やしてほしい。 (類似意見 3件)	観光客向けに公衆無線LAN「Sapporo City Wi-Fi」を運用しており、地下鉄主要駅や市内観光施設等で利用が可能となっています。今後、観光客が多く訪れる施設等で新たに設置することを検討していきます。
観光都市としての魅力を高めてほしい。 (類似意見 14件)	札幌に来た観光客に、また来たいと思ってもらえるように、観光都市としての魅力を高める取組を、民間事業者とも協力して進めていきます。
冬季オリンピックに合わせて雪まつりの日程を調整してほしい。	オリンピックの開催に伴い、世界各国から来る多くの方々に札幌の冬を象徴するイベントである雪まつりを見ていただくことは、札幌を世界に発信する絶好の機会になります。オリンピックの開催が決まった時には、どのような日程で雪まつりを開催するのがよいのか考えていきたいと思えます。
雪を知らない、見たことがない人達に札幌の雪を見せてほしい。(類似意見 20件)	札幌市にはスキー場など雪を楽しめる施設や雪まつりなどの冬のイベントがたくさんありますので、札幌の冬の魅力を世界に発信し、世界中から札幌の雪を見に来てもらえるように取り組んでいきます。
テレビ塔から見える札幌の景色をもっとPRしてほしい。	テレビ塔からの景色を使ったポスターを作成しており、全国各地のイベントや物産展で掲出するほか、旅行会社や宿泊施設への提供、観光案内所での掲示など、様々な場面で活用しています。今後も、更に多くの人にPRしていきたいと思えます。
健康な体を維持するために、運動施設などをもっと身近にしていけるとよい。	将来の人口減少などの環境変化を踏まえ、施設を効果的に活用するため、他の公共施設など、地域に身近な施設でもスポーツができないか検討します。
雪まつりの広報を更に強化してほしい。 (類似意見 3件)	パンフレットを作成し、旅行代理店や空港に配布しているほか、外国語に対応したホームページから、世界に向けて情報を発信しています。さらに昨年の雪まつりでは、ドローンを駆使したPR動画を撮影し、YouTubeへの投稿やプロモーションDVDを作成しました。これからも色々な媒体を活用して広報をしていきます。
冬だけではなく夏のイベントも増やしてほしい。 (類似意見 7件)	雪が降らないシーズンにも、ライラックまつり、YOSAKOIソーラン祭り、夏まつり、オータムフェストなど様々なイベントを実施しています。一年を通してたくさんの方に札幌に来ていただくために、雪まつりなど冬のイベントも含めて、これらを充実させていきたいと考えています。

意見の概要	市の考え方
身近に商業施設のある街にしてほしい。	これまでも、郊外の住宅地では、歩いていくことができるような身近な範囲に、日常生活に必要な店舗が立地できるよう、都市計画のルールを変更してきたところです。今後も、生活に必要な施設の立地について、市民の声を聞きながら、検討を進めていきます。
雪像制作体験を雪まつりに盛り込み、外国人観光客を誘致してほしい。 (類似意見 2件)	雪まつりでは国際雪像コンクールという企画を実施しており、世界の国や地域を代表して札幌に来た人々が、それぞれに雪像を制作し、出来栄を競っています。この企画では、会場を訪れる市民や観光客と各国の選手が交流を楽しんでいます。このように外国人が雪像制作を体験でき、また、市民などと交流を深められるような場を作ることで、観光客の誘致につなげていきたいと考えています。
自然を存分に楽しめるイベントなどをもっと活性化してほしい。 (類似意見 3件)	豊かな自然やアクティビティを生かした観光コンテンツを検討していきます。
冬期間の観光振興は、本州からの誘客に関する効果が薄く、実施すべきではない。 (類似意見 2件)	札幌市には、日本新三大夜景に認定されている夜景や、一年を通して大通公園で開催されるイベントなど、様々な魅力があります。冬期間もウィンタースポーツだけではなく、ホワイトイルミネーションや雪まつりなどの観光コンテンツを引き続き工夫して国内や海外へ発信していきます。
雪まつりで使用する雪の運搬に市民の協力を募り、近隣の公園などからの採雪により、予算を削減してほしい。	近隣の公園などからの採雪については、道路にまかれた融雪剤が含まれている可能性が高く、融雪剤が含まれた雪で雪像を作ると出来上がった雪像を溶かしてしまい、雪像が倒れてしまう危険性があります。また、生活道路をたくさんのトラックが行きかうことで渋滞を引き起こしてしまう可能性があるなどの課題もあります。雪まつりの雪輸送はその時に降り積もっている雪の量に大きく左右されてしまうため、今後も予算を節約できる方法を考えていきます。
2020東京オリンピック時に公共交通機関を正常に利用できるよう準備してほしい。	交通輸送対策については、市民に不便がないよう、地下鉄やバス事業者と連携して、交通輸送の計画を立てるとともに、ボランティアに協力していただき、外国人観戦客に対して丁寧な案内誘導を行います。
遊園地やレジャースポットなど魅力的な施設を作ってほしい。 (類似意見 17件)	遊園地やレジャースポットなどの大きな施設の整備には、多くの費用がかかるため、大規模な街づくりの動きに合わせて検討し、民間企業などと協力して実施することになります。現在も札幌ならではの魅力的な観光スポットや観光施設が数多くありますので、これらの札幌の強みを生かしながら、更なる魅力アップを進めていきたいと思えます。
古いお寺や昔の建物を取り壊さずに古い建物を見るツアーを作ってほしい。 (類似意見 2件)	時計台や豊平館などの市が所有する歴史的な建物を適切に保存・活用することはもちろん、市内の様々な歴史ある建物を多くの人に知ってもらい、大切に将来に残していくための取組を行っています。歴史ある建物が街の魅力として注目されるようになることで、旅行会社のツアーに組み込まれるなど、民間事業者による活用にもつながっていくものと考えています。

意見の概要	市の考え方
札幌ならではの観光プランを作成してほしい。	札幌の新たな魅力を創出する民間事業者に対して、補助金を交付し、観光資源の充実に努めています。また、海外の旅行会社等を札幌に招待し、観光スポットを視察してもらうことで、ツアーなど旅行商品の企画を働きかけています。今後も魅力的な観光資源を創出し、それらを組み込んだツアーが増えるよう、働きかけていきます。
キャッシュレスを推進してほしい。	キャッシュレス推進により観光客の利便性を向上することで、再訪意欲を促し観光の振興を図ります。また、市内のキャッシュレス決済環境が整備されることで、市民生活の利便性向上にもつながります。
観光税を導入してほしい。	観光客が増えると、様々なお店の売上げが伸び、札幌市の経済が発展すると考えられますので、これからも観光客を増やす取組を積極的に進めていきます。
もいわ山モーリスカー、ロープウェイの効率化や強化を進めてほしい。	もいわ山ロープウェイなどの強化等については、運営している株式会社札幌振興公社に伝えてまいります。

政策目標5 国内外の活力を取り込む街

施策1:世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開

意見の概要	市の考え方
国際都市として発展してほしい。	外国人が安全・安心して生活ができるように、言語の違いがあっても、相談ができ、サービスが受けられる仕組づくりを進めていきます。また、最低限度の日本語や、地域の文化・生活習慣等を学んでもらうための機会を整備していく必要があると考えています。
外国人労働者の受入を増やしてほしい。 (類似意見 4件)	近年、市内企業における様々な産業分野において、人手不足感が高まっており、外国人材も含めて、その技能や専門性を存分に発揮できる環境づくりなどに取り組んでいきます。
外国人との共生を進めるとともに、その一環として外国の文化に触れる機会を設けてほしい。 (類似意見 2件)	外国人の孤立化防止と暮らしの不便不安を解消するための支援や仕組づくりを進めるとともに、地域における異文化理解の一層の推進に取り組むことにより、誰もが安心して安全に暮らせる共生社会の実現を目指します。

施策2:創造性を生かしたイノベーションの誘発

意見の概要	市の考え方
漫画やゲームのイベントを札幌でも開催し、若者を引き付けてほしい。	漫画やゲームを含む、若者を引き付ける力がある「クリエイティブ産業」の活性化に向け、企業やクリエイターの支援に取り組むこととしており、この取組を通して、クリエイティブ産業と他の産業の結び付きを促進し、新たなサービスやイベント等の創出につなげてまいります。
北海道自慢の自然豊かな風景を活かしアニメや漫画の聖地を作してほしい。	豊かな自然など、札幌・北海道ならではの魅力を生かしたロケ撮影の誘致のほか、アニメや漫画を含む「クリエイティブ産業」の活性化に向け、クリエイター等の支援にも積極的に取り組むこととしており、これらの取組みを通して、札幌発のコンテンツの創出を促進し、札幌の魅力を国内外に広く発信していきます。

意見の概要	市の考え方
IT技術に頼りすぎないで仕事をすべき。 (類似意見 2件)	ITは、働く人をサポートし、人の暮らしをより良くするための道具であることから、「IT技術に頼りすぎないで仕事をすべき」という考えは非常に重要だと考えています。 一方で、ITを上手に活用することは、今ある仕事の効率化や新しい便利なサービスの提供を通じて、企業の成長や雇用の増加にもつながります。 こうしたことから、ITが得意とする部分について、様々な企業における活用を支援していくことで、札幌の産業を振興していきます。
中小企業が存続していけるように、支援を進めてほしい。 (類似意見 1件)	低利融資制度や経営相談など中小企業の下支えに資する取組に加え、新しい事業に挑戦する中小企業への支援に取り組んでまいります。
市内企業の情報発信をするべき。	インターネット上の就職支援サイトで、中小企業の情報発信を支援する「ローカルマッチプロジェクト事業」の取り組みを通じて、市内企業の魅力発信を行っています。
経済の改善のため工業を強化してほしい。	新技術開発支援に対する補助金や生産性向上に向けた支援を行っています。 また、工場等に対する設備投資の補助を行い、産業基盤の強化を図ってまいります。
若者にとって魅力的な街にするため、店舗等の誘致を進めてほしい。 (類似意見 10件)	魅力的な店舗の創出を図るため、空き店舗等を活用した新規開業や商業者グループによる新商品開発等に対する支援を行ってまいります。

施策3: 広域連携ネットワークの強化と投資環境の充実

意見の概要	市の考え方
北海道新幹線の札幌延伸を見据え、札幌駅周辺を魅力的にすることで、来札者の増加を図ってほしい。 (類似意見 12件)	北海道新幹線札幌延伸を見据え、札幌駅周辺では道都札幌の玄関口にふさわしい、魅力的で一体感のある空間を形成します。 特に、新幹線駅が設置される北5西1については、隣接する北5西2と一体的な再開発を行い、新たなシンボル空間を創出し、高次都市機能の集積を図ることで、来街者の増加を図っていきます。
海外企業の誘致を積極的に行ってほしい。 (類似意見 3件)	企業誘致にかかる補助制度の拡充を行い、海外企業も含め、積極的な企業誘致活動に取り組んでまいります。
北海道新幹線の開業に向けて、老朽化したビルを商業施設に建て替えることは多くのお金がかかるため、実現できないのではないかと。	北海道新幹線の開業に向けて、民間事業者による建て替えの動きが活発化していることから、その実現に向けてしっかりと調整、支援をしていきます。特に、札幌市が土地を所有している北5西1については、民間事業者と連携し、新幹線開業に向けて便利で魅力的な施設を整備するため、検討を進めます。
札幌駅周辺のようにどこにでもいけるような街を他の地域にも作ってほしい。	地下鉄やJRの駅の周辺など、利便性が高く周辺地域の生活を支える役割を担う地域を、地域交流拠点として位置付け、拠点としての魅力・機能の向上を図るため、様々な種類の建物を建てられるように土地利用のルールを定めています。地域交流拠点においてはそれぞれの拠点にふさわしい取組を進め、にぎわいや交流が生まれる場を創出するなど多くの人が訪れたいような拠点として、まちづくりを行ってまいります。

意見の概要	市の考え方
札幌駅のまわりのリニューアルに当たっては、古いビルを建て替えてしまうのではなく、ビルの特徴を活かしたお店を出すようお願い。 (類似意見 1件)	ご意見を参考に、開発事業者と協議を重ね、より魅力的な札幌駅となるよう再開発を支援、推進します。

施策4:シティプロモート戦略の積極展開

意見の概要	市の考え方
札幌を知ってもらうためのPRを活発に行うべき。 (類似意見 4件)	豊かな自然、おいしい食べ物、四季折々のイベントなどの札幌の魅力をマスメディア、ウェブサイト、イベントなどを通して情報発信するだけでなく、個人による情報発信が盛んとなり多様化する社会に対応するため、SNSなどを活用して市民などととも国内外に情報発信する取組も進めてまいります。
YouTubeなどに札幌市のPR動画を投稿し、多くの人に札幌市の魅力を伝えてほしい。 (類似意見 3件)	YouTubeチャンネル（SapporoPRD）において、札幌市のPR動画や市政情報動画などを公開しています。そのほか、ホームページや、Twitter・Facebook・InstagramなどのSNSを活用し、市政やイベントの情報、魅力的な風景などを発信しています。より多くの方に札幌市の魅力をお伝えできるよう、これからも、様々な方法で情報発信していきます。
東京オリンピックにおけるマラソン・競歩の札幌開催決定を受け、外国人受入環境の整備を早急に進めてほしい。 (類似意見 14件)	外国から来る観光客が快適に市内を観光できるよう、多言語観光マップの発行や多言語表示の案内板整備、飲食店を対象とした外国語講座の開催等を進めています。今後も更に外国人観光客の増加が見込まれることから、引き続きニーズに合わせた受入環境の整備に取り組んでまいります。
東京オリンピックのマラソン及び競歩の札幌開催に向け、市内の混雑対策や市民生活への影響防止などを進めてほしい。	東京2020大会の札幌開催に当たり、多くの観戦客が訪れるため、道路や施設の維持管理に取り組むとともに、混雑対策として、ボランティアに協力していただき、観戦客に対して丁寧な案内誘導を行ってまいります。また、大会期間中も市民が安心して生活し、多くの方に札幌でのオリンピックを楽しんでいただけるよう警察や消防と連携して準備を進めていきます。
スポーツへの興味関心を持つ市民が増えるように、スポーツの取組を推進してほしい。 (類似意見 1件)	スポーツには「する」、「見る」、「支える」といった様々な関わり方があることから、市民の関心や活動の目的などの違いに応じて、スポーツに取り組むことができるような環境づくりを進めていきます。
ふるさと納税を活用し、まちづくりに必要な財源の確保を進めてほしい。 (類似意見 1件)	寄付金がどのように使われ、役立っているのかを知ってもらい、また、寄付してくれた方に札幌ならではのおいしい食べ物や、楽しさを体験してもらう機会をお礼として提供し、札幌にもっと関心をもってもらい、もっと多くの寄付が集まるように工夫していきます。
スポーツのイベントを増やすなどして、魅力あるまちづくりを進めてほしい。	札幌市に本拠地を置くプロスポーツチームと連携して、各チームの試合観戦への招待など、スポーツを通じたまちづくりに向けた取組を進めていきます。
平和で住みよいまちづくりのために、スポーツの普及を推進してほしい。	市民がスポーツに関心を持つことは大切なことだと思います。スポーツには「する」、「見る」、「支える」といった様々な関わり方があることから、市民の関心や活動の目的などの違いに応じて、スポーツに取り組むことができるような環境づくりを進めていきます。

意見の概要	市の考え方
海外アーティストやイベントを誘致してほしい。 (類似意見 1件)	若手音楽家や世界を代表する音楽家がオーケストラや室内楽などに取り組み、良質な演奏会を多くの市民に提供するパンフィック・ミュージック・フェスティバル (PMF) や、海外からのアーティストも招いた都市型ジャズフェスティバルのサッポロ・シティ・ジャズを開催しています。 また、世界的なコンサートホールであるコンサートホール Kitaraや、本格的なオペラ・バレエなどの舞台芸術や各種コンサートが可能な文化芸術劇場hitaruのほか、民間施設を含めて大小様々なホールがあります。 これからも、あらゆる人が気軽に文化芸術の魅力に継続的に触れられるような取組を進め、街の活力の向上や都市の魅力アップにつなげていきます。
北海道にプロラグビーチームを作ってほしい。	日本にはラグビーのプロリーグはまだありませんが、将来、プロリーグが発足することとなった際には、チームの誘致などができるかを検討していきたいと考えています。
東京2020大会のマラソン競技に当たって来札される方に、夏にもできるウインタースポーツを体験してもらおうとよい。	多くの方が来札されることはウインタースポーツを知っていただくよい機会だと認識しておりますので、どのようなことができるかを検討していきたいと考えています。
地域密着型の自転車チームを作ってほしい。	スポーツチームは、そのスポーツに取り組む市民や企業などの力によって成り立つものですが、札幌市としてもスポーツに関わる様々な方々と協力して普及振興を進めていきたいと考えています。
オリンピックで北海道の食をアピールしてほしい。	オリンピックでは世界中から注目が集まることから、多言語観光サイト「ようこそさっぽろ」などを通じて、北海道・札幌の魅力的な食文化を、世界に向けてアピールしていきます。
札幌ご当地キャラクターをたくさん作ってほしい。 (類似意見 1件)	各区において、独自のキャラクターを作成し、イベントや広報に活用しているところであり、今後ともこうした取組を進めてまいります。

施策5:さっぽろ未来創造プロジェクト

意見の概要	市の考え方
冬季オリンピック・パラリンピック招致を進めてほしい。 (類似意見 6件) オリンピックは招致しないでほしい。 (類似意見 10件)	冬季オリンピック・パラリンピックには子どもたちに夢や希望を与え、ウインタースポーツを振興し、世界平和に貢献するという意義があります。また、1972年の冬季オリンピック開催を契機として整備された社会基盤や競技施設の更新、バリアフリーの促進といったまちのリニューアルを加速させていくという効果もあると考えています。このように冬季オリンピック・パラリンピックは一過性のイベントではなく、まちづくりを加速させ、市民の生活をより豊かにしていくきっかけとなるものと考えており、大会の招致を目指しています。 一方で開催経費については、既存の施設を最大限活用するなど、財政負担をできるだけ抑える方法を検討することで、将来に過度な負担を残すことのない計画としていきます。
冬季オリンピックなどウインタースポーツの大会を開催して札幌経済を活性化してほしい。	地域スポーツコミッション事業では、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することにより、国際大会や事前合宿、スポーツイベントの誘致活動を通じて、国内外へ北海道・札幌の魅力を発信するとともに、インバウンド振興など交流人口の拡大を図り、経済の活性化に取り組んでいます。

意見の概要	市の考え方
冬季オリンピックの招致に向けて、会場の建て替えをしてほしい。	冬季オリンピック・パラリンピックの招致に当たっては、開催経費を縮減し、将来世代に過度な負担を残さない大会とするため、既存施設を最大限に活用することとしておりますが、老朽化した施設や国際大会基準に合わなくなってきている施設については、将来的な需要などを踏まえながら必要な改修や建て替えを行い、冬季スポーツのすそ野の拡大や観戦文化の醸成を図っていきます。
新幹線の札幌延伸を早く進めてほしい。 (類似意見 2件)	現在、2030年度末の札幌までの延伸に向け、新函館北斗駅と札幌との間で、北海道新幹線の建設工事が進められているところです。引き続き、工事が滞りなく進められるよう、様々な調整を行うとともに、早期延伸を目指し、関係機関と連携して国等への要望を行ってまいります。
トンネル掘削の残土について、地元の意見をもっと聞いてほしい。	北海道新幹線のトンネル工事などで発生する土のうち基準を超える重金属等が含まれる土、いわゆる対策土について、現在、市内2か所の受け入れ候補地の周辺住民の皆様に対し、当該候補地が受入に適する土地かどうかを調べるための事前調査に係る説明会を実施したところです。 説明会の実施に当たっては、事前に地域町内会への説明や、報道機関への情報提供のほか、事前に各地域の全戸への案内を配布しているところです。 現在、説明会を経て、地域住民の方からは、まだ、事前調査実施に向けたご理解はいただけていない状況ですので、ご理解いただけるよう、実施主体の鉄道・運輸機構とともに、住民の皆様から幅広くご意見をお聞きし、丁寧に説明を尽くしてまいります。

政策目標6 産業分野の人材を育む街

施策1: 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用

意見の概要	市の考え方
勉強道具のページ数を減らし値段を抑えるほか、種類についても、もう少し減らした方がよい。	学校の授業で教科書を使うことは、法律で定められており、その他の補助教材についても、授業が一層充実するよう各学校で定めています。これからも保護者の経済的な面や児童生徒の持ち運びの面の負担とならないように配慮してまいります。
全ての中学校で置き勉強ができるようにしてほしい。 (類似意見 1件)	教科書などの学習用具は、いつでも使えるように常に手元にあることが望ましいですが、生徒の健康を損なうことのないよう、登下校時の持ち運びの負担に配慮することも大切です。学校に学習用具を保管することについては、各学校で工夫しています。荷物が重いことによる健康面の不安がある場合には、先生に相談してみてください。
人材育成のため、教育に力を入れるべき。 (類似意見 1件)	子どもの「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育むため、児童生徒が「分かる・できる・楽しい」と思うことができる授業づくりをしたり、札幌の豊かな環境を生かした体験的な活動をしたりするなど、教育に関する様々な取組を進めていきます。
外国語指導助手（ALT）の活用を進めてほしい。 (類似意見 4件)	今後も、生徒が英語に慣れ親しみ、英語によるコミュニケーションに関心をもったり、異文化への理解を深めたりすることができるよう、ALTの活用をより一層進めます。
高校授業料の無償化を進めてほしい。 (類似意見 8件)	高校の授業料については、所得が高い家庭以外の多くの生徒が、国公立の高校は実質無料、私立の高校は一部減額されています。また、私立の高校は、来年度（2020年度）から、多くの学校で実質無料またはより少ない自己負担額で済むように、制度の改正が行われる予定です。

意見の概要	市の考え方
<p>中高一貫校や高等支援学校を増やしてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>現在のところ、中高一貫校や高等支援学校を増やす予定はありませんが、いただいた意見を参考にしながら、学びを支える豊かな教育環境づくりを進めてまいります。</p>
<p>子ども一人ひとりの自分で考えて行動する力を伸ばす取組を推進してほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>札幌市の教育が目指す人間像「自立した札幌人」には、一人の人間として「自立」とするとともに、他者を尊重し、支え合いながら生きていくという「共生」の思いを持った人に育ててほしいという願いを込めています。 子どもが自ら進んで学び、周りの人々と協力しながら生きていく力を高めることができるよう、教育に関する様々な取組を進めていきます。</p>
<p>図書館に、中高生が楽しめる本を増やしてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>図書館には、多くの方々に長年読んでいただくことができるように、様々な種類の本を集めて保存する役割があります。一方で、本を買うための予算にも限りがありますので、今後ともどういった本をそろえていくのが良いかよく考えていきます。 なお、中央図書館では、中学生・高校生向けの本を集めた本棚と読書スペース「ティーンズの森」を設けているほか、図書館入り口付近の展示コーナーでは中学生・高校生が興味をもちそうな「部活動」等のテーマでお薦めの本の紹介も行っていますので、読書活動の参考にしてください。</p>
<p>学生に対する職業体験や現場見学のイベントを行ってほしい。 (類似意見 9件)</p>	<p>学校における職業体験のほか、札幌市が実施する職業体験もあり、引き続き職業体験の機会を充実していきます。</p>
<p>若い世代にアイヌ文化に触れてもらうほか、観光資源としてもアイヌ文化を活用してほしい。 (類似意見 3件)</p>	<p>従来より実施している小中高校生を対象としたアイヌ文化の体験プログラム事業を充実させるとともに、アイヌの食文化を紹介する事業も実施予定です。 また、アイヌ文化を発信する空間（ミナパ）において、国内外の観光客のアイヌ文化への理解を深めるきっかけをつくるとともに、道内のアイヌ関連施設の情報を発信するほか、アイヌ文化交流センターの展示物の説明の多言語化にも取り組む予定であり、外国の方々にもアイヌ文化を積極的に発信していきたいと考えています。</p>
<p>札幌独自の取組を進め、人口の流出を防止してほしい。 (類似意見 40件)</p>	<p>平成27年度（2015年度）に策定した「さっぽろ未来創生プラン」の第2期プランを令和元年度末に策定する予定です。第2期プランでは、20歳代の首都圏を主とする道外転出の抑制を図るため、「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」と「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」を基本目標に据え、若年層の地元定着や道外からの人材還流を促進していきます。</p>
<p>札幌市内の企業を知ってもらうため、職場体験や広報活動に取り組んでほしい。 (類似意見 4件)</p>	<p>市内企業がインターネットを通じて情報発信をすることを支援する「ローカルマッチプロジェクト事業」や学生に職場実習機会を提供する「ワークトライアル事業」などの取り組みを通じて、市内企業の魅力発信を行っています。 また、次年度以降「さっぽろインターンシップ促進事業」の実施を予定しています。</p>
<p>若者の道外転出を防ぐため、早期に市内企業の情報を提供する等、地元就職につながる取組をしてほしい。 (類似意見 3件)</p>	<p>「ワークトライアル事業」、「ローカルマッチプロジェクト事業」を通して、市内企業の魅力を発信し、定着支援を行っています。 このほか、進学などで道外転出された方に対しても、「札幌Uターン就職センター」の取組を通して札幌の魅力を発信し、道外から札幌での就職を希望する方の支援を行っています。 また、次年度以降「奨学金返還支援事業」及び「さっぽろインターンシップ促進事業」の実施を予定しています。</p>

意見の概要	市の考え方
英語などにおける少人数指導や、少人数学級の拡大は、良い点と悪い点を踏まえながら検討すべき。 (類似意見 32件)	少人数指導や少人数学級の良い点としては、先生とのやり取りが多くなるということが考えられる一方、たくさんの友達とのやり取りが少なくなってしまうことも考えられます。このような良い点と課題を踏まえながら、よりよい授業形態となるよう、検討していきます。
タブレットを活用した授業を増やしてほしい。 (類似意見 6件)	学習内容の理解をより深めるために、ICT機器等を使ったほうが良い場面とそうではない場面があります。ICT機器等の活用については、学習内容や場面などに応じて考えていきます。
小、中、高校生でも専門的な事を深く学べるようにしてほしい。	学校での学習を機に、深く学びたいと思う学習内容ができたことはとても素晴らしいことです。今後も、一人ひとりが学習内容への興味・関心を高めることができるよう、工夫していきます。
テストではなく、生活態度や提出物などによる評価をしてほしい。	学習評価は、伸びを実感したり、学習に対する意欲を高めたりなど、学びの充実に生かすためのものであり、学校では、テストに加え、児童生徒の学習活動の状況や発表・発言の内容、レポートや作品など、様々なものから総合的に評価を行っています。
学力低下の対策をしてほしい。	学力や体力の高まり方は人それぞれです。ほかの人と比較するのではなく、自ら目標をもって、自分自身の力を高める取組を続けていくことが大切です。今後も、学校と家庭、地域が協力して、一人ひとりが自分の可能性を信じて努力し、成長していくことができるよう、支えていきます。
授業時間を短縮してほしい。 (類似意見 2件)	学校の日課は、児童生徒が心身ともに健康で、充実した学校生活を送ることができるよう、授業時間、休み時間、給食時間などのバランスを考えて学校ごとに決めています。児童生徒がそれぞれの時間の目的を理解した上で、前向きな気持ちをもって生活できることが大切だと考えています。今後とも一人ひとりが明るく元気に学校生活を送ることができるように努めていきます。
小中高の生徒の交流の場がほしい。	年代の異なる子ども同士が交流することは、下級生が上級生に対して憧れの気持ちをもつことや、上級生が下級生のお手本となるような意識をもつことなどにつながるため大切です。今後も、こうした機会を充実させていきます。
将来の就職などに役立つので、高校生のアルバイトを許可してほしい。	アルバイトを許可するかどうかについては、保護者の承認を得た上で、各学校が個別に判断しています。
海外の人たちと交流できる場を設けてほしい。	世界には日本と異なる伝統・文化があるということを理解することは大切です。今後も、皆さんが外国の伝統・文化に触れたり、外国の方と交流したりする機会を充実させていきます。
小・中学生向けの体験イベントを増やしてほしい。	子どもの健やかな成長のために、様々な体験や主体的な参加の機会はとても大切なものと考えています。これからも、自然や文化、スポーツ、社会体験など、札幌の特徴も生かしながら、多様な参加・体験機会の提供に取り組んでいきます。
子どもの農業体験が出来る所がほしい。	食農教育の取組として、サッポロさとらんどや、近隣農家等との連携のもとに、農業体験事業等を実施しています。

意見の概要	市の考え方
塾や学校の宿題を減らして、子どもの負担を減らしてほしい。	宿題の有無や量にかかわらず、一人ひとりが学校以外の場でも進んで学習に取り組む習慣を身に付けることは大切です。家庭での学習や習いごとなども含め、限りある時間を上手に使うことができるよう工夫してみてください。
学校において、コミュニケーション能力を養うような取組を進めてほしい。	授業の中で自分の意見を伝えたり、友達の意見に耳を傾けたりすることは、考えを広げ深めるとともに、コミュニケーションの力も高めることにつながるため、とても大切です。活発に意見を交換できる場数を多く設けるよう工夫していきます。
将来の世代が良い生活ができるような取組をしてほしい。	北海道新幹線の札幌延伸や冬季オリンピック・パラリンピックの招致などを見据え、都市のリニューアルなどにより、札幌の魅力を高めていくとともに、ワークライフバランスの向上や健康寿命延伸に向けた取組を推進することで、働きやすく将来も安心して暮らし続けられるまちづくりを推進していきます。
札幌の街の魅力を伝えるために、ホリデーテーリングを全市民が参加できるものにしてほしい。	「ホリデー・テーリング」は小学校の週休2日制導入に合わせて始まった事業であり、普段、公共交通機関に乗る機会の少ない小学生に、地下鉄や市電に親しんでもらいながら、乗車マナー等を学ぶ機会を提供するという目的のもと行っています。全年齢の方を対象とする企画としては、スタンプポイントとして地下鉄駅の近隣観光施設等を設定した「ポケモンスタンプラリー」を例ねん実施しています。また、昨年は胆振東部地震からの北海道復興応援企画として、東京メトロとのタイアップによるスタンプラリーを実施しました。今後も民間事業者などと連携し、札幌の魅力を多くの方に伝え、楽しんでいただけるような企画を検討していきます。
高校入試を簡単にしてほしい。	市立高校の入学者選抜では、中学校で学習したことをもとに出題内容を検討し、難易度に片寄りがないように出題しています。
入試のための英語教育ではなく、コミュニケーションを核とした英語教育を推進してほしい。	今後も、英語に慣れ親しみ、英語によるコミュニケーションに関心を持ったり、異文化への理解を深めたりすることができるよう、ALTの活用をより一層進めます。
札幌市のことを学べる施設がほしい。	札幌の自然や歴史、文化をより体系的に学べる「（仮称）札幌博物館」を作る検討を進めています。（仮称）札幌博物館では、札幌に焦点をあて、札幌の独自性を市民とともに探求し、郷土を愛し、誇りを持つ心を育み、また、札幌を訪れた方にも、札幌の魅力を伝えることのできる博物館を目指していきます。なお、博物館の準備施設として札幌の自然や成り立ちが学べる博物館活動センターや、地域の歴史を伝える郷土資料館などがありますのでぜひご利用ください。
アートで地域を魅力的にしてほしい。	地域における文化芸術を活用したイベントの開催、地域に滞在するアーティストとの交流など、文化芸術を生かして地域のにぎわいの創出・交流を促進し、地域の活性化を図る取組を行います。

施策2: 誰もが活躍できる社会の実現

意見の概要	市の考え方
<p>最低賃金を上げるなど、雇用環境を改善することで、仕事をする人を増やしてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>最低賃金は、会社の経営者や働く人の代表者などが参加して行う最低賃金審査会での意見などを踏まえ、都道府県ごとに定められ、近年は、最低賃金の引上げを目指す国の方針もあり、H29年810円、H30年835円、令和元年861円、と引き上げが続いております。 最低賃金の引き上げは、働く人の生活基盤を安定するために有益と考えており、働く人が増えるための一助になるものと考えております。</p>
<p>男性の育休取得を義務化し、その期間の生活費を支援する取組をするとよい。</p>	<p>就労する女性が増加する中、男女とも働きながら子育てしやすい環境づくりを進めるため、新たに、男性が育児休業を取得した際の企業への助成を行うなど、働きやすい環境整備のための支援を進めていきます。</p>
<p>高齢者から若者まで、誰もが働きやすい環境を作してほしい。 (類似意見 2件)</p>	<p>高齢者に対して就業機会を提供しているシルバー人材センターへの支援を継続するほか、就業サポートセンターにおいて、市内企業に対する求人開拓を行っており、若者から高齢者まで幅広い年齢層の就業場所確保に努めています。 また、東京都に「札幌Uターン就職センター」を開設し、道外からの人材還流を図っています。</p>
<p>夜間中学の設置に当たっては、良い点と悪い点を含めしっかりと検証して進めてほしい。 (類似意見 27件)</p>	<p>公立夜間中学は、就学の機会を十分に得られなかった学齢期を過ぎた方々に対し、義務教育段階における普通教育相当の教育を受ける機会を提供する場であり、今後、誰もが安心して学ぶことができるよう、関係機関と連携・協力し、課題となる事柄も含めて、しっかりと検討を進めていきます。</p>
<p>元気な高齢者の就労を促進してほしい。 (類似意見 18件)</p>	<p>少子高齢化が進行する一方で、定年後も就労を希望する元気な高齢者が増えている現状を踏まえ、高齢者を対象とした体験付き仕事説明会を開催し、高齢者と企業のマッチング機会を創出することにより高齢者の就労を促進しているほか、高齢者雇用に関するメリットやノウハウ等を伝える企業向けセミナーを実施し、企業の高齢者雇用の意識醸成を図っています。</p>
<p>身体的、精神的な理由で家から外に出ることが困難な人が、自宅に居ながら学べる環境作りとして、インターネット上で受講できる授業などを提供してほしい。</p>	<p>誰もが安心して学び、成長していくことができるよう、一人ひとりの状況に応じた支援を行うことは重要です。 いただいた意見を参考にしながら、今後も、多様な学びを支える環境を充実させていきます。</p>
<p>結婚支援のための相談窓口を作してほしい。</p>	<p>若者の理想のライフプランの実現を支援するため、結婚を希望する若者が出会い、結婚に結びつくための機会を創出していきます。</p>
<p>仕事と子育ての両立を支援してほしい。</p>	<p>父親に比べて母親の育児時間が多いなど、母親中心の子育てになっている現状があることから、父親に対する意識啓発や情報発信、仕事と子育ての両立に向けて取り組む企業への助成金の支給などに取り組んでまいります。</p>

政策分野「低炭素社会・エネルギー転換」

政策目標7 自然と共生する環境負荷の少ない街

施策1:持続可能な集約型の都市への再構築

意見の概要	市の考え方
二酸化炭素の排出を減らすため、自然を増やしてほしい。	二酸化炭素の排出を減らすため樹木等のみどりは重要な要素であり、郊外の森林等を保全するとともに、市街地では、公園や街路樹等のみどりを計画的に整備してきました。これからもみどり豊かなまちづくりを進めていきます。

施策2:多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立

意見の概要	市の考え方
自転車道の幅を拡張するなど、交通事故が起こりにくくなるような、安全な道路を整備してほしい。 (類似意見 7件)	交通事故の多い大きな交差点などでは、交差点の形を変えることで車のスピードを抑えるようにしたり、歩道に防護柵を設置したりするなど様々な安全対策を進めています。また、自転車の通行については、都心部を中心に車道の左側に路面表示を設置し、自転車の正しい通行位置と進行方向を現地で分かるようにすることで、自転車利用者や自動車ドライバーに対して自転車は車道の左側を通行する乗り物であることを理解してもらい、道路を利用する誰もが安全に通行できるよう努めていきます。
通学路等での事故の危険性を減らすため、自動車の運転スピードを守ることにについて、啓発を進めてほしい。	交通事故減少のため、地域や警察などと連携しながら、街頭での呼び掛けなど、交通ルールを守ってもらうための取組を進めていきます。
違反駐輪がなくなるよう、駐輪場を増やしてほしい。	これまで駅の近くや街の中心部で駐輪場を増やしてきていますが、これからも引き続き整備を進めていきます。また、自転車を道路に置かないように、駐輪ルールやマナーを呼び掛ける取組も一緒に行っていきます。
地下鉄の乗車マナーについての普及啓発を進めてほしい。	地下鉄の乗車マナーにつきましては、駅構内や車内のポスター等の啓発物や構内放送、駅員の呼びかけや啓発グッズの配布などを行うキャンペーンの実施等により、普及啓発に努めているところですが、今後もより効果的なマナー啓発方法を検討し、実施してまいります。
高齢ドライバーの免許の返納の取組を進めるなど、高齢者が車に乗らなくてよいまちづくりを進めてほしい。 (類似意見 2件)	高齢者による事故の防止に向けて、運転に不安を感じた高齢の方に対して運転免許証の返納を促すなどの取組を進めていきます。また、誰もが歩いて暮らせるまちづくりに向け「新・札幌市バリアフリー基本構想」に基づき、身近な交通施設などのバリアフリー化等を進めていきます。
地下鉄東西線でも札幌駅に行けるなど、便利な交通体系を構築してほしい。	東西線でも札幌駅に行けるようにするためには、新たに路線を伸ばして駅を造るなどの必要があることから、実現は難しいと考えており、今ある公共交通をより使いやすく便利なものとするように取組を進めてまいります。
地下鉄からJRに乗り換えられる駅を増やしてほしい。	地下鉄とJRの間で乗り換えが出来るようにするためには、新たに路線を伸ばして駅を造るなどの必要があることから、実現は難しいと考えており、今ある公共交通をより使いやすく便利なものとするように取組を進めてまいります。

意見の概要	市の考え方
バスの交通網を広げてほしい。	市民の日常生活に必要な移動手段を確保するため、赤字バス路線に対する補助金の交付を行っています。今後も、バス事業者と連携し、バス路線を適切に維持していくための取組を進めていきます。
路面電車の乗車賃を上げてほしい。	料金は、路面電車事業を実施するに当たり適切な料金が設定されるように、上限額について国から認可を受ける必要があり、交通事業者はその範囲内で料金を設定することができます。
自転車レーンにタクシーが停まっているのを制限してほしい。	車線を自転車と自動車で共有することを基本としていますので、車の乗り入れは禁止していません。しかし、自転車レーンの意味や必要な配慮などをタクシー等のドライバーに周知していきます。
市電の新しい駅より、レトロな雰囲気のある以前の駅の方が好きだった。	今後の電車停留場の改修に当たっては、いただいたご意見等も参考に、市民に親しまれ、また、観光で札幌に来る方の思い出に残るような電車停留場づくりを目指していきます。
人が混雑している所では自転車は降りるような標識をつくってほしい。	法律では、人が混雑しているところで自転車を利用する場合、歩行者の通行を妨げることとなる場合は、一時停止しなければならないことになっています。このため、自転車から降りて押し歩きで通行することは、マナーの問題であり、標識で規制することはなじまないと考えています。歩道は歩行者が優先という意識を広めるため、「さっぽろ自転車押し歩きキャンペーン」を実施しています。歩行者との接触事故防止を図るとともに、自転車の正しい利用方法に関心を持ってもらうことを目的に、今後も啓発に取り組んでいきます。
自動車の渋滞対策をしてほしい。	混雑している道路について、必要に応じて交差点部に右折車線を設置するなどの混雑緩和に向けた取組を進めていきます。
ドライブレコーダーを無償化して事故が起きにくい街にしてほしい。	ドライブレコーダーで撮影した映像は、交通事故等の証拠になるなど、有効なものであると考えています。ドライブレコーダーに対する補助・助成等については、国や他の自治体等の情勢を注視していきたいと考えています。
違反駐車がなくなるよう、駐車場を増やしてほしい。	駐車場の整備に当たっては、「札幌市建築物における駐車施設の附置等に関する条例」等に基づき、建築物の規模や建物用途等に応じた駐車場の整備を進めています。
外国人観光客を取り込み、公共交通機関の利用促進を図ってほしい。	外国人観光客が札幌市内を観光する際の移動手段として、地下鉄・路面電車の利用を促進するため、市営交通沿線の見どころを紹介するパンフレットや動画を制作し、アジア圏で開催される旅行博等での配布や札幌市アカウントYouTubeへの掲載を行っています。今後も公共交通機関の更なる利用促進を図るための取組を検討していきます。

意見の概要	市の考え方
駐輪場で自転車が倒れないような工夫をしてほしい。	新しく駐輪場を整備するときには、一度にたくさんの自転車が倒れないように、一定の間隔で転倒防止の柵を設置することなどを考えていきます。 なお、駐輪場には自転車を整理する人を配置し、倒れた自転車を起こしてきれいに並べるようにしています。
バスなどについて誰もが利用しやすいようにしてほしい。地下鉄などでの優先席をもっと広くしてほしい。	交通面のバリアフリー化やバスの利便性向上などを図るため、ノンステップバスの導入を促進しており、バス事業者などに補助金を交付しています。今後もあらゆる人が安心して移動できるよう、ノンステップバス導入促進のための支援を引き続き行っていきます。 地下鉄には、高齢者やお体の不自由な方などが安全に利用できるように、優先席ではなく「専用席」を設けています。専用席を今よりも広くすると、混んでいるときに座れない他の乗客が多くなってしまいますので、慎重に検討する必要があると考えています。 また、地下鉄には、車椅子利用の乗客に快適に利用してもらうために、専用席の近くに「車椅子スペース」を設けています。
新さっぽろ駅の駐輪場を雨や風を防げるように屋根などをつけてほしい。駐輪場に鍵をつけるなど、自転車の盗難防止対策をしてほしい。	駐輪場に屋根を設置することは、屋根のない駐輪場を整備するのに比べて、多くの予算を必要とします。新さっぽろ駅で駐輪場を計画するに当たっては、整備する場所や予算の状況も踏まえて、屋根の設置を判断します。 自転車の停めるところに鍵を付けることは、鍵を付ける費用やそれを管理する費用が必要になるため難しいですが、盗難防止として駐輪場利用者に鍵をかけるように呼びかけるなどの取組を行っています。
地下鉄の女性専用車両を夕方ラッシュの時間にも運行してほしい。また、男性専用車両も設けたほうがよい。	現在、平日の始発から9時まで運行している「女性と子どもの安心車両」を夕方の混雑時に時間指定をして運行する場合、すでに乗車している男性の乗客が車両移動する必要があります。 また、専用車両の位置は、車内の混雑率や乗客の動き（動線）を考えて決めており、男性専用車両を導入すると、さらに車内混雑の偏りを招いてしまうことが考えられます。これらのことから、いずれも慎重な検討を行う必要があると考えています。

施策3：自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進

意見の概要	市の考え方
公園でボールを使えるようにしてほしい。 (類似意見 13件)	公園が小さい場合など、他の公園利用者に危険を及ぼす恐れがある公園ではボール遊びは禁止にしています。無料の野球広場や多目的広場、グラウンドがある公園や、ボール遊びをしても危険ではない十分な広さがある公園ではボール遊びができます。 札幌市内には2,700カ所以上の公園があり、運動ができる公園や自然が多い公園など、それぞれの公園に役割を持たせています。使用する目的に合わせて公園をご利用ください。
売地に、子どもが遊べるミニ公園や、ミニ遊園地を作ってほしい。	身近な公園では、遊具や広場、ベンチ、樹木などをバランスよく配置して、地域の皆で遊んだり、運動をしたり、また、憩えるような場所にしたいと考えています。そのため、地域内での配置バランスも考えて、ある程度の広さのある場所を選んで公園をつくっています。
大きな公園を増やしてほしい。 (類似意見 2件)	身近な場所に日常の遊びや休憩などでの利用を主な目的とした公園を、また、徒歩や自転車などで行けるくらいの距離に運動や自然散策などができる公園を、バランスよく整備しています。また、市全体の配置バランスや利用者数を考えて、多目的に使える大きな総合公園や運動公園を、各区に1箇所以上整備しています。

意見の概要	市の考え方
公園内に、小学校就学前の小さな子どもが遊べるスペースを作ってほしい。	広い公園では、子どもの遊び場でも、幼児向けと小学生以上向けに、場所を分けて整備したいと考えています。遊具には対象年齢を表示しているものがありますので、それも目安にしてみてください。
古くなった公園の遊具を更新した上で、点検もしっかり行ってほしい。 (類似意見 1件)	点検については、日常的に異常がないか確認しています。また、専門技術者による定期点検を年2回実施し、補修しています。 老朽化した遊具については、必要に応じ更新しています。しかしながら、想定外の使われ方等により遊具が壊れる場合がありますので、発見した場合はご連絡をいただければと思います。
自然あふれるまちづくりを進めてほしい。	将来にわたって生物多様性が保全され、自然豊かな環境で生活するためには、様々な生物が生息・生育する場所を守っていくための配慮が必要です。 そのためには、みどりを増やすような取組に加え、温室効果ガスの排出による気候変動の影響を減らすなど、私たちの生活が自然に与える影響を理解し、その影響をなるべく低減することが重要であることから、このような生物多様性に配慮した行動を促進するための取組を進めていきます。
環境対策に力を入れてほしい。	環境に関する総合計画である「第2次札幌市環境基本計画」を策定し、良好な大気、水、土壌の確保、気候変動対策、生物多様性の保全等、あらゆる分野の環境保全施策を推進することとしています。 今後も、引き続き、環境の状況や社会情勢等を踏まえながら、市民や事業者等の各主体と連携しながら、取組を進めていきます。
公園施設をきれいにするとともに、若者や子育て世代が集まりやすいように整備してほしい。	球場やテニスコートなどの運動施設に限らず、老朽化した公園施設は必要に応じて更新しています。 また、公園を改修する際などには、アンケートや話し合いをして、地域の意見を取り入れながら魅力ある公園づくりに取り組んでいますので、ぜひご参加ください。
森や林などの中に道を作ってハイキングができるようにしてほしい。	藻岩山や円山、手稲山などに自然歩道を整備しているほか、身近な自然に親しむ場を作るため、森を借りて散策路を作るなどの取組をしていますので、ぜひご利用ください。
秋や夏には葉っぱや木の実が落ちているからきれいにしてほしい。	公園などに植えられている樹木の落ち葉については、札幌市による清掃作業を秋に行っているほか、市民にも家庭前の落ち葉回収のご協力をお願いしています。樹木は、季節ごとに装いを変えながら、安らぎと潤いを与えてくれる、市民の大切な財産です。また、落ち葉や木の実は季節の移ろいを感じたり、子どもたちが自然と触れ合うきっかけにもなります。ご迷惑をお掛けすることもあります。ご迷惑をお掛けすることもあります。色んな働きがあることをご理解ください。

意見の概要	市の考え方
公園などにおける喫煙についての規制を厳しくしてほしい。	<p>「札幌市たばこの吸い殻及び空き缶等の散乱の防止等に関する条例」では、歩きたばこや灰皿の設置されていない公共の場所での喫煙をしないよう努めることを定めています。歩きたばこ等を減らしていくためには、市民一人ひとりのモラルが非常に大切であると考えていることから、今後も条例の周知啓発に努めてまいります。</p> <p>なお、受動喫煙対策を定める改正健康増進法においては、屋外の喫煙は規制されませんが、喫煙をする場合は望まない受動喫煙を生じさせないよう周囲の状況に配慮しなければならないとされており、今後も改正健康増進法の普及に努め、特に子ども等の受動喫煙に配慮するよう呼びかけてまいりたいと考えております。</p>
道に自然を増やしてほしい。	<p>道路景観の向上などを目的として、札幌市から町内会などへ苗を配布し、花植えや維持管理を行っていただく事業を実施しているほか、限られた予算の中でより充実した花壇を造成できるよう、沿道企業から花苗寄附等の協力もいただいております。また、小学校等に種や育苗資材を配布する事業も行っていますので、学校の先生に相談しながらぜひ取り組んでみてください。</p>
落ち葉拾いをして道をきれいにしてほしい。	<p>雪解け後（3月中旬頃）から雪が降るまで（11月下旬頃）の間は、路面清掃車による計画的な道路清掃を行っております。また、滑り止め砂や落ち葉で道路が汚れてしまう春先や秋口には、路面清掃車のほかに人力による歩道清掃作業も行っております。</p> <p>しかし、清掃作業を行っても風が吹けば落ち葉が舞い、翌日にはまた汚れてしまいますので、自宅の前などが落ち葉で汚れてしまった場合には、清掃にご協力いただきたいと考えています。</p>
自然を増やしてほしい。 （類似意見 2件）	<p>色々な人と協力しながら、公園、街路樹、森林等の自然をつくり、守り、育てる取組を行い、みどり豊かで魅力あふれるまちづくりを進めていきます。</p>
クマなどの害獣対策に取り組んでほしい。 （類似意見 1件）	<p>市民が安心して暮らしながら、ヒグマと共生できることを目指して「さっぽろヒグマ基本計画」を立てており、ヒグマが住宅の多い場所に出てこないようにするための対策と、ヒグマが住宅の多い場所に出てきたときの対策を行っています。</p> <p>ヒグマとの共生のためには、ヒグマが住宅の多い場所に出てこないようにするための対策が大変重要です。</p> <p>このため、家庭菜園用の電気柵を無料で貸し出す取組や、地域の方々と協力してヒグマの通り道を無くすための草刈りなどを行っています。一方で、ヒグマが住宅の多い場所に出てきたときには、市民が安心して暮らせることを最優先に、警察と協力して対応しており、人の生活をおびやかすようなヒグマの問題行動が確認された場合に駆除することとしています。今後も人とヒグマが共生できるように、ヒグマ対策に力を入れていきます。</p>
公園を整備してほしい。 （類似意見 4件）	<p>公園を改修する際などには、アンケートや話し合いをして、地域の意見を取り入れながら魅力ある公園づくりに取り組んでいますので、ぜひご参加ください。</p>
川の近くまで降りる事ができる場所を増やしてほしい。	<p>札幌市では、「川に親しみ、川と人の関係を育む」ことを目指し、水辺に近づきやすい川づくりを進めています。現在は西区で整備を行っており、今後も整備可能な条件が整う河川について検討していきます。</p>

意見の概要	市の考え方
廃校になった学校は、緑化するとよい。	色々な人と協力しながら、公園、街路樹、森林等の自然をつくり、守り、育てる取組を行い、みどり豊かで魅力あふれるまちづくりを進めていきます。

政策目標8 エネルギー効率の高い持続可能な街

施策1:次世代エネルギーシステムの普及促進

意見の概要	市の考え方
電気自動車の普及やソーラーパネルの設置に積極的に取り組むなど、環境対策を推進してほしい。 (類似意見 1件)	走行時に二酸化炭素を排出しない電気自動車や燃料電池自動車などの次世代自動車や、太陽光発電設備などの再生可能エネルギー機器の導入支援(費用補助・啓発)など、温室効果ガスの削減に向けた取組を進めています。
市民一人ひとりが、地球温暖化対策に取り組めるようにしてほしい。 (類似意見 2件)	温暖化を含む環境の状況や施策の実施状況等が記載された「札幌市環境白書」を毎年発行しており、その内容をより多くの方に知ってもらうため、身近な取組例を掲載した概要版の作成や子ども向け情報誌への記事掲載等を行っています。 また、生活のシーンに合わせた省エネ・節電のノウハウをまとめたハンドブックを作成したり、様々な団体が発行するパンフレットを活用したりしながら、普及啓発を行っています。
太陽光パネルを使い節電してほしい。 (類似意見 2件)	太陽光発電は、地域を選ばず、また、災害時にも活用できる導入しやすい再生可能エネルギーです。 市内の多くの地域や家庭における、太陽光発電設備等の再生可能エネルギー機器の導入拡大に向け、費用補助や普及啓発等の取組を進めていきます。
地球温暖化対策として、ハイブリッド自動車などの普及を進めてほしい。 (類似意見 1件)	地球温暖化対策の一環として、ハイブリッド自動車や電気自動車など環境負荷の少ない次世代自動車の普及促進に取り組んでおり、今後も、次世代自動車の導入補助などの支援を行います。

施策3:市民・企業による環境負荷低減の取組の推進

意見の概要	市の考え方
街灯を増やしてほしい。 (類似意見 17件)	街路灯が無い暗い箇所や、明かりが不足している場所などについては、今後、現地を確認した上で、設置を検討していきます。
LEDの街灯を増やしてほしい。	LED街路灯(白色)への交換を進めており、環境負荷低減に取り組んでいます。オレンジ色のナトリウム灯に比べ、白色系LED灯は省エネにもなります。さらにLED灯については、過去の実証実験で犯罪抑止にもつながる結果が確認されており、安全・安心な夜間の街を形成する灯具として、効果があると考えています。

意見の概要	市の考え方
<p>持続可能な社会を作るために節電に取り組んでほしい。</p>	<p>これまでも、事業者に対し、節電を含む自主的な省エネ活動を促すため、セミナー等の開催により、市有施設等で得られた省エネ技術を普及させる取組を行っていますが、今後は、事業所を訪問して、エネルギーを効率的に使うための助言や提案を行うとともに、その中で得られた技術を波及させる取組も進めていきます。</p> <p>また、市民に節電や省エネの大切さを伝え行動を実践してもらうため、各種イベントの実施やポスターの作成・掲出等、様々な普及啓発活動を実施しており、今後も引き続き取組を推進していきます。</p>
<p>計画停電を行うことで、電力消費の削減に取り組んでほしい。</p>	<p>計画停電は、電力需給が逼迫した状況で、広範囲で不測の停電が発生することを回避するため、必要最小限の範囲で電気の使用を制限し、需給バランスを維持する最終的な措置とされています。（北海道電力HPより）</p> <p>札幌市では、平時の取組として、普及啓発や補助制度の運用等により、節電等の省エネルギーの推進や、災害対応にもつながる分散電源の導入促進を図っています。</p> <p>※分散電源：電気を消費する場所の近くに分散して配置される、太陽光発電設備や燃料電池等の小規模な発電設備（電源）</p>
<p>自転車利用の推進等による住みやすい街を推進してほしい。</p>	<p>自転車の利用や活用を進めるため、自転車活用計画の策定に向けた検討を進めていきます。</p>

施策4:循環型社会の構築

意見の概要	市の考え方
<p>ポイ捨ての防止のため、ごみ箱の設置数を増やしてほしい。 (類似意見 15件)</p>	<p>ごみ箱を設置することで、ポイ捨てを防止する効果があるものの、その一方で、心ない人が自分の家のごみを持ち込むことや、ごみがあふれて周りが汚れるといったことにつながる心配もあります。</p> <p>ポイ捨てを減らしていくためには、一人ひとりのモラルが非常に大切と考えおり、ごみ箱を設置するのではなく、ポイ捨ての禁止やごみは持ち帰るといったことについて、広く知ってもらえるよう継続して取り組んでいきます。</p>
<p>ごみが適切に分別されていない場合の罰則を厳しくし、そうすることで浮いたごみ処理費用を街の緑化に使い、持続可能な社会を目指してほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>循環型社会を構築していくためには、まずはごみの減量を行い、排出されたごみについては、分別を徹底し、リサイクルを行うことが重要です。</p> <p>このためには、日常生活の中で市民一人ひとりがごみの減量やリサイクルを心がけることが最も効果的と考えており、「ごみ分けガイド」の全戸配布をはじめ、出前講座や各種イベントなどでごみの減量や分別方法、分別の必要性などを説明しています。また、「ごみパト隊」が違反ごみの開封調査を実施して違反者に直接指導をしています。</p>
<p>給食など、食事の食べ残しを減らすべき。 (類似意見 2件)</p>	<p>給食は、児童生徒の成長や運動量に必要な量を提供しているため、作る量を減らすことはできませんが、食べ残しを少なくする取組は食品ロスを減らす上でとても大切だと考えています。これからは食べ物や栄養の情報を伝えるとともに、食べ残しや調理くずをたい肥にして作物を育て、給食に利用する「学校給食フードリサイクル」の取組を進めていきます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>空気のきれいな街にしてほしい。</p>	<p>大気汚染の状況については、市内16地点で常時監視しており、光化学オキシダントなど一部の大気汚染物質を除き、環境基準を達成しておりますが、引き続き法令に基づく指導を行ってまいります。 また、地球温暖化対策や自動車排出ガス抑制策として、燃料電池自動車や電気自動車等の普及促進やエコドライブの推進に取り組んでいます。</p>
<p>3Rをさらに活発にするなど、環境破壊を防ぐ心掛けを持つ人を増やすことで、住みやすいまちづくりを進めてほしい。 (類似意見 2件)</p>	<p>循環型社会の構築に向けて、ごみを出さない「リデュース」と、ごみにしないで繰り返し使う「リユース」、資源に戻してから再利用する「リサイクル」の3Rを推進しています。 このうち、環境に与える影響が特に少ない、リデュース（食品ロスの削減など）とリユース（古着の無料回収など）の2Rに重点的に取り組んでいます。 この2Rを進めるためには、市民の実践的な取組が不可欠であるため、「ごみ分けガイド」や出前講座、各種イベント、インターネットなどにより、様々な実践例等を紹介しながら、資源やものを大切にして、環境にやさしく、住みよいまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>嫌な臭いをなくし、きれいなまちにしてほしい。</p>	<p>工場やビル、飲食店などからの悪臭に対し、法令に基づき指導を行っています。 また、新たに飲食店などを始める際には、食品に関する営業の許可の際に、事業者に対し近隣の悪臭被害が生じないよう配慮を促しています。 今後も悪臭防止対策を進めてまいります。</p>
<p>街を美化してほしい。 (類似意見 2件)</p>	<p>春・夏・秋の年3回、それぞれ一定期間を定めて全市的に清掃運動を展開しています。いずれも、市民総ぐるみの運動となるよう、市民参加の各種行事などに組み込み実施しています。 また、5月30日の「ごみゼロの日」に合わせて、「ポイ捨て防止」を呼びかけるため、各区のクリーンさっぽろ衛生推進協議会の協力のもと、各区の繁華街などにおいてキャンペーンをしています。 今後も環境の美化につながる取り組みを進めてまいります。</p>
<p>建築廃材のリサイクル等を進めてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>一定規模以上の解体工事では、工事現場で建設資材の種類ごとに分別して解体しなければならず、コンクリートや木材などはリサイクルすることが義務付けられています。</p>
<p>石油や電気の無駄遣いを減らすため、石油ストーブをペレットストーブに変えられるところは変えてほしい。</p>	<p>地球温暖化対策の一環として、森林資源を有効活用できるペレットストーブの導入を進めるため、導入費用の一部補助を実施しているほか、様々なイベントを通じて普及啓発を行っています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>プラごみ対策を進めてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>プラスチックは、とても便利な素材である一方で、近年では「海洋プラスチック」が世界的な問題となっており、焼却時のCO₂の発生抑制の観点からも、その使用量を減らし、賢く付き合っていく必要があります。</p> <p>これまで、札幌市では、大手スーパーマーケットなどと一緒にレジ袋削減に取り組んできたところであり、最近では、市内コンビニエンスストアのレジに、レジ袋辞退を促すためのポップを設置し、レジ袋辞退を呼びかけているところです。</p> <p>今後は、コンビニエンスストアや飲食店等で提供される、一度しか利用されないプラスチック製のストローやスプーン、フォーク等の削減に向けた取組も進めるなどして、プラスチックごみの削減に取り組んでいきます。</p>
<p>ゴミステーションを増やしてほしい。</p>	<p>ゴミステーションは20～30世帯に1か所を基準として、町内会等利用する方々が設置しています。</p> <p>また、ゴミステーションまでの距離が遠い、利用世帯が多くゴミステーションがごみであふれて置き場がないなどの場合には、10～15世帯を基準にゴミステーションを増やすこともあります。</p> <p>今後も、地域の実情や要望に応じて、適切なゴミステーションの設置を促進していきます。</p>

政策分野「戦略を支える都市空間」

政策目標9 世界都市として魅力と活力あふれる街

施策1: 魅力ある市街地 ①複合型高度利用市街地

意見の概要	市の考え方
<p>世界から注目されるような自然と人工物が共存した街づくりをしてほしい。</p>	<p>札幌市は197万人もの人口を擁する大都市でありながら、同時に身近に豊かなみどりがあり、自然の恩恵を享受できる都市です。今後も、都市とみどりが調和した魅力あふれるまちづくりを進めていきます。</p>

施策2: 魅力ある市街地 ②郊外住宅地

意見の概要	市の考え方
<p>空き家の活用を進めてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>地域の安全や生活環境を維持するため、空き家所有者への適正な管理のお願い、空き家の取り壊しに対する支援などとともに、空き家の活用に向けた検討も行いながら、空き家対策を進めていきます。</p>
<p>公共施設を整備するなどして、郊外の過疎化対策を進めてほしい。</p>	<p>郊外住宅地においては、小学校の建て替え時や空き教室の有効活用などにより、まちづくりセンターや児童会館などの機能を複合化して、一層地域との連携を図るなど、地域コミュニティ拠点としての機能を強化する取組を進めています。また、この取組を進めることによって施設更新に要する費用の縮減を図ります。</p>
<p>もみじ台団地の再編成に当たっては、わかりやすいレイアウトにしてほしい。</p>	<p>もみじ台団地については、現時点で建て替えの計画は未定ですが、地域のまちづくりの動向も考慮し、建て替えを行うこととなった際には、ご意見も参考にしながら、建替計画を検討してまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
空き家の解体を進めてほしい。	空き家所有者に対して、修繕や取壊しについて助言や指導を行うとともに、特に危険な空き家に対しては取壊しを行う費用の一部を補助するなど、空き家の解消に向けて取り組んでいます。
もみじ台地域の買い物環境を改善してほしい。 (類似意見 3件)	もみじ台地域の再構築に当たっては、世代を問わず地域の方々が暮らしやすい環境づくりが大切であると考えています。今後、いただいた意見の視点も持ちながら検討を進めてまいります。
市営住宅をバリアフリー化することや、新札幌のバスターミナルを利用しやすいようにしてほしい。	市営住宅を建て替える際には、高齢者等への配慮として、エレベーターの設置や段差の解消などバリアフリーに対応した住戸の整備を進めているところです。 新札幌のバスターミナルについては、現在、南北のレーンにはエレベーター及び階段が設置されており、南北を結ぶ連絡通路に通じるようになっております。バスレーン内を横断的に通るような通路は1日多くのバスが行来する中で、施設管理上、危険が伴い、構造的にも難しい状況です。今後も施設の安全性を考えながら、利用者にとって、利用しやすい運営に努めてまいりますのでご理解ください。
もみじ台団地の行事が減ってきているので、増やしてほしい。	もみじ台まちづくり会議など地域主体の様々なイベントが行われていますが、少子高齢化が進行する中、地域コミュニティを維持していくためには、地域住民間の交流の活性化が重要と考えています。もみじ台地域の再構築に当たっては、この視点も踏まえて検討を進めてまいります。
老朽化が進んでいる家の点検を行うようにしてほしい。	老朽化したものを含め、住宅の点検は、その所有者が行うこととなります。 なお、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震性の確認にあたっては、耐震診断員の無料派遣制度を利用いただけます。
観光客向けに、人が住んでいない市営住宅の一部などをリフォームして安い価格で貸してほしい。	市営住宅は、低所得者向けの住戸として建設されていることから、目的が異なる使用については一定の制限がありますが、いただいたご意見も参考にさせていただきます。

施策4: 活力があふれ世界を引きつける都心

意見の概要	市の考え方
札幌駅だけではなく、大通やすすきの駅周辺の活性化を進めてほしい。	札幌・北海道の玄関口としての札幌駅周辺だけでなく、中心商業地としての歴史と伝統のある大通地区や、東京以北最大の歓楽街と言われるすすきの地区等においても、それぞれの地区の特徴を大切にしながらまちづくりを進め、魅力と活力のある都心づくりを進めていきます。
札幌駅から大通、狸小路、すすきの等、周辺の観光地へのアクセスを強化してほしい。	現在検討している新幹線札幌駅前の再開発の整備では、新幹線と地下鉄等、公共交通施設間の円滑な乗換動線を確保することで大通、狸小路、すすきの方面へのアクセス性の向上を図ります。また、チカホなど既存の地下歩行ネットワークと接続した地下動線などについて、バリアフリーにも配慮した歩行者動線を形成します。

意見の概要	市の考え方
札幌駅北口地下歩道の有効活用を進めてほしい。	今後、大規模な改築等に併せて札幌駅北口地下歩道の有効活用を検討してまいります。
札幌駅の周りを魅力的にするなら、まず衛生面から見直し、きれいなトイレに作り直すことをお願いしたい。	建物が建て替え更新される際には、トイレの整備も含めて衛生面に配慮し、利用者にとって魅力的な街のリニューアルを進めます。
施設の建て替えを促進し、街の魅力を高めてほしい。	現在の札幌都心は、1972年の札幌オリンピック開催を契機に建築されたビル等が多く、これらが一斉に更新時期を迎えている状況にあります。北海道新幹線札幌延伸も見据え、この機を逃さず、民間企業等とも連携しながら、街のリニューアルを進めていきます。
札幌の冬を安心して楽しむため、地下歩行空間を延伸してはどうか。	地下歩行空間は四季を通じて歩きたくなる街の実現に寄与するものと考えています。今後、人口減少や社会保障費の増加、公共施設の更新等を踏まえた上で、どのような方法で地下歩行空間を創出できるか、検討してまいります。

施策5: 多様な交流を支える交流拠点 ①地域交流拠点

意見の概要	市の考え方
新札幌駐輪場は1台1台前輪をはめれるような駐輪場にしてほしい。	自転車用のラックについては、駐輪場の形や止められる台数などによって設置の判断をしており、新さっぽろ駅の駐輪場についても、それらを踏まえて計画したいと考えています。
新さっぽろ駅周辺で働くことができる場所を増やしてほしい。	現在新さっぽろ駅周辺地区では、市営住宅の跡地で民間企業による開発が進められており、商業施設や医療機関、ホテル、学校などが整備されることで新たな雇用が生まれる見込みです。
札幌駅の周りをより便利で魅力的にする取組を推進してほしい。 (類似意見 2件)	国内外から札幌を訪れる人の多くの方にとっての第一印象となる場所が札幌駅です。札幌によい印象を持っていただき、再び訪れてもらえるよう、札幌の玄関口にふさわしいシンボルとなる空間を創出し、駅周辺の景観を整えるよう推進します。
真駒内駅を、明るくて魅力的にしてほしい。	いただいたご意見や、乗客の要望を参考にしながら、より便利な駅を目指して取り組んでいきます。
札幌駅周辺のリニューアルだけでなく、他の地域でもまちづくりを進めてほしい。 (類似意見 7件)	札幌駅周辺以外にも現在、厚別区新さっぽろ・南区真駒内・北区篠路などにおいて、まちづくりが進められています。例えば新さっぽろでは、民間企業の提案により市営住宅跡地で新たに大学・専門学校、商業施設、ホテル、病院、マンションの建設が進められています。
南区を、自然を残したまま商業施設をつくるなど発展させてほしい。	真駒内駅前地区においては、令和2年度の「真駒内駅前地区まちづくり計画」策定に向けて取組を進めております。その中で、真駒内の豊かな自然を残しながら、南区全体の拠点としてにぎわいを創出することとし、駅前に民間商業施設の導入や、駅前交通機能の再整備などを検討しているところです。

意見の概要	市の考え方
各区に大型公共施設を建て、そこに地下鉄などをつなげてほしい。	区役所や区民センター、図書館などの中核的な施設の建て替えに当たっては、主要な地下鉄駅・JR駅周辺などに集約して配置することを原則として、地下鉄駅などとの接続により利便性を向上させていきます。
駅・役所・商業施設などを一体化させ、地域活性化してほしい。	地下鉄駅や主要なJR駅の周辺において、公共施設や商業・業務施設など、多様な都市機能の集積を進める取組を行っています。 例えば、真駒内駅前地区では、上記を踏まえた取組として「真駒内駅前地区まちづくり計画」の策定を進めており、南区全体の拠点として、区役所を含めた駅前地区の再生に向けた検討を進めているところです。
開発に当たり、貴重な公園などは残してほしい。	樹木等のみどりは重要な要素であり、郊外の森林等を保全するとともに、市街地では、公園や街路樹等のみどりを計画的に整備してきました。 これからも今ある公園等のみどりを残し、みどり豊かなまちづくりを進めていきます。

施策6:多様な交流を支える交流拠点 ②高次機能交流拠点

意見の概要	市の考え方
北海道日本ハムファイターズの本拠地移転後においても、札幌ドームの稼働率が下がらないようにしてほしい。 (類似意見 3件)	北海道日本ハムファイターズ移転後も札幌ドームで試合が見たいという多くの市民やファンの願いを叶えるためにも、株式会社札幌ドームと連携し、ドームで年間数試合のプロ野球開催ができるよう、ファイターズに対し要望していきます。 また、札幌ドームにおけるコンサートや展示会、ファイターズの二軍戦での活用等、新たなイベントを増やすよう努めるとともに、2030年の冬季オリンピック・パラリンピック時には開閉会式会場として使用を予定するなど、今後も様々な活用策について調査検討を進めていきます。

施策7:持続可能な都市を支えるネットワーク ①交通ネットワーク

意見の概要	市の考え方
地下鉄を延伸したり、路線を増やすなどしてほしい。 (類似意見 18件)	地下鉄などの鉄道を新たに作るためには、多くの方に利用していただくことが必要ですが、今後札幌市では人口が減る見通しであることや、工事に多額の費用がかかることから、慎重に検討する必要があり、既存の公共交通をより使いやすく便利なものとしていくことが大切だと考えています。
無電柱化を進めてほしい。 (類似意見 3件)	できるだけ多くの電線の地中化を進めたいと考えていますが、地中化には多くの費用がかかるため、まずは人通りの多い場所を優先して進めているところです。
北広島に開設予定の新球場へのアクセスを良くしてほしい。	現在、北広島市を中心に、新球場への来訪者のアクセス方法を検討しておりますので、札幌市ができることについては協力していきます。
道路幅の拡充や駐車場の整備を進めてほしい。 (類似意見 1件)	混雑している道路について、必要に応じて道路の拡幅などによる混雑緩和に向けた取組を進めていきます。 また、駐車場については、建物の大きさや使われ方などによって必要な数を整備するよう進めていきます。
雪解け後の道路にできる溝を、しっかり整備してほしい。	点検を計画的に行い、随時状態が悪い箇所を整備していますが、雪解け時期にはまた状態が悪くなる場合があります。そのため、状態が悪くなる前に舗装を直したり、弱点である舗装と舗装の継ぎ目に工夫をするなどの対策を取っています。

意見の概要	市の考え方
<p>バスの運行頻度をあげ、通勤、通学しやすい環境を整備してほしい。 (類似意見 2件)</p>	<p>バス路線の増便等は、利用状況や事業の採算性等を総合的に考えた上で、バス事業者が決定しています。 また、札幌市では、市民の日常生活に必要な移動手段を確保するため、赤字バス路線に対する補助を実施しています。 今後も、バス事業者と連携し、バス路線を適切に維持していくための取組を進めていきます。</p>
<p>もっと札幌駅、大通への交通の便を豊かにしてほしい。</p>	<p>札幌駅や大通など都心への交通については、現在でも地下鉄やJR、バスなど様々な公共交通機関で行くことができ、駅や車両のバリアフリー化や乗継動線の改善、情報提供の充実など今ある公共交通をより使いやすく便利にしていきたいと考えております。</p>
<p>地下鉄の利用料金を安くしてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>地下鉄は、乗客が支払う乗車料金を使って経営しており、現在の料金は、必要な経費(=支出)に見合う収入を計算し、国の認可を受けた料金となっております。また、地下鉄は建設時に膨大な費用を要し、現在も約2,100億円を超える借金を抱えているため、料金値下げは困難な状態です。SAPICAやドニチカキップなどのお得な乗車券もありますので、ぜひご利用ください。</p>
<p>電車の利用人員に合わせた増便を検討してほしい。</p>	<p>地下鉄・市電の運行ダイヤを作成する際には、各時間帯における乗客の利用状況や混雑率調査などをもとにして、列車の投入本数及び運行間隔を設定しています。今後も、乗客の利用状況や社会情勢等を見極めながら、適正なダイヤの作成に努めてまいります。</p>
<p>市電を伸ばしてほしい (類似意見 2件)</p>	<p>路面電車については、都心地域、創成川以東地域、桑園地域の3地域への延伸検討を行うこととしており、路面電車を伸ばすことによる効果や他の交通などへ与える影響などを整理する考えです。</p>
<p>定山溪まで高速道路を通してほしい。</p>	<p>定山溪のある南区方面については国道230号などの今ある道路を活用しつつ、必要に応じて混雑緩和に向けた取組を進めていきたいと考えています。</p>
<p>地下鉄やJRの料金を中学生まで子供料金にしてほしい。</p>	<p>全国の鉄道事業者は、国の法令において、12歳未満の小児の乗車料金を大人料金の半額とすることが定められています。このため、札幌市の地下鉄料金につきましても、この法令に基づき、小学生以下を大人料金の半額、中学生以上を大人料金としておりますので、ご理解をお願いします。</p>
<p>誰もが安心して移動できるよう交通環境を整備してほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>現在、地下鉄駅では既に1基以上のエレベーターの整備が完了しておりますが、更なるバリアフリー化の推進に向けて、地下鉄駅エレベーターの増設に取り組んでいます。</p>

施策8:持続可能な都市を支えるネットワーク ②みどり豊かな空間のネットワーク

意見の概要	市の考え方
<p>近所の花壇の花などに子ども会などの活動を通して、子どもたちみんなで水やりを行いたい。</p>	<p>子ども会などで、公園にある花壇の維持管理に取り組んでいることもありますので、活動のご希望がある場合は各区土木部にお問い合わせください。また、道路の植樹ます花壇では、地域の方に花植えや維持管理を行っていただいているところもありますので、町内会活動にご参加いただくという方法もあります。</p>

意見の概要	市の考え方
木の管理をしっかりしてほしい。	公園の樹木や街路樹を健全に育成するため、せん定や病害虫防除など適切な維持管理を行っていきます。
荒れ地を耕やし木を植えるなどして、自然豊かなまちづくりを進めてほしい。	森林や街中の貴重なみどりを公有化し保全するほか、植樹などを行うことにより、みどりを保全し、みどり豊かな街づくりを進めていきます。
市有地に植物を植え、地球環境に配慮してほしい。	地球の環境を守るために、樹木等のみどりは重要な要素であり、郊外の森林等を保全するとともに、市街地では、公園や街路樹等のみどりを計画的に整備してきました。これからも地球環境に配慮しながら、みどり豊かなまちづくりを進めていきます。
自動車の騒音対策をしてほしい。	幹線道路における自動車騒音の状況を測定し、道路沿線の住居における環境基準達成率の評価を行っており、測定、評価結果については、自動車騒音対策の基礎資料として活用しています。自動車騒音の環境基準達成率は平成21年以降、約95%で推移しておりますが、100%を目標に取り組んでいきます。
公園の古い遊具を新しいものに更新して、みんなが使える公園にしてほしい。 (類似意見 2件)	公園を改修する際には、アンケートや話し合いをして、地域の意見を取り入れながら魅力ある公園づくりに取り組んでいますので、ぜひご参加ください。
公園のトイレをきれいにし、数も多くしてほしい。 (類似意見 2件)	市内には約900カ所の公園トイレがあり、年数が経ったトイレはきれいに見えないこともありますが、定期的な巡視や清掃を行っています。また、汚れがひどい場合には、臨時的清掃作業も行っています。 公園トイレは、多くの方が利用する施設です。誰もが気持ちよくご利用いただくため、ご協力をお願いいたします。 また、公園のトイレは、場所や公園の規模によって、利用者の多い所と少ない所があります。そのため、利用者の少ないトイレは更新する時期に廃止を検討することとしていますが、利用者の多いトイレはより使いやすくするため、バリアフリー化や和式便器の洋式化などを進めていきます。
木や植物をもっとたくさん植えて自然豊かな街にしてほしい。	色々な人と協力しながら、公園、街路樹、森林等の自然をつくり、守り、育てる取組を行い、みどり豊かで魅力あふれるまちづくりを進めていきます。

施策10: 都市基盤の維持・保全と防災力の強化

意見の概要	市の考え方
クーラーの設置やトイレの改修など、学校設備を整備してほしい。 (類似意見 43件)	学校の施設や設備は、児童・生徒、先生方、保護者や地域の方々など、色々な人が快適に利用できるように考えています。今後も、誰もが快適に利用できる学校施設や設備を考えていきます。
停電などの非常時にも対応できるように、学校の屋上へのソーラーパネルを設置を進めてほしい。	これまで小・中学校の約半分に太陽光発電設備を設置しており、災害時にも避難所の非常用電源として活用が可能です。今後も、太陽光発電の設置を進めていきます。

意見の概要	市の考え方
地震が発生した際にも良質の水を確保するために、上下水道を一定の周期で計画的に補修するべき。	配水管については、定期的な保守・点検や漏水調査を行うとともに、更新計画に基づき効率的に更新を実施しています。浄水場や配水池などの施設や設備については、定期的な保守・点検を行い、必要な修繕を行いつつ、劣化の状況に応じて故障が発生する前に適切に更新します。また、地震による被害を最小限に抑えるため、施設や管路の耐震化を計画的に進めています。
河川の増水氾濫に対する地下街の対策を進めてほしい。	チカホでは、水防計画を定め、洪水時には浸水を防止するための止水板を用意しています。また、直近では洪水ハザードマップによる浸水深の確認を行い、対策が適切かの確認を行っているところです。
浸水の被害を少なくしてほしい。	大雨による浸水の被害を軽減するため、河川改修や下水道の雨水拡充管の整備などのハード対策と、大雨による浸水想定区域の公表や水防活動に役立つ情報提供などのソフト対策の両面から浸水対策に取り組んでいます。
高齢者等が安全に歩ける環境を整備してほしい。	駅の周辺など歩行者の多い広い道路から、高齢者を含め、目の不自由な方や車いすの方など、誰もが歩きやすい道路になるように、勾配を緩やかにしたり、でこぼこを直し段差を少なくしたりする整備を順番に進めています。また冬期には路面の凍結状況に応じて滑り止め材（砂）の散布を行っています。加えて、人通りの多い交差点や急な坂道の前後など、砂箱を配置していますので、必要に応じてご活用ください。
道路環境を良くしてほしい。 (類似意見 8件)	道路のパトロールを計画的に行い、壊れたところを順次直すとともに、街路灯が無い暗い箇所や、明かりが不足している場所などについては、今後、現地を確認した上で、設置を検討していきます。また、ロードヒーティングについては、整備・改修費のみならず、雪を融かすための光熱費に多額の費用を要することから、新たにロードヒーティングを設置することは難しいため、坂道の凍結路面対策として、凍結防止剤や滑り止め材の散布を行っています。さらに、駅の周辺など歩行者の多い広い道路では、高齢者を含め、目の不自由な方や車いすの方など、誰もが歩きやすい道路になるように、勾配を緩やかにしたり、でこぼこを直し段差を少なくしたりする整備を進めます。
歩道を整備してほしい。 (類似意見 4件)	日常のパトロールなどにより、状態の悪い道路の補修を進めるほか、駅の周辺など歩行者の多い広い道路では、高齢者を含め、目の不自由な方や車いすの方など、誰もが歩きやすい道路になるように、勾配を緩やかにしたり、でこぼこを直し段差を少なくしたりする整備を進めます。また、都市計画道路などの重要な道路では、車道を広くするのに合わせて、歩道も広げたり、また、通学路の安全を確保するために、歩道を広げたりしています。
避難所となる施設で、老朽化したものは優先的に建て替えるべき。	学校施設の災害対策として、大きな地震に耐えられるように耐震化を実施しています。災害時にも、市民が安心して利用できるように、これからも対策を進めていきます。

意見の概要	市の考え方
<p>安定的な電力の確保に努めてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>札幌市では、北海道電力と緊急時の連絡体制を整備するとともに、大規模な停電が発生した際に備え、避難所や災害時の拠点となる公共施設の非常用電源を整備するほか、住宅への太陽光等の再生可能エネルギーや蓄エネルギー設備の導入を支援するなど、取組を進める考えです。</p>
<p>白石区北郷の地盤を強化するなど、災害対策をしてほしい。</p>	<p>札幌市には、白石区北郷など、地盤の弱い地域がありますが、それらの地域も含めて、公共施設や道路、上下水道の耐震化や老朽化対策、避難場所の機能強化、停電対策など、災害に強いまちづくりに取り組むとともに、災害に対する十分な備えを市民にお願いしています。</p>
<p>災害に強いまちづくりを進めてほしい。 (類似意見 11件)</p>	<p>地震や洪水等の自然災害に対しては、日頃からの備えとして、防災情報の入手や、避難方法の確認などに役立ててもらうため、ハザードマップの周知を行うほか、建物の耐震化や老朽化対策、停電対策などにより、災害に強いまちづくりに取り組んでいくとともに、災害に対する十分な備えを市民にもお願いしています。</p>
<p>歩きスマホ対策をしてほしい。 (類似意見 1件)</p>	<p>歩きスマホは、他の歩行者との事故などを招きかねない、危険な行為であると考えています。歩きスマホに対する規制・罰則等については、国や他の自治体等の情勢を注視していくとともにマナーの問題として注意喚起に努めていきます。</p>
<p>老朽化した道路や橋を点検し、改修を進めてほしい。</p>	<p>計画に基づいて定期的に道路施設の点検を行い、緊急性の高いものから順番に補修工事を行っています。また、日常パトロール等により確認された損傷についても、順次補修を行うことで道路利用者の安全・安心の確保に努めています。</p>
<p>運動ができるようなスポーツ施設を作ってほしい。 (類似意見 9件)</p>	<p>スポーツを楽しむ環境を充実させることは、スポーツ振興の観点からも、とても有意義なことであると考えています。一方で、財源に限りがあるとともに、札幌市の人口は将来減少傾向に転じることが予想され、将来の需要に見合った施設総量とすることが求められています。今後、スポーツ施設の在り方や、方向性の検討を進めてまいります。</p>
<p>事故を防止するため、信号の設置箇所を増やしてほしい。</p>	<p>信号機の設置についてのご意見は、所管である北海道公安委員会に伝えてまいります。</p>
<p>災害に備えて建物の耐震化を進めてほしい。</p>	<p>多くの市民が利用するほか、災害時に避難場所として活用する札幌市所有の施設について、耐震化や改築等を進めていきます。また、民間の建物に対しては、耐震診断や改修等に係る支援を実施し、耐震化を進めていきます。</p>

意見の概要	市の考え方
移動しやすい道路を整備してほしい	これまでも地域の交通状況などに応じて必要な道路整備を行ってきておりますが、引き続き、今ある道路も活用しながら、必要に応じて拡幅や交差点改良などの整備を進めていきます。
小さい川にかかっている橋を高くしてほしい。	橋の高さについては、川を流れる水の量を考慮して、適切に設計してまいります。
体育館の使用を平等にしてほしい。	一般開放では、施設管理者が交代ルールを定めて運用していますが、全ての利用者がルールを守り平等に利用できるよう、巡回の強化や周知方法の検討等を施設管理者に指示してまいります。
学校に自動販売機がほしい。	小・中学校に自動販売機を設置する予定はありません。
川の清掃をもっと増やしてほしい。	市内を流れる河川については、国・北海道・札幌市が分担・協力しながら、良好な河川環境を保全するための取組を行っています。また、札幌市では、河川の清掃や草刈などの美化活動を行う地域町内会などの団体の支援を行っており、引き続き、良好な河川環境の保全ができるよう検討していきます。
駅のホームの環境も見直してほしい。	利用者からの要望を参考にしながら、より便利な駅を目指して取り組んでいきます。
東京オリンピックに向けた道路等の改修時には、市民に迷惑をかけないようにしてほしい。	工事をする際は市民へ影響が最小限となるよう取り組んでまいります。
災害時も考慮し学校設備にバリアフリー化やユニバーサルデザインを取り入れてほしい。	学校を整備する際には、多機能トイレや玄関スロープを設置するなど、バリアフリーに配慮しています。今後も、児童生徒や先生方、保護者や地域の方々などが快適に利用できるよう、様々な工夫をしながら整備を進めていきます。
建物ごとに消防用設備の強化や消火栓の追加導入について検討してほしい。	屋外の消火栓や建物内に取り付けられている消防用設備（消火のための道具）などは、法律等で決められた個数を満たすように取り付けていますが、消防用設備の設置指導を行うとともに、消火栓が不足とならないよう取り組んでまいります。
災害時を考慮して下水道施設を安全な所に建て直すように検討してほしい。	地震や大雨などの災害を考慮し、災害に強い下水道施設の整備を進めています。また、札幌市下水道BCP（業務継続計画）の策定や災害対応訓練の実施により、施設が被害を受けた場合においても、速やかに下水道機能を確保できるよう努めています。

意見の概要	市の考え方
冬季オリンピック・パラリンピック誘致に向けて設備なども新しくして札幌の魅力を増やしてほしい。	1972年の札幌オリンピック開催によって札幌のまちが大きく発展を遂げ、世界に札幌の名が広まったように、冬季オリンピック・パラリンピックの開催を契機としたまち全体のリニューアルを進め、札幌の街の魅力を高めていきます。
市営住宅を建ててほしい。また、地域の人々との触れ合いの場を作ってほしい。	市営住宅については、将来の人口減少等を考慮し、今後、新たな団地を増やしていく予定はありません。また、地域行事の開催など、町内会・自治会活動をはじめとした地域のまちづくり活動に対する様々な支援や、地域活動に学生が参加する大学との連携などの取組を進めます。

4 各区の取組

南区

意見の概要	市の考え方
公園整備や植栽などにより南区の魅力を増進してほしい。	公園を改修する際などには、アンケートや話し合いをして、地域の意見を取り入れながら、魅力ある公園づくりに取り組んでいます。また、町内会などへ苗を配布し、花植えや維持管理を行っていただく事業を実施するなど、みどり豊かなまちづくりを進めています。
南区にもっと若者が楽しめる施設を作ってほしい。	南区には、札幌芸術の森、フッズスノーエリア、藻岩山など、豊かな自然を活用した施設が数多くあります。これらの施設では、若者が楽しめるイベントを数多く実施しておりますのでぜひご参加ください。

第3章 行財政運営の取組

1 行政運営の取組

(3) 具体的な取組

1 市民・企業などとの協働

意見の概要	市の考え方
札幌市に対する募金を増やす取組を進めてほしい。	市民や事業者の寄付によって、まちづくり活動を応援する「さぼーとほっと基金」という制度を運用しています。今後も、寄付が身近なものになるよう、手軽に寄付ができる仕組みづくりを進め、より多くの人に寄付をしてもらえるよう努めていきます。

2 市民サービスの高度化

意見の概要	市の考え方
新しい技術を取り入れることにより人件費の削減や、効率的な人員配置を行うことで、魅力的な街づくりを進めてほしい。	新しい技術により、市民サービスをより良くしたり、業務の効率化を進める際には、いただいたご意見も参考に取組を検討してまいります。

3 業務の効率化・生産性の向上

意見の概要	市の考え方
業務の機械化により、経費の削減を図った方がよい。	これからの時代、各事業において、最新の技術の活用や業務の機械化などの取組がますます必要になると考えています。今後の事業の見直しにあたっては、そうした視点を常に持ち、検討を進めていきます。
職場の視察やアンケートの実施等をしてしながら、市役所職員の負担を軽減してほしい。	新しい取組を進めるにあたっては、その効果と職員負担などを比べながら、進めてまいります。

4 組織力・職員力の向上

意見の概要	市の考え方
借金が増えないように、行財政改革の取組を適切に進めてほしい。	重点的に取り組むべき事業に資源を集中的に投下していくために、仕事の効率化を図り、必要性や効果が低くなった事業を見直していきます。
市政に関する大事な情報は、市民に広く知らせてほしい。	まちづくりを進めていく上で、市民と必要な情報を共有しながら市政を運営していくことが重要です。市民との情報共有を進める上で、これまででも、新聞やテレビなどの報道機関を通じた発信のほか、広報さっぽろやホームページ、Twitterなどを活用し、広く情報発信に努めてきましたが、今後も、更なる発信力の強化のため、SNSなど新たな媒体の活用の検討を進め、引き続き、市政情報を正確かつ速やかに提供できるよう取り組みます。
市役所内の働き方改革を進める上で、どこかにそのシワ寄せがくることが無いようにしてほしい。	いただいたご意見も参考に、特定の職場に偏りが生じないように注意しながら、仕事のあり方について、引き続き、検討してまいります。
市議会議員の給与を下げ、市議会議員を減らしてほしい。 (類似意見 1件)	市議会議員の定数については、人口の増減や地域特性を考慮して、随時見直しが行われています。また、報酬については、札幌市の財政状況や景気動向を勘案し、第三者の意見も聞きながら決定しています。
公務員の給料を上げるといい。	札幌市職員の給与は国や他の地方公共団体、民間事業所の給与などを考慮して決めなければならないと法律で決まっています。人事委員会が札幌市内の民間事業所の給与水準を調査した結果、公務員の給与が民間事業所の給与を下回る場合には、今よりも給与が上がる場合があります。

2 財政運営の取組

(1) 財政運営の方針

意見の概要	市の考え方
公共事業をもっと進めてほしい。	公共事業については、限られた予算の中で、適切な事業量を確保できるよう努めてまいります。

意見の概要	市の考え方
札幌市の予算をもっと教育関係のことに使ってほしい。 (類似意見 2件)	今回の計画では、教育環境の改善・充実に向けて毎年3校の学校改築を行うほか、少人数学級や奨学金支給の拡大、小中連携・一貫教育の推進など、教育関係に係る取組として4年間合計で924億円を計上しています。 今後も教育に関する社会情勢の変化や市民のニーズに耳を傾け、さらなる充実に向けて検討していきます。
あらゆる種類の税金を地方公共団体が徴収し、必要な分だけ国に渡す仕組みにしてほしい。	国が徴収する消費税や所得税などは教育や介護などの国全体の公共サービスに使われているため、その経費として国が徴収しています。
無駄な支出を減らしてほしい。 (類似意見 1件)	より大切な仕事に力を入れるため、市役所の仕事の本質を減らし、必要性や効果がなくなってきた仕事を見直します。
市民の声を聞きながら、本当に札幌市に役に立つことであれば税を多くしてもかまわない。	人口構造が大きく変化していくなかで、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくために、子ども・子育て支援など、街と人の未来への投資に、積極的に資源を配分していきます。また、経済活性化やまちづくりの取組により税収の拡大を図っていきます。
オリンピックは施設整備などによる財政の圧迫が心配。	オリンピックの施設整備は、既存施設の活用や老朽化した施設の建て替え・改修により対応するなど、新たな施設は極力つからない方向で進めていきます。 また、札幌市の収入は国からの交付金などに頼っている割合が高く、独自の取組に使えるお金が限られているため、観光客を多く受け入れる取組を進めることで税収を増やしていくことが重要と考えています。
建物が壊れて市民に危険が生じる前に老朽化した建物の更新をしてほしい。	今後も老朽化した建物が増えていきますが、これまで同様に計画的に施設の修繕を行いながら、必要に応じて建て替えも行うことで、安全な状態を保てるようにします。
公共施設の取り壊しについては、事前に地域住民に教えてほしい。	公共施設を壊したり建て直す時には、地域の方や施設を利用する方などに事前にお伝えした上で進めていきます。
土地の売却により収入を確保するとあるが、買い手によっては様々な影響が懸念されることから、慎重に検討してほしい。	今後行政での活用が見込めない土地については、民間による地域のまちづくりが進められるよう、売却を推進していきます。 一方で、土地の売却の際には今後のまちづくりへの取組や周囲への影響等について慎重に検討します。

(2) 具体的な取組

2 歳入・歳出の改革

意見の概要	市の考え方
歳入と歳出のバランスを取ってほしい。	学校や公園などの施設は長く使っていくものなので、造るときは市民だけでなく、施設を使う将来の市民にも負担をしてもらうことが必要だと考え、計画的にお金を借りています。 お金を借りる時には、将来の市民の負担が大きくなるように、毎年の収入と支出のバランスをとりながら、しっかりとコントロールしていきます。

意見の概要	市の考え方
消費税が10%になったが、減税または、もっとしっかり分かりやすい税金の使い道を教えてほしい。	このたびの消費税引き上げは、病院にかかったときに支払う費用の一部や老後に国から受け取る年金などに必要な収入を確保するため、国民全体で広く負担するという考え方により行われました。収入の一部は全国の市や町村の収入となるため、札幌市でも今後、子育てや介護の環境づくりなどに活用していく予定です。
お金の集め方を工夫して、サービスアップしてほしい。	札幌市の仕事は税金で行っています。税金をしっかりと払ってもらい、市民のためになる取組に使っていきます。
もっとお金の使い方の工夫を考えた方がいい。 (類似意見 2件)	アクションプラン2019に書いてある取組以外にも、より良いお金の使い方ができるように工夫していきます。
財産の売却は一時的な効果しかないため、その地域に必要なものに活用してほしい。	行政が地域のまちづくりに資する取組に活用している土地は、今後も引き続き活用していきます。今後行政での活用が見込めない土地については、民間活力により地域のまちづくりに活用されるよう売却や貸付を推進していきます。

3 財政基盤の強化

意見の概要	市の考え方
札幌ドームにも、ネーミングライツを活用してほしい。	札幌ドームの活用策を検討していく中で、今後の収入確保策の一つとして、ネーミングライツの導入について調査検討を進めていきます。
老朽化した公共施設を手放したり、ネーミングライツを積極的に活用することで、行政コストを削減したり収入を上げる取組を進めてほしい。	自主的な財政運営を行うためにも、収入を増やす取組は大切です。公共施設マネジメントという取組により、複数の施設の機能を維持しつつも1つにまとめることで施設の数減らし、空いた土地で今後使う見込みのないものは売却を進めていくなど、税収以外の収入を増やす取組も積極的に進めていきます。ネーミングライツについても活用していきます。
市税収入が増えるような取組をすべき。	企業の収入が増えることで、法人市民税（企業の利益に対してかかる市税）が増えるほか、その企業で働く人の給与が増えることにより、個人市民税（働く人がもらう給与にかかる市税）が増える仕組みとなっています。
他の市からお金をもらうのもよいと思う。	他の市からお金をもらうのは難しいですが、それぞれの市町村が別々に仕事をするより、近くの市町村の仕事の一部を札幌市がまとめて行い、それにかかるお金をその市町村からもらう方が節約できる場合があります。これまで以上に他の市町村や北海道と協力して仕事を進めていきます。
ふるさと納税の取組を推進してほしい。	「札幌のスキー場や宿泊施設の割引券・無料券」を返礼品にして札幌観光に来てもらいやすくするというご意見は、札幌での消費量の増加や、リピーター・観光客の増加につながるものと考えます。今後、このような「体験型」の返礼品を増やしていきたいと考えています。

意見の概要	市の考え方
<p>公共施設の老朽化について、修繕や建て替えに係る費用の軽減のため、クラウドファンディングの手法を用いるのはどうか。</p>	<p>建て替えが必要な公共施設は年々増えていきますので、クラウドファンディングなどの新たな資金調達の方法についても検討を進めていきます。</p>
<p>新たな寄付の方法を検討するなど、市民以外からの資金調達もしてはどうか。</p>	<p>札幌市が自主的な財政運営を行うためにも、収入を増やす取組は大切です。ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」から寄付の申込みができるなど、市民以外からの寄付もいただけるように工夫しています。今後は、特定の取組を応援してくれる方々からインターネットを介してお金を集めるクラウドファンディングなど、新たなお金の集め方も検討していきます。</p>
<p>市有地は有望な企業に譲渡すべき。</p>	<p>市で利用が見込めない土地は、財源確保及び公平性の観点から、原則として一般競争入札で売払っています。</p>
<p>空き家や空き地などを公共施設に変えてほしい。</p>	<p>利用されていない土地で今後使う見込みのないものは、まちづくりへの活用の観点から、売却や貸付を進めるなど、公有財産の戦略的な活用を進めていきます。</p>
<p>複数の施設を統合して生じた余剰地や既存施設の余剰地を売却し、そのお金を他の施設の建て替え費用などに充てるのはどうか。 (類似意見 1件)</p>	<p>利用されていない土地で今後使う見込みのないものは、まちづくりへの活用の観点から、売却や貸付を進めるなど、公有財産の戦略的な活用を進めていきます。</p>
<p>公共施設の老朽化対策に税金を使ってほしい。</p>	<p>古くなった建物の建て替えが一時期に集中しないように、可能な限り長く使えるような修理をしたり、更新時期をずらすなどの公共施設マネジメントを進めます。 また、避難場所の充実や、非常用電源の整備など、街の強靱化に取り組みます。</p>

**札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2019
パブリックコメント・キッズコメント意見集**

令和元年（2019 年）12 月発行

編集・発行：札幌市まちづくり政策局政策企画部政策調整課

〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目

TEL (011)211-2206 FAX (011)218-5109

市政等資料番号

01-B01-19-2296